

第 8 回 茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

議題	(1) 平成 31 年度実施市民活動推進補助事業公開ヒアリング及び公開プレゼンテーション
日時	平成 31 年 3 月 16 日(土) 9 時 30 分から 15 時 20 分
場所	市役所本庁舎 4 階会議室 2 ～ 5
出席者氏名	草野正弘 西野義一 森祐一郎 椎野典子 秦野拓也 北川哲也 高橋準治 石田貴一 岩壁榮 水島修一 大江守之中川久美子 伊藤隆
欠席者	事務局 5 名 (市民自治推進課) 石井協働推進担当課長、前田課長補佐、遠藤、柿澤、勝山 なし
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	のべ 48 名
非公開の理由	

○大江委員長

みなさま、こんにちは。只今ご紹介頂きました市民活動推進委員会委員長の大江でございます。委員を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。茅ヶ崎市では平成17年度より、市民活動げんき基金補助制度を運用し、市民活動の推進を図っているところでございます。これまで約140団体に対し財政的な支援を実施してまいりましたが、その中には、自立し活動を飛躍させた団体、行政との協働推進事業や行政からの委託事業を実施するような発展を遂げた団体などもいらっしゃいます。

これから開催いたしますスタート支援事業として御提案いただきました事業は、例年と比較し、市民の満足度の向上が期待される事業の提案が寄せられました。

本日、これから行います、公開ヒアリング会をとおして、提案者のみなさまの事業の提案にあたる思いをお聞きしながら、審査をさせていただきます。

審査については、事業の企画書、収支予算書等、詳細について、慎重に検討してまいりたいと考えております。

では、本日出席している委員を紹介させていただきたいと思います。まず、私の隣が、中川副委員長です。そして前列、西野委員、森委員、秦野委員、北川委員、伊藤委員、水島委員でございます。前列の委員に中川副委員長を加えた7名は、スタート支援の内、Aグループと記載のある事業のテーブルにつきます。次に後列です。草野委員、椎野委員、石田委員、高橋委員、岩壁委員でございます。わたしも含めて、冊子1ページのBグループと記載のある事業のテーブルにつかせていただきます。

これから2時間おつきあいのほど、よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。それではA B各グループに分かれまして、公開ヒアリングを開始いたします。各グループのヒアリングは、冊子1ページのスケジュールを目安に、それぞれ分かれて進行してまいります。ご来場の皆さまにおかれましては、ご興味のある資料のコーナーへ自由に移動していただき、ご見学いただきたいと思います。

また、ご提案団体の皆さまにおかれましてもご移動をお願いいたします。それではよろしくお願いいたします。

【スタート支援Aグループ発表】

○中川副委員長

副委員長の中川と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、早速ヒアリングを始めます。

ひろっぱclubさんですね。よろしくお願いいたします。最初に3分から5分ぐらい、事業内容をご説明ください。よろしくどうぞ。

○ひろっぱclub

ありがとうございます。ご紹介にあずかりましたひろっぱclubです。代表の中川です。

○ひろっぱclub

会計を担当していますオオツカと申します。

○ひろっぱclub

広報等を担当していますアメミヤでございます。よろしくどうぞ。

○ひろっぱclub

本日は、パワーポイントを使つての説明をさせていただきます。

私たちは、野外での四季折々のイベントを通じまして、地域のつながりを求めている団体です。

活動拠点となります（通称）赤羽根山広場について、まずご説明いたします。

茅ヶ崎市の地図を出しましたが、四角で囲まれた部分を拡大します。

このようになっております。新湘南バイパスを北上しまして、ちょっと映像が薄くて申しわけないのですが、坂を上がり切ったところを左側に細い道を行きますと、あります。航空写真に映しかえますと、右上に見えますのが大庭台墓園、左上に見えるのが湘南カントリークラブになります。

枠で囲った部分、非常に緑豊かに見えると思うのですが、上空からだとはわからないと思うのですが、上と下の部分では、高低差が20～30メートルありまして、この部分は斜面、斜傾地になっております。今、人形を出しましたが、この人形から、細い道を通って、赤羽根山広場まで、スライドでご案内します。

このようなのかな農村風景です。富士山が見え、すごく散歩の方が多い場所です。

北側を向きまして、細い車がやっと1台通れるような道を、切り通しと言うんですか、こういう道を上がっていきます。見づらいかもしれないですが、シダがものすごく繁って、茅ヶ崎とは思えない、緑豊かなほうの茅ヶ崎という形になります。頑張って上がったところが、このような開けた土地になっていまして、奥に見えますのが、湘南の丘という老人施設です。手前にある部分が、みんなでやっている家庭菜園と、その奥に赤羽根山広場と呼んでいる場所があります。

次に、赤羽根山広場についてご説明いたします。

こちらのほうは、7～8年前まで、地権者の方の管理が難しくて、草ぼうぼうで、藪のようになっていまして、狸がすんでいたようなところですが、近所の方と草を刈ったり、木を刈ったりして、地権者様と契約を結びまして、草とかを管理してくれるんだったら使っていていいよという契約をきちんと書面で結んでおります。

手前のところは、月極め駐車場として地権者さんが利用されています。

奥に1本木があったんですが、7年たってだいぶ大きくなりましたので、自作の看板をつくりまして、注意事項等を書いています。

ピザ釜は、こちらにいるアメミヤさんたちが格安で自作で数年前につくってくださいました。

次に、イベントについて説明します。

代表的などんど焼きです。7年前からやっているのですが、このようなポスターをつくって掲示したり、配布したりして、参加者を募っています。たき火でだんごを焼くという単純なイベントですが、子どもからお年寄り、学童の方や老人施設の方もたくさんいらっしゃいます。自治会長や、だんごをつくったり、ピザを焼いたりしています。

もう一点、芋煮会を去年初めてやったのですが、晴天に恵まれ、大変多くの方に参加していただいています。市の防災鍋を借りて、100人分つくりましたが、あっという間に売り切れました。チーズフォンデュをやったり、五平餅を焼いたり、非常に楽しかったということをいただいています。

これまでのイベントについて、ざっくりですが、このように年間を通じて4～5回何らかの催し物を行っています。

最後になりますが、これは茅ヶ崎市の公園の地図です。該当地域を拡大しますと、ご覧のようにほとんど公園がありません。南北に行くには、坂がありまして行けません。お年寄りの方が歩いていくのは非常に困難です。右は霊園、左に行く道は、今、途絶えていますということで、非常に隔離されているのですが、公共のバスもなく、また、コンビニも1軒也没有ません。このような隔離された土地では、助け合いの精神が必要という必要性にかられまして、私たちはこういう広場を管理して、イベントを開催しています。

また、あと2点大事なことがあるのですが、2点目としましては、そういう隔離された地域だからこそ、非常にのどかな自然が残ってしまして、どんど焼きや焼き芋は市街地では難しく、ただ、緑が豊かな緑きらめくまちをうたっている茅ヶ崎にとっては、それはそれで財産だと思いますので、有効な活用ができていますと思います。

3点目は防災の観点なのですが、該当地域は広域避難場所である湘南カントリークラブの手前に位置します。災害時は多くの方が避難経路として利用されることが予想されますが、大半の道路が車のすれ違いができないような道です。いざというときに備えてスペースを確保する、普段から顔の見える関係性を築いておく、また、イベント自体が防災訓練にもつながっていますので、限られた地域のことではありますが、市全体の公益性につながる活動だと考えています。

今後は、イベント時に入会案内を配布するなど、広報に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。ありがとうございました。（拍手）

○中川副委員長

ありがとうございました。大変わかりやすい説明でした。

これからご質問がある方は、どうぞ西野さん。

○西野委員

1点質問がありまして、催すに当たって、食材はどちらから購入されているのか。例えば、地産地消という形で地元の農家さんから入手したりとか、あるいは、JAさんから入手したりとか、その辺のご検討はされているのかなと思ひまして。

○ひろっぱclub

もちろん足りない食材はスーパーで買いますが、芋煮会は、全面的に近隣の農家の方が無償で里芋とかを提供していただきますので、経費にも計上しておりません。焼き芋のときのサツマイモなんかも、全部は無理かもしれないのですが、近くでやっている家庭菜園で芋を植えて、そこで芋掘りをして焼き芋をするというふうにも考えていますので、基本的には地産地消を重視しております。以上です。

○伊藤委員

立派な、大変ご丁寧な説明で、すごくわかりやすかったと思います。これだけパワーポイント、写真を使い切れるスタートアップ支援の団体は、私もこれを7年やっていますけれども、初めてです。

そこで質問なのですが、これまでにずっと活動をされてきて、実績を上げられていますが、どうして今回応募なさったのでしょうか。これまではどうやってお金を工面していたか。

それから、スタートアップということで、今後どうするつもりか。会員をふやしたり、あるいは、参加者をふやしたり。過去と未来について、思いを、あるいはご計画、実績をお話しいただけますでしょうか。

○ひろっぱclub

これまでは、書きましたが、参加、近所でやっているという感覚でだんだんに起きていきますので、そのとき、そのときで会費を集めて参加費という形でやっています。物については、ほかの自治会さんからのお古をいただいたりとか、あと、近所で物好きというか、野外のイベントが好きな方がもう使わないというものを使わせていただいたりとか、何となくできる範囲ではやっていたのですが、正直言ひまして、もうちょっとうるさいのがあったらいいなとか、この辺が老朽化しているよねという部分で、今回スタートアップ支援に応募させていただいたという次第です。

今後につきましては、もともと地域住民の高齢化が進む中で、関係性を、近所のつな

がりというのをもっと大事にしていくべきだという考えがありまして、休耕地、畑がもうできないという場所がすごくあるのですね。そういう部分を持ち主の方とかけ合って、区分して、みんなで家庭菜園をして関係性を築けたらという形で活動しましたところ、すごく関係性ができたので、そこをまた土台にしてイベントを開催して。

ただ、もちろん私たち自身がつながることも大事だし、すごくここでやっているこのイベントを楽しみにしてくださっている、私たち「下の界限の人」と言うのですけれども、浜竹とか赤松とか、あちらの方もすごく喜んで、あと、学童さんとか、介護施設の方もすごく来てくださいますので、この土地を知ってもらうこともいいですし、こののどかな財産をみんなで味わえるようにしたらいいなと思います。

今後は、先ほども言いましたけど、他地区からお散歩に来ている方が、毎日お散歩に来ている方が、すごくいらっしゃるのですよ。もったいないという言い方は違うかもしれないのですが、元気な部分は自然だと思うのですよね。そういう方たちも活動にもっと積極的に恒久的に参加していただいて、休んじやっている畑、いわゆる草ぼうぼうな場所がたくさんありますので、その辺の活用につなげていき、あと、さっきのスライドで見せた土地も、すごく枯れ葉が多いのですが、なかなか市は掃除するまでいなくて、ただ、あれってすごくクヌギの葉っぱが多くて、集めて堆肥にしたらすごくいいのですよ。人手があれば、藤沢だと堆肥場をつくって、それを安く市民に与えているという話はあるのですけれども、そういう活動も、場所も資源もあるので、人の手さえあるとできるなというふうには考えています。

○伊藤委員

スタッフの方はどうやってふやしていくお考えでしょうか。3人、一生懸命だと思いますが、今言われたような活動をするには、スタッフをいろいろな形でふやさなければいけないと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○ひろっぱclub

先ほど中川のほうからの話もありましたけれども、地域の中で、1つの特徴として、変なブランコがあります。そのブランコが結構人気でして、ですので、ほかの地域、先ほど浜竹の話もありましたけれども、あの辺の高齢者で元気な方たち、そういう人たちがほぼ毎日散歩コースに使われている。最近、そこにお孫さんを連れてこられる方がいらっしゃるのですね。また、そのお孫さんが今度子どもたち、学校の仲間とか、あそこのブランコがあつておもしろそうということで来られるというような形で、人の広がりが少しずつ広がっています。それから、地域も広がっている。それから、その中で年齢的にも、大体あの辺を散歩する人で若い人はいません。時間のある、ある程度達者な人。そういった人たちがかなり来ていらっしゃるの、今、そういった人たちに声をかけながら広げている段階です。

実際に具体的に動けるスタッフは、例えば、その中で、つい最近お会いしました方、63歳の方かな。そうしたら、お孫さんが、おじいちゃん、おじいちゃんと言って、校長先生、校長先生と言い始めて、その方はもともと校長先生だったのですって。ですので、それが定年退職で来られて、孫を連れてきたのだけれども、最近は孫に連れられてきているということですね。いつもいらっしゃいます。

そういった方たちで、今までやられてきた仕事の延長で、幾らでも活動できる人がいらっしゃるのですよね。大体サラリーマンというのは、定年とともにほとんどなくなっちゃいますので、そういったところも逆に私なんかは一緒に生かしていただきたいなと思います。ですので、定期的というか、あそこは、イベントだけじゃなくて、日常的にある場所なのですよね。ですから、そういったところへ集まってこられる方、そういった方たちと一緒に日常的な活動の拠点を広げていきたいと思っています。

○ひろっぱclub

もう一つ、子どもが非常にたくさん利用するということです。イベントには近くの子どももそうですけれども、下から松林、小和田、室田の子どもたちがたくさん上がってきます。それが本当にびっくりするくらい、子どもが山のように、このくらいいましたっけ？というくらい多くの子どもたちが集まります。

○中川副委員長

自治会の活動との関係と伺いますか、先ほど、農家さんとか、土地所有者との契約みたいなことで上手に使っていらっしゃると思うのですけれども、自治会活動とかそういう活動とどんなふうに連携されていますか。

○ひろっぱclub

きょうおりますこの3人のほかに、会計監査をしている地域のスタッフがありますが、もともとは自治会の役員です。そういった方にも協力していただくということと、それと、正直言います、山の上、標高52～53メートルあります。それから、下の人たち。下の人たちというのは、何百年も前から住んでいらっしゃる方が多い。鎌倉時代の古い家があるような場所ですから、そういった人たちと多少の温度差はあります。あるのですけれども、山の上のやっていることに関しては、先ほど会長さんからも出てきていましたけれども、皆さんそれぞれにいい意味での無関心と、要するに、やりたいことをやっていいよと。110軒ぐらいありますから、自治会の組としても5～6組分あります。ですから、そういった中で、もともと全員が自治会員ですから、こと山の上のことに関しての自治会の加入率は九十何パーセントありますから、そういった中では、特に自治会との問題が起きるとか、それと、あと、今後、我々がやっていきたいのは、自治会からいろいろなものを提供してもらおう。それは、お金は今、自治会も余りないと言っていますから、人力にし

ても、餅つきなんかのときも、自治会からいろいろなものを借りてきます。そういうような形で、協力はかなり進んでいます。

○中川副委員長

地権者との関係とか、地域組織との関係とか、上手にやりながら、活動の安定性みたいなものを持っていただくといいかなと思います。

○ひろっぱclub

先ほど言いましたように、周りの農地は何十代も続いている農家ですから、その方たちと一緒に話をしていると、そこにもお孫さんがいます。そのお孫さんとも一緒に遊んでいます。

○水島委員

今の質問の関連みたいな感じで申しわけないのですが、最初に感じたのは、とても楽しい取り組みだなと思いました。これをきっかけに地域のつながりというのをさらに深めたいという意識がおりなのだろうなと思って、その辺、今度、こういう予算がついたときに、もう少し今と違うことを検討しているのであれば教えていただきたいのと、あと、防災とか安全の話の説明が資料の中に多く出ておりました。この地域は、たぶん市街化調整区域なので、大幅にこれから人口がふえていく地域ではないのかなという気がします。そうすると、災害とかがあったときには、どうしてもそのエリアの自治会とか、わりと身近に住んでいる方との連携というか、顔見知りの関係ができてると非常に有効なのかなと思うので、そういう催しをやるときには、そういうところにもうまく広報して、参加できるような工夫がされているのかなと思うので、もしその辺のところでお考えがあったら教えていただきたいのですが。

○ひろっぱclub

勉強になりますね。そういう観点もあるということも広報に盛り込んで、参加者にそういう意識づけをするというのは大事かなと思います。

○ひろっぱclub

それと、住民構成で、確かに高齢者は多いです。高齢者が多くて、今問題になっている、買い物の足をどうするかというところの問題。それとまた、あの辺は市街化調整区域ですから、地価が安いのです。それで、子どもたちに伸び伸びとした生活をさせたいという気持ちのある方たちは、最近かなり引っ越してきています。ですので、逆に小学生なんかもかなり多い。幼稚園も。真ん中の親世代がコアになって、その上下が結構多いのですよね。そうすると、だからこそこういった伝統的なことを継続していきたいということ。

それから、もともとあるところには、まだ井戸のある家庭が何軒もあります。今、その中で検討していますのは、そういった井戸を災害時にどうやって活用できるか。山の上ですから、場所によっては80メートルぐらい掘らないと水脈に当たらないというところもあります。また、そのほかにも10メートル前後でも掘れるところがありまして、現実に使えるのは10メートル前後のところがあります。そうなりますと、電気がなくなったときにどうするか。そのときには、用意ができているのは発電機。そういうのを持っている人たちが何人もいます。そのところから発電機を出してもらう。そこで井戸の水を利用できる。そういったことを着々とやっています。ですから、私の希望としましては、今回、初めてのあれですけれども、今後の形として、そういうものを継続的にうまく使っていけるようなところで、こういった資金や何かも利用できればというふうに思っています。

○中川副委員長

ありがとうございました。地域資源を最大限活用して、みんなのいろいろな意味での公的な役に立つような活動に広げていっていただきたいと思います。

ありがとうございました。

○ひろっばclub

どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

それでは、リトルピンク様、ご準備のほうはよろしいでしょうか。

それでは、「世界の子供の未来を守るチャリティーコンサート～Dance for smile～」のヒアリングを開始いたします。中川副委員長よろしくお願いします。

○中川副委員長

副委員長の中川と申します。よろしくお願いします。

早速プレゼンテーションをお願いいたします。

○リトルピンク

バレエを楽しむ団体を運営しています熊澤と申します。

今回初めてとなるチャリティーコンサートを開催することを決めまして、11月29日、茅ヶ崎市文化会館の小ホールを利用しまして、「世界の子供の未来を守るチャリティーコンサート～Dance for smile～」という名前つけさせていただいて、バレエ、フラ、バトン、チアの4団体でダンスのコンサートを開催いたします。

お客様に無料で観ていただきまして、私たちのパフォーマンスを観て、その感動、または、このチャリティーコンサートに対する趣旨に賛同していただいた気持ちを、ホワイ

エに募金箱を置いて募金をしていただく。そして、そのお金をアフリカや東南アジア、世界の困っている人たちに、ユニセフや海外協力医師団体などの団体を通して寄附をするという、そういうコンサートになっています。

このコンサートには、3つの観点からの効果があります。それを1つずつご説明いたします。

まず1つは、踊り手からの観点です。これは、参加者のほぼ全員が茅ヶ崎の子どもたちに当たりますが、単純に文化会館というすばらしい場で、表現の場、自己表現の場となり、それはとても喜びにつながりますし、自分の自信につながります。

また、今回、バトンの団体、チア団体、この2つの団体は、比較的規模が小さく、また、立ち上げたのが昨年ということもあって、まだ大きな舞台に立った経験がない。また、出られても屋外のステージであるという団体様なのですね。なので、今回が初めての文化会館でのステージになります。そういう小さな団体の支援にもつながっています。

そして、これが一番大きな効果と思いますけれども、社会貢献という経験なのですが、多額のお金を出すとか、そういう難しいことではなく、小さな子どもでも、自分の好きなこと、また、特技というのですかね、今回はダンスという形ですけれども、そういうことで人のためにつながるといふ、そういう経験ができる場となっています。また、今回、矛先というか、対象になるのが海外支援ということなのですから、グローバルな観点を持ってもらいたいという効果もあります。

次に、観客の効果です。半分は親御さんたちになるわけですが、小さなお子さんたちの成長の場を見られる楽しみの場となります。また、4つの団体が混ざっているということで、いつもよく目にしている自分たちの団体以外のものも楽しめて、感動になります。また、その気持ちが募金につながり、お客様も、私たちの感動がほかの人の役に立つのだという経験になります。また、チラシの中に、ユニセフなどの団体のチラシを挟みますが、その団体を知ってもらいたい支援のきっかけにもなります。

そして、3つ目の効果は、もちろんそれを受け取る世界の困っている人々になります。補助食品、ワクチン、教育費などに充てていただくことになります。

そして、このコンサートの公益性なのですから、先ほども言ったとおり、小さな団体の支援、また、未来を担う茅ヶ崎の子どもたちの教育の場というふうに捉えています。自分の好きなことで人の役に立てる体験というのは、大きくなってからも大きく開花することになると思いますので、すぐ結果が出なかったとしても、種をまくような、非常にいい経験だと思います。

また、演者のほうも、観客側からも、楽しかった、感動したという気持ちが、海外支援という矛先以外にも社会貢献の気持ちの火種となって、この楽しかった気持ちで、例えば、買い物をしたときに、募金箱があったら、そこに入れようという気持ちにつながり、あらゆる困っている人々に対する関心を持つきっかけになればと思っています。

また、今まで茅ヶ崎では、このような海外支援イベントというのはあまり見られなか

ったように感じられます。このイベントがその先駆けとなって、これからグローバルな人材育成の一つになればと思っています。まさにこのコンサートは社会貢献の心を育むコンサートとなり、その輪が広がっていけばいいなと願っています。

そして、このコンサートの発展性なのですが、もし今回初めて助成金で助けていただいて、開催にたどり着けましたら、その実績をもとに、今後は協賛してくれる企業や店舗などに協賛のお金を援助していただいて、その企業をパンフレットに記載していたり、ホワイエでフェアトレード商品を販売したりなど、さっきは3つの観点からの効果とお話ししましたが、4つ5つと、もっと多方面での相乗効果が見込めるように、チャリティコンサート継続をしていきたいと思っています。

以上です。

○中川副委員長

ありがとうございました。

それでは、質問に移ります。どなたかどうぞ。

○森委員

この事業で重要なところは、社会貢献に対する本気度があると思うのです。実際に募金に対する目標値とか、それをどういった形で積み上げていくとか、その数字まで積み上げていくかとか、そういったところはお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

○リトルピンク

一応、今回のコンサートの目標は10万円を目標としています。なぜ無料にしたのという質問もありましたし、お客様から、例えば、500円の入場チケットを取れば、もう少しスムーズになるのではないかという話もありましたけれども、このコンサートは、寄附金額を10万円達成することが目的ではなく、まず、先ほど言いましたが、小さな団体の支援であったり、子どもたちが素直に舞台に立てる喜びをつくる場でもありますので、まずは無料にして、一般のお客様が来てもらう。満席の、客席が全部埋まる状態にして、大きな拍手をもらうという、そういう単純にコンサートとしてのすばらしさも伝えたいと思っているので、できるだけ多額のお金だけを集めることを目的としたものではないのですね。複合的なものだと思います。

もちろん、その金額は大きくなればなるほどいいのかもしれませんが、援助というのは、一度に満足した金額を1回に渡すことがいいのではなくて、それが少なかったとしても、継続していく、あと、関心を持ち続ける、無関心でいないということが大事だと思うので、幾らだけを達成するとか、そこが一番目標だとは思っていないので、もちろん、多く集まるように、できるだけ高いパフォーマンスをして、それに感動して、心が動かされて、それを募金につなげるという形をとっていきたいと思っています。

うまく伝わったかわからないのですけれども。

○森委員

最後に一言だけ。私もそう思います。重要なのは、未達に終わった場合、どこが足らなかったかというのを真剣に考えることができるかどうかだと思うのです。だから、ただイベントをするだけでは、学芸会ということになってしまうので、そのところが重要だと思っておりますが。

○リトルピンク

そうですね。もちろん、ただ舞台に立てたことに満足をして、目標額に達成しなかったことは、まあ、いいのじゃないかというふうにするつもりはもちろんなくて、できるだけ、あと、この団体、例えば、ユニセフとか国境なき医師団、あと、もう2つ3つぐらい、一応想定はしているのですけれども、その人たちのチラシも含めて、まず知ってもらう、認知してもらうという機会にもつなげていきたいと思っているので、そのチラシを挟んだりとか、あと、今後、助成金をなく、このコンサートを開くときに、つてがある、知っている7店舗ぐらいのお店に、その気持ちをしっかり伝えて、協賛の形をとって、コンサートを開催していきたいなど。パフォーマンスも向上して、チケットも有料化できたらなと思っています。500円程度からと思っています。

○森委員

ありがとうございます。

○伊藤委員

国際協力にかつて関係していたので、無数の質問があるのですが、申しわけないですが、3つ短くお答えいただければと思います。

1つは、たくさんの目標があるものなのですが、タイトルからすると、チャリティーという名前で、これは、一般的には、演者がチャリティーで、観られない人にパフォーマンスを観せるということだと思うのですが、先ほどからおっしゃっている目標からちょっと違うような気がするので、そこをどうお考えなのかというのが1点。

2点目が、国際協力の募金活動は、学校をはじめとしていろいろなところでやっているのですが、ここにある国境なき医師団、ユニセフ等々は、テレビのコマーシャルが盛んで、私が非常に気になっておりますのは、途上国の子どもたちを実名で挙げて、皆さんの支援がないとあした死ぬというようなことを何年も続けている。その結果報告が実をいうと、幾つかの団体では、先ほどおっしゃった報告書には書かれていない。非常に大きな人権侵害だと思うのです。と同時に、自分たちの募金活動に対する責任が余りない団体だというふうに思うのですが、そこをどういうふうに皆さんは補完していくつもりなのか。

どういうふうに皆さんに説明していくつもりなのかということ。

最後に、事前質問で、経口ポリオワクチン、補助食品の購入に充てるというふうにおっしゃっていますが、これは、極めて具体的なので、何を考えているか、そこだけを具体的に教えていただければ。3つ、時間がないので、短く。申しわけないのですが。

○リトルピンク

実は、ユニセフ、国境なき医師団以外にも。というのは、皆さんがよく知っている団体だと思ったので、例として挙げさせていただきましたけれども、そのほかに、実はメインとしているのは、小さな団体でアシャンテママという、アフリカの、ぜひ調べていただきたいのですけれども、アシャンテママという、日本人の一人の女性が、アフリカの女性、子どもたちの支援をやっているNPO団体です。ここにメインにやるつもりでいるのですね。あと、インドの児童労働を支援しているエースという団体もあります。ACEですね。記載しなかったのは、ずらずらと長くなってしまうので、まずはとりあえず皆様が知っている団体を先に書きました。

大きい団体であればあるほど、本当にそのお金というのは正しく使われているのだろうかという問題は必ずあります。それは、本当に内部の人しかわかりません。私も何とも言えません。ユニセフの人間ではありませんので。言えないのですけれども、そのACEとアシャンテママをメインに寄附はしたいと思っています。これは女性が1人で個人的にやっているので、ぜひ調べていただきたいと思います。

ワクチン、補助食品は、私が愛知万博にちょっとかかわったことがあるのですけれども、そのときに国境なき医師団の方たちがブースを設けていまして、そのときにこの2つが非常に大事であるという説明を受け、それに影響を受けて、私もスイスの難民センターにダンスのボランティア活動に行っておりました。その経験から書いております。

例えば、ユニセフだったら、募金の対象にも幾つか種類がありまして、自分で選べるようになっています。自分のお金を何に使ってほしいのかというふうな選択できるようになっておりまして、それを選択しようと思っています。

3つ目が。

○伊藤委員

チャリティーという名前と募金という名前、二兎、三兎を追っている感じが、少し悪い言い方をすれば、思うのですね。今のご説明のように、皆さんに公開している表現と、隠された、あるいは、別な意義がたくさん見え隠れするので、今後、整理していかないと、これは募金活動だということのように理解しましたので、信用が第一だと思うのですね。チャリティーという名前がふさわしいのかなと思ったのですけれども。

○リトルピンク

なるほど。題名は、まだ決定というか、どこにも、もうこれでというふうに記載をして何かを宣伝するという形ではないので、いま一度協議する時間はまだあると思うのですが、開催も11月ですので。まだまだほかにも先生がいらっしゃいますから、もう一度、きょうはいらっしゃっていませんが、私が主宰者なので1人で来ましたけれども、もう少しきょう皆さんにお話ししたように、ほかの団体の先生たちとお話をして、題名に関しても、まだ検討する余地はあるのかなと思います。

○伊藤委員

スタートアップなので、いろいろな問題、あるいはいろいろな思いがあると思いますが、今後続けていくためには、いろいろな形で整理していったほうがいいかと思います。

○リトルピンク

そうですね。正直、初めてのイベントなので、私もまだ整理し切れていないところはあると思いますので、貴重なご意見だと思います。ありがとうございます。

○水島委員

私の見方はちょっと違っていて、まず、自分たちの、要は文化活動というか、そういう活動をさらに充実するために助成金を受けて、あわせてそれが社会貢献につながるといいなというイメージの事業なのかなと思っていました。そういうふうに思っていたので、その視点の質問なのですが、今回、この助成金がオッケーになった場合について、自分たちの活動、発表の場がふえるだけではなくて、活動を充実するために、それぞれの4団体さんが出てきたりするのですけれども、これから、そういうものを助成金を受けながら活動していくところで、充実を特にしていけるようなものというのは、何かイメージ的に持っていられますか。何かこういうことを取り組んでいきたい。

○リトルピンク

一応、もう既にずっとマンスリーサポーターとして、活動の一部を寄附に充て続けていたりとか、できるだけ社会貢献の役に立ちたいという思いでやっておりますので、昨年も2つのチャリティーの活動に声をかけていただきまして、ハマミーナで開催している、茅ヶ崎で例えば街灯が壊れたら、その修復に使うというようなライブにも出演させていただきましたし、あと、対象は障がいを持っている方たちに向けてですけれども、そのチャリティーコンサートにかかわらせていただいたりとしていますので、今後もお声がかかれば、足を運んで踊らせていただきますし、前回もハマミーナで踊ったときは、自分たちのパフォーマンスの後に、マイクで、ぜひ、今感動していただきましたらお願いします、みたいなことでやらせていただいたのですけれども。

○水島委員

次の団体の活動の場がふえるということはわかるのですが、組織自体がさらに充実して、中身をいろいろなものをやれるようにということではなくて、今ある自分たちのできることをいろいろな発表の場を設けながら、社会貢献というところにつなげていくというイメージで捉えてよろしいですか。

○リトルピンク

そうですね。そうだと思います。

○中川副委員長

時間がきましたけれども、少し活動の重点といいますか、いろいろな側面があるので、たぶんチラシなんかは、助成金が下りた場合ですけれども、どういうふうにつくってというのが大変重要になってくると思いますので、その辺を皆さんでよくよく検討して、趣旨がきちんと伝わるようにお願いしたいと思います。

○リトルピンク

ありがとうございます。ありがとうございました。（拍手）

○事務局

では、ガーゼ帽子を縫う会様、ご準備のほうはよろしいでしょうか。

それでは、「触診モデルを用いた乳がん啓発活動」のヒアリングを開始いたします。副委員長よろしくお願いします。

○中川副委員長

中川と申します。司会をさせていただきます。では、3分から5分で最初にプレゼンをお願いします。その後質問になりますので、どうぞよろしく。

○ガーゼ帽子を縫う会

ガーゼ帽子を縫う会の副代表のイシバシと申します。本日は、このような会のお時間をつくっていただき、ありがとうございます。本日、代表をしております吉田がどうしてもほかの活動で時間がとれなく、代表に代わって、私、副代表のイシバシが説明させていただきます。よろしくお願いします。

まず、代表の吉田が乳がんになったとき、彼女は41歳で、子育ての真っ最中でした。子供を産んだ後で乳腺炎になったこともあり、しこりがあって、さほど気にもとめなかったそうです。ある日突然、乳頭から出血で、あわてて検査をした結果、乳がんの宣告を受けたそうです。ある日突然のがん患者になったわけです。その辛い闘病生活の経験を得て、

がんになった人しかわからない気持ちを共有したい。何か自分にできることはないかと考えたときに、乳がん体験者コーディネーターという資格を取得。その後、再発の抗がん剤で、もう一度体験を得て、現在、平塚共済病院でたくさんの乳がんの患者さんたちのサポートをしています。

彼女が10年サポートしてきて思うことは、今までは、乳がんになってしまった人のサポートをしてきたけれども、乳がんという病気は、とにかく早期発見できれば、決して怖い病気ではないということを感じ、サポートと同時に、このごろは啓発活動にも力を入れてきています。

いろいろな場所で啓発をさせていただくようになってきましたが、なかなか個人だけの活動では予算が大変なのも事実です。現在、出ている表を見ていただくとわかるように、茅ヶ崎をはじめ、湘南地区は特に乳がんの検診率が極めて低いのがおわかりいただけだと思います。山北町とか愛川町とか、北のほうでは30%を超える地域もあるのですが、湘南のこの辺は、特に10%台とか、極めて低いのが目立つのをおわかりいただけだと思います。

啓発をしていると、啓発のモデルを触って、触診モデルを初めて触られるという方が、こういう啓発の活動をしているのですけれども、触診モデルを使って啓発していると、こんなに強く押して確認するの、とか、こんな奥のほうにある場合があるのだと、いろいろな質問をされることも多々あります。代表の吉田もそうだったのですが、誰もまさか自分ががんになるなんて、私には関係ないと思っていらっしゃる方が、啓発活動をしていると、物すごく多いと感じます。

今、神奈川県で推している「未病」というテーマは、まさに触診モデルを使つての乳がん啓発活動というのもその一つになるのではないのでしょうか。吉田は、2度の抗がん剤で本当に辛い思いをしています。少しでもその辛い体験をしないで済むような人をより多くと思って、日々活動しています。

現在、その活動の触診モデルを借りている状態なのです。そして、ブースを出したり、活動費全般も、私たち個人で出したりしているのが現状です。茅ヶ崎にでも少しでも活動が広がっていけるように力を貸していただきたく、今回、げんき基金というのに応募させていただいた次第です。どうぞご検討のほど、よろしくお願いします。

すいません、たどたどしく文章を読むようなプレゼンで申しわけないのですけれども。

○中川副委員長

ありがとうございました。

では、これから15分ほど質疑応答に入りたいと思いますか、いかがですか。

○森委員

昔、病院で主催した、妻と一緒にそういった講演会に出たことがあるのです。そのと

きの印象としては、乳がんというのは、意識していれば、わりと見つけやすいというか、腫瘍が2センチ近くになっても、リンパ節に転移していなければ、ステージ1だったり。だから、結構早めに見つけられるチャンスがあるというのは、素人ながら感じました。

この提案のプランは、資料はこの1枚なのですかね。

○ガーゼ帽子を縫う会

資料はほかにもいろいろやりながら配っている資料というのはあるのですが、そういうものの予算も、今、自分たちの自腹でつくっているのです。

○森委員

言いたかったことは、おそらく30代ぐらいから女性は意識されるのではないかなと思うのです。若い世代にもっとこういったことを、実感がないときから、学校とか、PTAを通じてとか、何か書いてありますけれども、例えば、学校で何かそういった年に1回の講演とか、そういう機会を設けていただければ、何か頭に残っていて。

○ガーゼ帽子を縫う会

吉田も、この啓発とは別に、今、子どもにがんになったときにどう伝えるかとか、がんになる前にそういう検査とかをするという別の活動もいろいろしているのですが、今回、この啓発というのが、とにかくおまつり、今、これは、平塚の運動公園でやっているときの写真なのですが、若いお母さんたちが結構来るので、そういうときに、ちょっと触ってみませんかという、普段触ったことのないような子が結構触って、こういう感じなのだという感じを覚えてくれていると、帰ってから、これをいつも渡しているのですが、お風呂に入ってから石けんをつけたときに、こういうふうにとわりやすいよとかというふうにとわり、安心してそのお母さんたちも帰っていけるのですよ。

ただ、そういうイベントじゃなくて、何かでやりますよというときに、いざ来る人というのは、時間がある人で、こういう講演に来るお母さんたちは、普段は忙しくて、なかなか自分の体をメンテナンスとかしていないことが多いのですが、ここを触って、じゃ、きょう、お風呂に入ってから検査してみますとかいう、とにかく乳がんというのは早期発見だと。決して怖い病気じゃないといつも吉田が言っているのです、ぜひこういう活動を。茅ヶ崎には今まで余り啓発活動をしたことがないのですよ。それは、これからいろいろなおまつりのときにこういう啓発をさせていただきたいなと思って、今回、応募したのですけれども。

○森委員

病院の定期検診に結びつけてできたら。

○ガーゼ帽子を縫う会

そうですね。検診率がとにかく茅ヶ崎も平塚も藤沢もすごく低いので、それに結びつけたいなとは思っているのですけれども。

○伊藤委員

触診モデルをアマゾンで見ますと、2社10種類挙がっているみたいで、1万円から8万円。このモデルのすぐれた点、あるいは、このモデルじゃなきゃいけない点はあるのでしょうか。

○ガーゼ帽子を縫う会

今、共済の病院のほうでいつも借りているのですけれども、医療のあれで、ここに載せた触診モデルというので。

○伊藤委員

ヒューマンボディ。

○ガーゼ帽子を縫う会

はい。これが使っている中で一番いいモデルというか。あまり安いのだと、いろいろな人の手が触るので、劣化も早いのですよ。なので、一応このモデルが基本皆さん触診モデルで使われているというので、今回載せさせていただいたのですけれども。

○伊藤委員

後学のため、何回ぐらい使えるものなのでしょうか。

○ガーゼ帽子を縫う会

何回というあれは。

○伊藤委員

故障とか、そういうのはない。

○ガーゼ帽子を縫う会

ないですね。押す感じもあるし。お子さんとかがたまにママと一緒に触りに来るのですけれども、汚い手で触るときがあるので、そういうときは結構汚れちゃったりとかするので、そんなにすぐに壊れるものではないですね。ただ、お値段が、これは感覚的に人体に一番近い感じのモデルなので、一番わかりやすいというので、これが使われているのだと思いますけれども。

○伊藤委員

病院でもっとそういったデータがあったほうがいいと思いますし、似たような団体同士で連携して、どのくらい使えるものかというのをはっきりしないと、なかなか個人の活動から、あるいは小さな活動から一歩飛躍できないと思うので、ぜひともそういった点を克服されるように願います。

○秦野委員

ありがとうございます。

今回、実施する事業について、市内のたくさんのイベントを掲げられているなというふうに思いました。その中で、今回、年間、合計で何回程度を想定されているのかということと、テントもそれにあわせて購入をされるということなのですが、そのイベントの中でテントは何回ぐらい使われる予定ですか。

○ガーゼ帽子を縫う会

イベントによって、テントを貸していただけるとイベントと、自分で持ち込まないといけないイベントがあるので、その都度、イベントのときに出店の依頼をするので、その状況によってテントはわからないけど、持っていれば、いつ何時でも対処はできるのですが、今はテントがないので、雨の日の対策とかがいまいちできていない状態なのです。なので、茅ヶ崎のほうのイベントでテントがないところの出店とかもしていきたいとは思っているので、一応テントの予算も組ませていただいたというのが現状です。

○北川委員

大変すばらしい事業だと思いますし、こうした予算の使い方も、残るものとして、触診ができるようなものを置いておくということはすごくいいことかなと思っています。この1年間の事業を終えた後に、どのように発展をさせていこうというイメージはありますか。

○ガーゼ帽子を縫う会

あります。現時点で吉田が活動しているのは平塚の共済関連で平塚が多くて、茅ヶ崎ももちろんなのですが、藤沢のほうは、ピンクリボンふじさわという、歌手で麻倉未稀さんという人が立ち上げているのですが、麻倉さんが私たちの活動に共感していただいて、今、吉田と麻倉さんでピンクリボンふじさわというのを一緒に立ち上げようとしているので、それに伴って、湘南地区をみんなで連携して啓発活動をしていきましようという流れにはなっているので、茅ヶ崎だけじゃなくて、もちろんさっきの検診率を見ていただくとわかっていただけたと思うのですが、とにかく湘南の地域の乳がんの検診率を上げようというので、今動いている最中で、もともと私たちの茅ヶ崎も、まずそ

これから頑張って、横のつながりもつなげていこうと思っています。

○北川委員

ありがとうございます。こういう活動というのは持続させていくことが本当に大変だと思うので、せっかくこれからたくさんのイベントで出店をされますので、そういうところに今後支援してもらいたいような企業さんとか、そういう方々に、こういうところで出店しますので、一度見に来てくださいという事前のPRというのがすごく効果的かなと思いますので、そんなものも検討していただくと、次につながるかなと思います。

○ガーゼ帽子を縫う会

わかりました。

○中川副委員長

こういうイベントでテントを立てて、こういうふうにキャッチフレーズで、ガーゼ帽子を縫う会というのを出店したときに、どれぐらい、イベントにもよるでしょうけれども、どれぐらいの人たちが関心を持って寄ってくれる。今までのご経験から。

○ガーゼ帽子を縫う会

今までの経験で、そのイベントの内容によって全然違うのですよね。医療関係のピンクリボンをうたったイベントみたいなのは結構来てくださる方がいるのですけれども、音楽的なミュージック的なイベントとかだと、そんなに興味を持っていただけなかったりとか、イベント、イベントで、きょうは100人来ます、次のイベントも100人ぐらいでしょうというのが、私たちも1年やっていてわからないのですけれども、でも、茅ヶ崎のイベントとかは、私は昔からよくいろいろなところに参加させていただいているのですけれども、産業フェアとか、ああいうときにはすごい興味をわいてくださる方がいるのではないかなという推定です。海のほうでやる湘南祭とか、ああいうのは、たぶん出してもそんなに啓発に関心は持っていただけないのではないかなというのが予測なのでもうけれども。

○中川副委員長

なるべく効果的なイベントを狙って、それで出店するということを心がけていただいたほうが、せっかく出したのにほとんど来なかったりとか、そういうのはもったいないですから、そういうふうなことも考えて出店したらいいかなと思います。

○水島委員

大切な取り組みだなと思いながらお伺いしました。

これだけのことをやろうとすると、きょうはよかったとか、一定の成果を何らかの

形で感じることもあると思うのですね。その日に感じることもあるし、先ほどのようなもので、率が上がったれば一番いいことなのですけれども、おそらく平塚の例ですと、いろいろな方が関心を持ってくれたというところに成果的なものを感じられるのかなと思うのですけれども、続けてこられて、特に今回助成金を受けた場合、特にこういう形でやると、いろいろな方が関心を持ってもらえそうだとか、何か今までより少し変わったというか、何か考えておられることはありますか。

○ガーゼ帽子を縫う会

とにかく、今まで個人の資金で回していたので、イベントも出ればそれなりに持ち出しが多くなるので、ここは行きたいけど、今回は自分たちもそんなにまだガーゼ帽子を売った資金があるわけでもないからやめておこうとか、イベントで行って、個人でやると、すごく高いのですよね。参加料というのが。なので、イベントをこっちも選んでやっている状態だったので、知っていただくと、例えば、啓発だから呼んでいただくというようなことも少し出てきたので、お金を払わなくても、ピンクリボンさん来てください、みたいなことが少しずつでもふえていっているの、継続してやっていくことが一番いいのかなとは思っているのですけれども、なかなか予算がおっつかなかったの、もし基金を援助していただければ、もう少し広げていかれるかなというところなのですよ。

○伊藤委員

読み込みが足りないのかもしれませんが、借りた場合、幾らかかったのですか。

○ガーゼ帽子を縫う会

現時点では吉田が勤めているので、貸してくださいという。

○伊藤委員

有料の貸し出しというのはない。

○ガーゼ帽子を縫う会

ないです。

○伊藤委員

わかりました。

○中川副委員長

それでは、時間がきました。どうもありがとうございました。

○ガーゼ帽子を縫う会

こちらこそありがとうございました。（拍手）

○事務局

茅ヶ崎ラフターヨガクラブ様、ご準備はよろしいでしょうか。

それでは、「ラフターヨガ：笑いと呼吸法による心身の健康法」のヒアリングを開始いたします。中川副委員長よろしく申し上げます。

○中川副委員長

それでは、3分から5分ぐらいで、よろしくどうぞお願いいたします。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

副代表のフタミと申します。私が説明させていただきます。

笑いの話なので、ゆるりと聞いていただければと思います。

茅ヶ崎ラフターヨガクラブ、これから皆さんにも知っていただきたいと思うのですが、今現在は茅ヶ崎ショッピングセンターの1階の未病改善スペースで活動しております。

まず、ラフターヨガの説明をさせていただきます。

ラフターヨガというのは、笑いの効用とヨガの呼吸法を組み合わせた心と体の健康法ということで、笑いがいいということは、「笑う角には福来る」というぐらいで、今さら言うこともないのですが、その笑いを科学的に研究して証明しよう、解析しようという動きが、ここ半世紀ばかり活発になってまいりまして、そういったさまざまな研究成果に着目して、だったら笑いクラブを立ち上げればいいじゃないかというふうに思い立ったのが、インド人内科医のドクター・マダンカタリアという人です。この人が二十数年前にムンバイで笑いクラブを立ち上げたというのが発端になっております。

笑いヨガというふうに、ヨガという言葉がついていますが、ヨガというと、皆さんはヨガのポーズを連想される方が多いと思うのですが、ここで言うヨガは、ヨガの基本となる呼吸法でございます。笑うときに大きく息を吸って、大きく息を吐き切ると。この呼吸法は、ヨガの基本的な呼吸法と相通じるものがあると。ただ笑うだけでなく、呼吸を意識して笑うということになったら、相乗効果が上がるのではないかということのカタリアの奥さんがヨガの熟練者でして、提唱したということから、笑いヨガ、ラフターヨガということになっております。

このクラブを立ち上げたのが二十数年前で、十数年前には日本にも紹介されて、現在、日本では、全ての都道府県で活動が行われております。世界的には100カ国以上ということで、一つの話題の潮流ということになっております。

笑いの効果というのは一体どういうものなのだという事になりますが、まずは、笑うことによって楽しくなる、幸せな気分になる、幸せホルモンと言われるセロトニン、オ

キシトシンが分泌されるということがあります。

それから、笑いに伴う呼吸法で、自律神経バランスも改善されて、血流もよくなる。内臓、脳に活性化が行われるということがあります。

笑い合うことによってコミュニケーションがよくなるということで、この部分はとても大事でして、認知症の発症の要因の大きいところで、人と接する機会が失われるということがあります。ですから、笑い合うことで人と接する機会を持つということは、高齢時代、高齢社会では必要なことだというように思っております。

茅ヶ崎ラフターヨガクラブは、昨年9月に結成されまして、茅ヶ崎の市民にもっと笑う機会を持ってもらおうと、茅ヶ崎に笑いのオアシスをつくろうという発想で、昨年の10月から活動を始めました。月1回の活動で、皆さんには1時間半の笑いの時間をいただくとようなことをしております。

実際にどのようなやり方をするのかということですが、基本的な考え方としては、冗談やギャグだけに頼らない、自ら率先して、ささいなネタでも笑うという気持ちになっていただくということが1つ。そのための笑うきっかけというのを用意いたします。ラフターエクササイズというのはいっぱいあるのですが、それをさらに日々いろいろ工夫して、おもしろいネタをつくっているということをしております。

初めから自然な笑いができる人というのは、まずいないわけですから、初めは作り笑いから入っていただくと。作り笑いでも、笑っているうちにはみんな笑っているうちに、自然な笑いに変わってくると。作り笑いというのは、人類が獲得した言葉以前の最初のコミュニケーション手段です。ですから、世の中でもいろいろな場面で作り笑い。作り笑いというと、ちょっと変な印象があるのですが、これは時代劇のせいで、「越後屋、おぬしも悪よのう」というようなことがありますので、ちょっと悪い印象が出ているかもしれませんが、恋愛するときも、何でも、作り笑い、さりげない微笑みから、男の場合もだまされるということがあるわけです。

笑いの研究のきっかけをつくったというのは、アメリカ人ジャーナリストのノーマン・カズンズという人がいまして、この人が原爆孤児の救済に立ち上がったということで、名誉広島市民の称号を持っています。この人が50歳ぐらいのときに、難病の膠原病になってしまったと。いろいろ闘病生活を送った中で、笑いによって効果が得られるではないかということで、笑うことで苦痛を軽減した。笑い続けることによって、ついには膠原病を克服したと。その経験をつづった『笑いと治癒力』という本を出しました。これが大変評判になりまして、それから笑いの研究に火がついたというような経緯になっております。

○中川副委員長

やられる中身を。どういうことを助成金でやるのかということをもうちょうと簡潔にお話しいただいて。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

今現在、場所的には未病改善スペースというすばらしいところを借りられたのですが、まずは、今見ても、ベンチに座っています。そういったことで、1人ずつの椅子がないと。不足しているということで、笑えばなしで疲れますから、皆さんに座っていただくというのを前提にまず考えたいと。そのためには、先方に椅子を購入してくださいということも言えませんので、我々で購入しようというようなことを考えています。

一応購入したい品目については、リストに載っているものです。

○中川副委員長

ご説明の時間がなくなってきましたので、質疑応答でいろいろとお伺いしてもよろしいですか。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

はい。

○中川副委員長

それでは、ご質問ある方。どうぞ。

○西野委員

実際にこういった活動をする場なのですけれども、ある場所で活動するのではなくして、介護施設、あるいは老人ホームで結構認知が進んでいる方とか、コミュニケーションが苦手な方とか、多分にいらっしゃると思うのです。そういった施設を渡り歩くというわけじゃないのですけれども、そういう方々を対象に、こういったセミナーとか講演を行っていったって、発展しつつ、場所を間借りしてセミナーを開くというような形で、最初は、ベースはそういった必要とされる方のところに出張に行くような形のスタンスも私はいいと思うのですけれども、どのようにお考えなのかなと思ひまして。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

そのような活動もしております。老人ホームにも行きますし、あと、公民館などでいろいろな事業として高齢者を対象とした教室とかいうのをやっておりますが、そういったところで声をかけていただいてやっていると。最近では、御所見とか、海老名の公民館とか、香川公民館とか、そういったところでもやっております。それ以外に、茅ヶ崎で定期的に笑いにこられる場をつくりたいということで始めたのが茅ヶ崎のラフターヨガクラブです。

○伊藤委員

折りたたみ椅子を除くと、基本的に収入と支出が見合っている構造だと思うので、折りたたみ椅子が必要なので、この補助金なのだと思うんですね。少なくとも経理上の見方をすると。そうしますと、なぜ未病センターじゃなきゃいけないか。例えば、うみかぜテラスという立派な施設ができた。あそこは来年3月まで全部無料だと思うのですけれども、椅子も何もたくさん備わっていると思うのですが、なぜこの未病センターじゃなきゃいけないのでしょうか。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

初めは勤労会館で部屋を借りてやっておりました。そこでやっていたところが、集まってくださった方々が20名を超えてしまったのですね。消防法の都合で、20名以上は入ってもらっては困るということになりました。ただ、我々としては、できれば笑いたい人にはいつでも来てもらいたい。人数制限はしたくないという考え方で、場所を探しておりました。そうしたところが、サポートセンターのほうから紹介いただいて、未病改善スペースのほうに部屋をお借りすることにしたということです。

○伊藤委員

ほかの施設はサポートセンターでは推薦されなかったのですか。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

ええ。我々がどれだけ場所を探したかという問題になると思いますが、とりあえず勤労会館があったものですから、それ以上のことは余り考えなかったと。

○茅ヶ崎のラフターヨガクラブ

ほかのところもあれしたのですけれども、笑うということで、防音装置がないから貸せないとかということでは言われました。勤労会館がちょうどよかったのですけれども、たまたま20名を超えちゃったので、そうしたらサポートセンターのほうから。

○水島委員

細かいことで恐縮です。参加費を500円いただくということで、意識づけとかという意味合いもあって、手拭いを差し上げるというような内容もたしかご回答をいただいているような気がするのですが、こういう健康的なものと楽しさということで、同じ方が何回も来られるような気もするのですが、それでも同じように手拭いというのは配布をされるのですか。料金は一緒ですよ。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

今のところ、20名ぐらいの方が参加していただいているのですが、毎回来られる方、

まだ固定しているわけではありませんが、10名ぐらいずつは変わっております。ですから、どれだけ来られるかというのは不特定ということとして、ある程度の数は見込んでおかなければいけないというふうに考えております。

○水島委員

参加料と手拭いとセットのようなご回答をたしかにいただいていたような気がするのですが、すけれども、繰り返して恐縮です。2回目来ても500円の参加費をいただいて、その方が何回来ても同じように手拭いは差し上げて、参加料も500円で変わらないということですか。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

参加料の500円は変わりません。手拭いは毎回差し上げるということではなくて、あくまで来たときに使っていただくという前提で考えております。参加料の何がしかを皆さんのために還元したいというのがありますが、それが全て手拭いということではなくて、まず還元する一番の方法は、いっぱい笑っていただくということだと思います。

あと、どういうふうな手拭いをつくっているか。

今、お面なんかもつけていますが、いろいろ楽しくなれるのであれば、どんな道具を使ってもいいじゃないかというような考えもございます。ですから、お手玉を使ったり、あるいは、テニスボールを使ったりということもやっておりますので、これは、毎回、初めて来られる方は何でもいいと思うのですが、毎回来られる方は、ワンパターンでは笑えなくなってしまうということもあるかと思えます。ですから、笑いのネタも毎回想像ラフターと言いまして、新ネタをつくって笑っていただくというようなことを心がけております。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

年齢とかが関係なくて、旦那さんが亡くなったから、どうしてもお家で笑えないとか、子どもさんの病気で家に笑いを入れたい。参加者の方のいろいろな思いがありまして、雰囲気づくりを一番考えています。ほっとするような場に1時間半をやっていただければという感じはあるのですよ。

○水島委員

たくさんの方に、楽しい取り組みなので、参加されるといいな。そうすると、参加しやすい方がいいわけですから、駅を中心と言いながら、バス等の交通機関を使って来る方もいらっしゃるかもしれませんが、もし500円の中に手拭いの200円300円幾ら

かというものが含まれていて、初回の1回でよければ、2回目からはその分は差し引くと、300円ぐらいで参加できないのかなとか、より参加しやすいようにするには、参加費がどうなのかなと思ったものですから、それで確認をいたしました。結構です。ありがとうございました。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

ワンコイン払っても笑いたいという方がいらっしゃるというのが事実ですので、赤ちゃんは300回以上笑うというふうに言われていますが、成人になりますと、笑う機会が十数回というふうに限られるということがあって、普段の呼吸も浅くなっていますし、本当は笑いたいのだという部分を引き出したいなというふうに思っております。

○中川副委員長

笑いのニーズを引き出すということですか（笑）。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

これが第一歩なのですよ。その後、いろいろな場所にインストラクターをふやして、なかなか笑いのネタというのは難しいのですが、そういう方たちをいろいろな施設だとか、そういうところに派遣したいというのが最終的な目標です。

○中川副委員長

広がり、1,000枚チラシを刷られるとか、50枚でカラーコピーを要求していらっしゃいますけれども、どうやって広げていくかというのはとても大事ですよ。趣旨を本当に理解されて、行けば本当に笑えるのかどうかとか、そういうようなことを伝えるのって結構難しいかなと思いますね。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

要は笑っていただければいいわけですから、茅ヶ崎ラフターヨガクラブに限らず、いろいろなクラブを紹介して、皆さんにより多く笑っていただくと。笑ってもらうのにそんなに金をかける必要はないじゃないかということもあるかと思いますが、今、高齢者が多いのですが、笑う対象が高齢者には限らないですね。うつになった方とか、仕事で行き詰まっている方とか、それから、特に、非行に走る少年の場合は、笑いが少ないというようなことも言われております。それから、車を運転しているときも、イライラするよりも、笑い飛ばそうと。笑いというのはモルヒネの6.5倍の鎮痛麻酔効果があると言われておりますので、笑い飛ばせるというような意識を持っていただけるのはいいことじゃないかなというふうに思っております。

○中川副委員長

笑いのニーズが切実にある人たちに届くように頑張ってください。

○伊藤委員

近隣のラフターヨガ協会であるとか、全国的なラフターヨガの普及もしくは組織というのはどういうふうになっているのでしょうか。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

ラフターヨガの大もととはインドのほうから入ってきていますので、1つなのですが、日本に紹介された順で、今、3団体ぐらいあるのですかね。その中の一つのラフターヨガジャパンというのが私たちのクラブでございます。ただ、もとが違うからということではなくて、要は笑うのが目的だということで、そういった団体の違いを超えて、笑いヨガと言っている団体も、ラフターヨガと言っている団体も、お互いに協力して笑いを広めようという体制にはなっております。

○伊藤委員

全国団体が3つあって、地域の団体はどういった状況なのでしょうか。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

地域の団体は、例えば、鎌倉山とか藤沢ラフターヨガクラブとか、茅ヶ崎にももう一つあるのですね。湘南ラフターヨガクラブ。そういったところとみんな協力して、我々もよそのラフターヨガクラブを訪ねて一緒に笑ってくるということもやっております。

○伊藤委員

1市町村1つぐらい、全部で1,000ぐらいあるという勘定なのですか。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

平均にいつているかどうかはともかくとして、1,000ぐらいはあると思います。

○伊藤委員

わかりました。

○中川副委員長

では、時間がきましたので、どうもありがとうございました。

○茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

ありがとうございました。（拍手）

○事務局

では、この後、総括質疑となります。後ろのテーブルにおかけください。

○事務局

皆様お疲れさまでした。この後、11時10分ごろからこの場所で総括質疑をスタートしますので、よろしくお願いします。それまで休憩といたします。

【スタート支援Bグループ発表】

○事務局

それでは、公開ヒアリングを始めたいと思います。

最初は、えんじょい！育休の会様ですね。

それでは、「育休パパママ向けのセミナーの運営」事業について、ヒアリングを開始いたします。委員長よろしくお願いします。

○大江委員長

では、始めさせていただきます。

このグループの進行役を務めます大江でございます。よろしくお願いします。

それでは、最初にご説明を3分から5分ぐらいでお願いいたします。

○えんじょい！育休の会

特段資料というものは用意していませんけれども、えんじょい！育休の会の代表を務めさせていただいております清水さつきと申します。よろしくお願いいたします。

本日、こんな大事な日に風邪を引いてしまして、ちょっと声が出にくくて、聞きづらい点もあるかと思うのですが、なるべくゆっくり、しっかり、伝わりやすくお話をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まずは冊子を見てくださいと、一番大事な「設立の経緯」というところがあるかと思います。なぜこの会を持とうと思ったのかというところが私の中では一番大事な事かなと思っておるのですが、私が、自身が育休をいただきまして、育休明けから企業主導型保育事業という、保育園の中でも特に働くお母さんを応援するという形が強い、企業主導型の保育園というものに事務局として携わることがございまして、そういった中で、お仕事をこれから始めようかな、もしくは、今、育休中であるのだけれども、復帰をというような保護者様とのふれあいの中で、いろいろなお母様のお声をいただく機会が大変多くて、その中で、今、仕事としてはそういうことをさせていただいておるのですが、何か仕事とは別軸で、もう一歩踏み込んで、保護者様、お母様、お父様の、何かも

う一步踏み込んだ形でのお力になれることはないのかなという中で、私をはじめ、あとの2名も保育園事業にかかわっている人間ではあるのですが、私の思いに賛同していただいた保育士であったりとか、そういった人間で構成をされている会でございます。

なので、よくパパママさん向けのサロンとかというのは、皆さんもご存じのとおり多いと思うのです。茅ヶ崎市さんの中でも多いと思います。ただ、私たちは「育休」というのをつけたことにより、ちょっとターゲットを絞ったりだとか、育休というところ、お仕事というところがイコール直結してくると思うので、1年目でそこまで持っていけるかという、なかなか難しいのですが、地域をあげて、何か働きやすいまちだったり、子育てのしやすいまちという意味で、例えば、育休の復帰が、今までのところでなくて、地元の企業さんにならったりだとか、そういうことでもいいのかなというのは、お母様たちのお話を聞いている中ですごく思うことが多かったので、何か自分たちのやっていることで、地域のためになるんじゃないかというのは、私がいろいろな企業さんを回らせてもらったりする機会もあった中で、2つが重なったというか、そういったものの中で、今回こういうものを立ち上げさせていただきました。

主には、2枚目をめくっていただきますと、セミナーの運営、実施する事業についてというところがあるかと思うのですが、意見交換会、保育園情報の提供。こちらは、うちの保育園だけではなくて、今、認可、認可外とか、そういった中で、お母様たち、情報があふれ過ぎてしまって、何を自分が選んだらいいのかというのが本当にお母様たち困っているような状況もあったので、こういうふうにと選ぶと、こういうのはこういういいことがあるよとか、そういうところも踏まえて、保育園というもののうちちょっと広い視野をお母様たちに提供できるのではないかと、あとは、女性は子どもが生まれて、生まれた後ということで、ライフプランがだいぶ違ってくると思うので、そこで、今、1人目が少し落ち着いたのだけれども、2人目を持とうか持たないかというようなお母様もいらっしゃるかもしれないので、加えて、ライフプランの作成について、何かお手伝いができないかということと、仕事と子育ての両立。これもずっとあるテーマだとは思うのですが、自身も今まさにこれを行っている人間として、何か寄り沿った形で一つ何かお手伝いができるのではないかなと思うところと、食べることはすごく大事で、食育の講座、ここはお母さんたちがすごく興味がある部分でもあったので、ここも何か盛り込んできたらいいなと思っています。

なので、うちの事業のいいところは、私、最初に目を通させてもらったときに、地域行事を通じての交流事業さん、ひろっぱclubさんとかも、いい意味の相乗効果で一緒に何かやったりすることもできるのかなというのも、うちの事業のよさかなとは思っております。

目的や効果については、先ほど少し重複した部分もあるかと思うのですが、育休復帰の職場が、例えば、今までの観念が外れて、じゃ、地元で働いてみようかなというお母様がふえれば、茅ヶ崎がもっと活性化したりだとか、あとは、逆に地域さんでもな

なかなか手がいなくて、出産をするとやめてしまうといったような職場さんにも意味がそこは出てくるかなというところもあったり、そういうことが、先が見えてくると、1人目で、うちは無理かなと思っていたおたくが、2人目、3人目に挑戦してみようかなというような部分にもつながっていったり、あとは、孤立してしまいがちな子育て中のお母さんたちが集う場所が生まれたりということも目的として捉えております。

広報については、私が今保育園で広報をやっているのもあるので、そういった部分で培ったスキルは使っていて、ポスティングであったりとか、企業さんに直接かけ合ったりだとか、あとは、地域を回ってチラシを置いたりだとか、そういう形で周知はさせていただいていきたいなと思っております。

以上でございます。ありがとうございます。

○大江委員長

どうもありがとうございます。

それでは、これから10分から15分の時間で質疑を行います。どうぞ皆様方どこからでもお願いします。

○石田委員

説明ありがとうございました。事業広報の中で、パパママ向けの活動団体との連携云々というくだりがあるのですけれども、茅ヶ崎市内でどの程度あるのかとか、そこら辺の把握、現時点で実際に連携がとれているところ、そういうようなところというのは。

○えんじょい！育休の会

1つのところは、私ともともとやりとりがあったもので、わかっている範囲ではそういうところもあるのですけれども、まだうちがこの活動自体、始めて間もないので、まだそこまで、ほかのところを調べて、ここがいいかな、どこがいいかなというところにはまだ至っていないのですけれども、4月でスタートをもっとガッツととることができれば、こういうところと手を組んだらより相乗効果があるかなというところまではもっていけるのかなと思っております。まだその調べるという段階の完成度は高くはないと思います。

○椎野委員

ご説明ありがとうございました。

これで、おやりになるのが5月と11月ごろの2回ということでございますね。この中で、内容のテーマというのが大きく分けて5つございますけれども、今ご説明の中でも、ちょっと外せないような内容がいいのが多いのですけれども、これを1回で90分ですよね。2回で毎回同じようなテーマでやるのか、それとも、1回目と2回目と取捨選択しながら、必要なものを大きく取り上げてやるのか、それが1つと、それと、認知度を上

げるためにも定期的にやりたいということですが、この認知度を上げるために、2回だけで果たしてそれがうまくいくのかどうか。その辺、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○えんじょい！育休の会

まず、1点目に関しましては、後者ですね。2回のものを2回の違うものをやりたいなと思ってしまして、今挙げたのは5つぐらいなのですけれども、ここをうまく2つぐらいに分けてというところで思っております。

集まる回としましては、今、5月と11月、そこも仮ではあるのですが、2回というふうに設けさせてはいただいたのですが、1回、2回、会をやっておしまいということではなくて、こちらで切手なんかもあげさせていただいている部分なのですけれども、収支の部分で。その後のやりとりはすごく大事ななと思っていて、よくあるセミナーは、行きました、お話を聞きましたで、何となくそれでやった気になって終わっちゃうというのがすごく多かったんで、その次というふうに出るというのが少ないなと思っていたので、集まるのはそのきっかけにすぎなくて、その後のフォローもしていきたいなということで、それは、お母様たち、お子様を連れていたりとか、2人目だったりすると、集まるということは何回もするのは難しいと思うので、それはメールであったりとか、お手紙を書いたりとか、そういうもののやりとりをずっと続けて、関係性としてつくっていききたいなと思っておるので、もちろん声があれば、どこか臨時でもう一回、すごい大きな会というものは難しくても、この中ですごく反響があったものがあれば、追加で、この部分だけもう一回興味ある方、集めようかということにもなっていくのかなというところではございます。

○椎野委員

ありがとうございます。

○岩壁委員

よろしくお願いします。ありがとうございました。

保護者同士の交流というのはすごく大切なような感じがするのですが、先ほどご説明の中で、お母さん方の孤立化を解消したい、こういうようなお話がありました。先ほどの質問と重複かもしれませんが、サロンを2回ですと、そこが普及できないと伺ったのですね。先ほど、孤立を防ぐために、日ごろ、要するに、保育園の中で拠点、そういうものがあって、そういうものがサロンのほうへ結びつくような、そんなことも考えていますか。

○えんじょい！育休の会

どうなのでしょう。そこはまだ私の頭の中で精査し切れていないのですが、逆に、一堂に会してしまうと、ほかの方の目があるので、こんなことを言ったらこうだよ

なとかと、お母様たちの本音は、一堂に会したときはなかなか出てこないのかなというのが私の正直な意見でして、そういう中で、保育園に来てというと、1対1なので、結構深いところまでお母様、いや、実はご主人のこういうところがこうで、だから外に出たいのですというようなところまでポロッと話してしまったりとかというのは、一堂に会さないよさというところもあるので、もちろん、かといって、1対1でいきなり来てくださいというと、すごくハードルが上がってしまうので、きっかけは来やすいもののほうがいいのかなとは思うのですけれども、本当にその人に寄り添うとなったときに、一堂に会してというのは、なかなか声も出にくいし、解決に結びつくところまでもっていったらあげるといのが難しいので、きっかけを持つというのでサロンを、イベントのようなものは2回ぐらいと思って、準備とかにもどうしても時間がかかったり、ほかにも仕事を持っているメンバーだったりするので、そこで無理をするよりは、少ないながらも、いただいたお声の一人一人に寄り添っていききたいなというところが強いので、その後のフォローというものを私は力を入れてやっていきたいなと思っています。

○岩壁委員

どうもありがとうございます。

○石田委員

ご説明どうもありがとうございました。

私、茅ヶ崎の行政が、今、茅ヶ崎市は人口が微増していますけれども、今後、5年、10年後先には高齢化が進んでいる。減少するということが見えている中で、子育て世代を応援して、より住みよい茅ヶ崎にしていって、人口が減らないようにするというのは、すごく大切な思いだと思うのですね。別の委員会でもそれは常に議論しているところなのです。

茅ヶ崎市の待機児童はたしか18人いたのですけれども、前田さん、大体そこら辺ぐらいですか。

○事務局

減ってきて。

○石田委員

18と私は聞いているのですけど。今、その中で、皆さんでママさん、パパさんが集まっていろいろお話をするのはいいのですけれども、実際に受け入れてもらうときに、企業の協力というのがすごく大事なような気がするじゃないですか。じゃ、その企業さんに対して、時短勤務を認めていただく。茅ヶ崎の企業さん。それを広報しようという動きもあるのですか。

○えんじょい！育休の会

ええ。

○石田委員

質問とはちょっと違うかもしれないのですが、私はこういうのをすごく応援したくて、大好きなので、子育てがしやすい茅ヶ崎、お父さんとお母さんが育休であって、時短勤務であっても受け入れやすい企業、こういうことを応援していきたいのだと。

1つ問題は、私の関連の会社でも駅前保育園を今やっているのですね。市の認可保育園。床面積はあるのですが、保育士さんがいなくて、人数がふやせられないのです。こういう課題もあるので、そこら辺もママさんとパパさんとか、もしくは保育園、保育士の資格を持っている方のOGさんと言うのですか、なんかが復帰できるような、そんなことも考えていただければ。質問とは違うかもしれませんが、私はこの事業に対してすごく応援をしたいので。茅ヶ崎の子どもたちのためにと考えているので、ぜひ頑張ってください。

以上です。

○えんじょい！育休の会

ありがとうございます。

○大江委員長

今の件については特にいいですか。コメントということでもいいですか。

○えんじょい！育休の会

今、うちも保育園のほうでは、70を過ぎた現役のというか、一旦はお孫さんの面倒だとかということで退いた、それこそOGのスタッフもいたりする中で、すごく元気ですし、まだまだ力が有り余っていますし、うちの保育園は一つのモデルでしかないと思うのですが、今の形としては、私はすごくいいなと思っていて、若い保育士もいれば、第一線からは退いたよ、でも、やっぱり子どもが好きだし、応援がしたいよというような、すごくいいバランスで今保育士がうちは配置があるので、俗に言う、保育士さん同士のいじめみたいなものも本当にはないですし、そこも一つのモデルにはなるのかなというところで、若い意見だけでも、それも違うと思いますし、かといって古い意見だけでも違うと思うので、そこがうまくすり合うことが、共存という意味でもそうですし、保育士さんのやりがいというところもきっとそうですし、そういうのは私も、うちもすごく満ち足りているかという、そうではないと思う。今のところ足りていないことではないので、特段そこがすごく困っていることではないのですが、世間一般からすると、保育士さん

の仕事はまだまだ認知されていなかったり。私は保護者でもあり、保育園側でもあるので、いろいろな気持ちが見えて、私と保護者さんとみんな一緒の気持ちではないと思うのですけれども、そこをもうちょっと保護者さんが知れば、もう少しうまくいくことはたくさんあるのかなと思ってはいたので、今後、メンバーの中に保育士もいるので、そこがお母さんたちとうまくできて、なんだ、そういうことなのだ、じゃ、こんなの、いつも細かく書いてくれなくても、先生たち全然いいよ、みたいな感じになったりすれば、もっと子どもに一番よりよいものがつくっていただける園はふえていただけるのかなと思います。

○石田委員

ありがとうございます。

○草野委員

ありがとうございます。

私も今、育休のママのジジイをやっている状態で、6カ月と2歳の子を育てているのですけれども、ママに聞くと、こういう講座というのはあるのですけれども、どうしても定期的にインフルエンザとか感染だとかというのが怖いので、そういうリスクを避けて参加したい。そういう情報がうまく入ってきて参加したいというようなことを言っていましたので、今回のあれでしたら、5月とか11月、きれいな時期というところで配慮されているので、すごく素敵だと思っています。

そうしたあれですけれども、食育講座のところ、これは、今の若い世代はネットでどんどん調べるのですよね。いいことも悪いことも書いて、逆に悩んでいるというところがありますので、保育に関係する人たちの生の声で、食育に関する、食べ物に関する情報を、ネットじゃないけれども、こういういい情報がありますよ、みたいなところが得られるといいかなと思いますので、よろしくお願いします。

○えんじょい！育休の会

はい。こちらも、私も保育士さんならでのアイデアというのですか、そんなことするのってアリなんだみたいなことも結構あるので、そういうのも生の声でいけたらよりよいと思います。

○椎野委員

意見交換会の中で私たちが知りたいのは、なかなかパパの本音が聞けないのですが、パパの本音で今までどういう問題が出ていたか、教えていただけますか。

○えんじょい！育休の会

パパ側かあ。パパ側は、お父さんから私に直接こういうことが困っていますというの

はないのですけれども、ただ、私が感じるのは、お父さんが参加することが、私が幼少期に比べると、本当にふえているのだなというのが、園の見学のところからお父さんが来たりだとかする方たち、すごく多いので、分かれているなというのですかね。昔ながらの、お母さんにお任せしますというお父様と、自分も参加して意欲的にというところが分かれている気がしていて、片一方の昔ながらのというか、お母さんが行き詰まっている感が、私はお話をしていると感じるので、お父様に気を遣ってどうのとかというお話が入ったりだとか、だからこそ、自分も外に出たいのだなんていうお母様のお声もいただいたりするので、正直、お父様からこういうことが困っています、みたいなのところまでは私のお耳にまだ届いていなかったです。

○大江委員長

それでは、時間になりましたので、どうもありがとうございました。

○えんじょい！育休の会

ありがとうございました。（拍手）

○事務局

それでは、2つ目の事業になります。「チガワン（茅ヶ崎－1グランプリ）」のヒアリングを開始いたします。委員長お願いします。

○大江委員長

それでは、3分から5分ぐらいで説明をよろしく願いいたします。

○チガワン

ページとしましては35ページ以降になります。

まず、チガワンという名称なのですけれども、お笑いライブを開催します。M－1グランプリとかR－1グランプリを聞いたことがあるのじゃないかなと思うのですけれども、茅ヶ崎－1グランプリということで、お笑いのコンテストをなぞって、それを略してチガワンにしています。なので、一応、グランプリ形式で茅ヶ崎でおもしろい人を決めようというような意味合いもあります。

チガワンの紹介の前に僕の自己紹介をさせていただきたいのですが、僕は代表の岸本武也と申しまして、市の職員です。課は収納課という税金の関係で全然関係ないのですけれども、その前に、お笑い芸人を僕はやっていまして、『エンタの神様』にちょっと出ていたのです。こんなネタをやっていました。「気まずいことがだめーなんだ」というネタをやっていました。（笑）聞いたことはありますか。

○チガワン

ありますか。本当ですか。ありがとうございます。今、気まづくなっている。（笑）これをやっていまして、こういった経歴があった中で、げんき基金のことを最初考えていなくて、茅ヶ崎でお笑いライブをやるのはどうかなと考えました。というのも、お笑いライブというのは、ほとんど関東では東京でやられていまして、僕も今、仕事をしながらお笑いライブ、東京のほうで出ています。それは収益にならないので、趣味として出ているような感覚なのですが。茅ヶ崎でやったら、茅ヶ崎のお笑いを好きな人が見てくれるのじゃないかなと。茅ヶ崎ならではの笑いライブをやって、それも低料金でやれば、茅ヶ崎市にとっていい影響があるのじゃないかなと、そうやって考えました。

考えただけで、具体化するに当たって、僕は中途採用で3年目なのですが、12個下の同期がいるわけなのですね。新卒の子は12歳下なのです。たまたま飲んでいるときに、こういうことを思っていると言ったら、2人の人が、やりましょう、やります、一緒にやりましょうとすぐ言ってくれたのです。偶然。たぶんそんな人なかなかいないと思うのですよ。それはいいけど、自分がやるのは違うと普通はなと思うのです。でも、やります、一緒にやりましょうとなって、それが去年の10月、11月ぐらいです。すぐやることになりまして、チガワンというのを決めました。

それで、実際、2月16日にやりました。市民文化会館のミニホールで、芸人さんを8組呼んで、こちらがポスターでして、そのときの様子なのですが、これは、ライブが始まる前に芸人さんが集まったりとか、サインを集めているおじさんがやってきて、みんなにサインをもらっていたり。謎の。（笑）

これは優勝したコンビなのですが、湘南デストラーデという、もともと僕と一緒にやっていたコンビで、『アメトーク』に出ていたり、お笑いだけで食べていくまではいないのですが、有名というか、ちょっとテレビに出ているような人たち。

あとは、フリップネタという、絵を使ったネタをやってくれている芸人さんとか、ここがすごい変わっていて、84歳のお父さんとその娘のコンビで「めいどのみやげ」という。（笑）この方たちももともと知り合いで、お父さんのほうが茅ヶ崎に友達がいるということで、そういうのもあって出してくれました。

これが全体でしゃべっているような状態。

あと1分なので、巻いていきます。

このライブ、やはり茅ヶ崎ならではのことを入れたいということで、企画で「写真で一言」というのがあるので、麻呂で一言。えぼし麻呂の絵に合わせて芸人さんに一言言ってもらおうという企画をやって、すごく好評でした。小学生のお客さんもいたので、試しにやると言ったら、小学生にやってもらって、それでまた盛り上がりまして、とても良かったです。

これは裏から見たものです。

最後に、先ほどのおじいさんの茅ヶ崎のお友達が花束を持ってきて、最後、退院祝い

みたいになっちゃった。（笑）

こんな感じでライブ自体はすごくよかったのですが、入場者が34名でした。もっと多かったらいいなとは思ったのですが、僕らが失敗しちゃって、多くなり過ぎて怖いなど逆の心配をしてしまって、整理券を配るみたいにしたら、遠慮して来られなかった方が結構多かった。次回からもっと動員できたらなと思っています。

まあ、ここまでで、よろしくお願いします。

○大江委員長

ありがとうございました。

それでは、質疑のほうに移りたいと思います。どうぞ。

○草野委員

ありがとうございます。市役所でやったこともありましたっけ。

○チガワン

そうなのです。残り1分だったのではしょってしまいましたけれども。

○草野委員

あのときは、ちょっとだけ顔を出させていただいたのですが、かなり盛況だったという感じで見ておりました。

この事業なのですが、お笑いの部分で元気にという部分は理解できます。そうした場合に、今度、継続的な部分ということが懸念されるのですが、リピーターをどれだけ集められるか、愛されるかということだと思うのですが、そのリピーターの確保については何かお考えがありましたら、教えてください。

○チガワン

一番は、当然ですが、来てもらった方が楽しんで帰るのが一番で、なんなら、次は別の友達も誘って来てもらおうというのが一番ですね。ライブで優勝者を決めるのですね。投票制で、3位ぐらいまで発表したりとか、あと、アンケートも書いてもらうので、また次にもう一回その芸人さんに来てもらおうとか、次はお休みしてもらおうとかは、その辺は来ていただいた方の意向がすごく入っているので、また来ようという気持ちになってもらえるのじゃないかなと。

○草野委員

わかりました。ありがとうございます。

○石田委員

ご説明どうもありがとうございます。やっぱり元芸人さんだけあって、滑舌もよく、プレゼンも笑いがとれて、すごく斬新なプレゼンで、私はよかったと思います。

出演者の芸人さんの方というのは、茅ヶ崎にゆかりのある方を選別しようとしているのか、もしくは、広い意味で神奈川県とか湘南とかにゆかりのある方を選別しているのか、そこら辺をお聞かせいただいていいですか。

○チガワン

できれば茅ヶ崎にゆかりのある方を優先的に出演してもらいたいと思っています。とはいっても、そんなに多くないし、茅ヶ崎に住みながら芸人をやっているという人は、ちょっとだけ知っているんですけども、呼べるかわからない。吉本の方なので、呼べるかわからないというのがあって、僕の知らない方で、もしくは茅ヶ崎に住んでいて、これからお笑いをやりたいという人がいたら、ぜひ参加してもらいたいと思っています。茅ヶ崎とは言わず、湘南地域とか、なるべくそういったところで集めたいのですが、とはいっても、そういう方はそんなにいないので、僕が普段付き合いのある人とか、僕が東京でライブに出たときに声をかけさせてもらって出てもらうとか、そういうところで毎回10組ぐらい確保していきたいと思っています。

○石田委員

将来、道の駅か何かでライブができたらいいですね。

○チガワン

いいですね。それはぜひ。誰に言えば（笑）。

○石田委員

市長に言ったらいいのじゃないですか。

○椎野委員

今のお話の続きになるかもしれませんが、来場者があれして、選挙しながら、アンケートをとりながら優勝者を決めるでしょう。それで、チガワンチャンピオンというのがありますよね。このチガワンチャンピオンという称号が与えられるだけで、そのまま終わってしまうのは、何かもったいないと思うのですよ。それで、例えば、そういうチャンピオンになった人たちが、茅ヶ崎の大きなイベントの中に優先的に出られるとか、えぼしのあれとか、茅ヶ崎の歴史にゆかりのあることをネタにしてやっているだけじゃなくて、茅ヶ崎の文化とかそういうものをもっと対外的に広めるためには、市内外に出て行ってやってみるというのもいいのじゃないかなと思うのですね。だから、その辺、茅ヶ崎チャンピオ

ンというのに対して、今後どういうふうにしていきたいと思っていच्छやるのか、その辺を伺いたいと思います。

○チガワン

本当におっしゃるとおりで、茅ヶ崎のチャンピオンがほかに仕事、芸人さんの立場からすると仕事、何かほかにも呼んでもらって、茅ヶ崎のチャンピオンだから、こういうイベントに呼んでもらって、こういう活動をしていますと広がったら、すごくいいなと思います。でも、それを今の段階でどういうことができるかというのは、まだ何のコンネクションもないのですけれども、ただ、希望としては、おっしゃっていただいたように、せっかくチャンピオンになったのだから、そこから活動を広げてもらいたいと。

こちら、ライブの運営側からすると、チガワンに出て、先にチャンピオンになるじゃないですか。その人がM-1でその後チャンピオンになったら、これはライブの格も上がるかな、みたいな、そういう相乗効果で。そうしたら、今度、ほかの芸人さんもチガワンチャンピオンになりたいと思ってくれるかもしれないし。そういう面と、椎野さんおっしゃられた、チャンピオンという称号を使って、何か別の発展性というのは、具体的に何かあるわけじゃないですけど、ぜひやりたいことです。

○椎野委員

ぜひ育ててください。お願いします。

○チガワン

ありがとうございます。

○高橋委員

質問というあれではないのですけれども、PRすることはすごく大事で、今のチャンピオンの話もそうなのですから、例えばですけれども、観光協会さんなんかと手を組むというのもおもしろいんじゃないかと思って。茅ヶ崎は大きなお祭りがこれから目白押しになってくるのですけれども、ステージ関係もあるので、そういったところでチャンピオンが特別に出してもらおうとかということでアピールはできるんじゃないかなという気がします。

あと、芸人さんだから、当然、ギャラの問題とかもあるかと思うのですけれども、きっとそうじゃない人が、アルバイトで生活している人も結構多いじゃないですか。顔を売ってなんぼというところはあるので、そこら辺、積極的に市内、いろいろなお祭りがあるので、顔を出して売るのがいいんじゃないかなというふうにちょっと思いました。

おそらく、回数を続けていくことで定着して、どんどん人もふえると思うのです。事前質問の100から200ぐらい達成を目指すというふうに書いてありましたけれども、

もっと上を目指しても私はいいのじゃないかと思います。茅ヶ崎から全国というところにぜひ頑張ってもらいたい。

○チガワン

ありがとうございます。

○岩壁委員

茅ヶ崎には市民まつりというのがあります。そういうものとドッキングするのもおもしろいかもかもしれませんよね。

それともう一つは、趣旨の中には、事業目的や効果のために、年4回実施するということになっておりますが、入場者は120名程度というふうなわりと控えめに考えておりますけれども、将来の資金計画、これはできるだけ、今、委員さんからも話が出ましたように、1つするためには、ある程度財政の壁というものも配慮することもあるのかなという感じがするのですけれども、その辺はいかが考えていますか。

○チガワン

もし今回通ったら、とりあえず1年間は、そんなに採算ということを、プラス、黒字に向けてというよりは、チガワンを広めようという1年になると思うのですけれども、実際、集客が多ければ、それだけ収益も高いですし、そこが難しいのですけれども、僕は500円がいいと思うのですよ。中高生とかでも気軽に来られるし。でも、収益とかを考えたから1,000円なのかなとか。芸人さんも一律交通費を出しているのですけれども、交通費を減らせば、その分、運営費も減るしというところの、無理やり黒字にすることはできなくはないのですが、ただ、それだとちょっと違うと思うので、もし補助を受けられるのであれば、この1年は人を呼べるような団体になると、いいライブをして質を高めると、補助がなくてもいい下地をつくる1年にしたいと思っています。

○岩壁委員

頑張ってください。

○チガワン

ありがとうございます。

○大江委員長

私も1つ。今もお話がありましたけれども、1組2,500円の交通費相当を出すという。これで皆さん来てくれるという世界なのですか。

○チガワン

それで来てくれる人しか呼べないという状態。だから、出たいから交通費だけで。ちなみに、ですよ。さんは知っていますか。「あ〜い、とういまでえ〜ん！」という。この間会ったときに、これで出てくれると言ったので、もしかしたら、次回6月8日なのですけども、市民文化会館ミニホール、午後7時からなのです。ですよ。さんが出てくれる可能性があります。だから、もうちょっと売れている人というか、ギャラがないといけませんよという人は当然いるので、そこは、今の段階では、この条件で出てくれる人の中で僕が出てほしい人。

○大江委員長

今、岩壁さんのほうの質問にもありましたけれども、将来の資金計画、事業性ということですけども、例えば、スポンサーをつけるというようなことで、さっき観光協会の話もありましたけれども、地元の企業にスポンサーになってもらって、何らか優勝者に賞金とか商品を出すとかというふうになれば、出てくれる人のモチベーションも上がるような気がするのですが、そういうことを、この1年じゃなくて、これが通ったとして、1年やったとして、その次をどうするかということについての質問なのですけども、そういうことはお考えになっているのでしょうか。

○チガワン

それは私も非常に考えていまして、ただ考えているだけでは、スポンサーを得るために何をしたらいいかというのは、全く素人なので、どなたかに教えてもらいたい。スポンサーがついたら、いろいろなことが解決して、モチベーションも上がるし、とてもいいと思っています。

○大江委員長

こういうことを地域と結びついてやっているようなほかの例というのはあるのでしょうか。つまり、何か参考にしたようなものはあるのか。それとも、全くオリジナルの茅ヶ崎で初めてなのということなののでしょうか。

○チガワン

地域に根づいたというのは。

○大江委員長

要するに、同様の企画みたいなものを行っているところはあるのでしょうか。

○チガワン

あります。仙台でお笑いライブがあるのですけれども、それは芸人さんが主導なのですけれども、仙台に住んでいるお笑い芸人さんがいて、まちおこしというよりは、自分たちが仙台でライブをやって、お客さんを呼ぶのだという感じでやっていて、たまたま僕がそっちに旅行に行ったときにやっていたので、観に行ったら、200人ぐらい、もっとかな、の会場が満パンでした。

○大江委員長

ゆるキャラと同じように、そういうイベント企画がおもしろいぞという話になると、あっちこっちでやるようになって、結果的に埋没するということもあるのじゃないかと思うのですけれども、そういうことはないのですか。

○チガワン

そのノリでは全くなくて、仙台のやつは後でそういえばあるなと思っただけで、発端は、僕が茅ヶ崎でお笑いライブがないから、僕がやりたいというところからです。

○大江委員長

逆に、ここがうまくいくと、それがうまくいくのだったらと、平塚でもやり、何とかでもやりというふうに、わりとハードルが低くていいというところがありそうなので、そういうふうになっちゃうのじゃないかという気もするのですが、それはしないのですか。

○チガワン

そうなるぐらい成功したいですね。真似されるぐらい。

○大江委員長

わかりました。

よろしいでしょうか。

では、ほぼ時間になりましたので、どうもありがとうございました。

○チガワン

どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

では、次の団体さんに移りたいと思います。「ふれあい祭り開催事業」ということで。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

すごいプレゼンの後でやりにくいのですが、よろしくお願いします。ふるさとふれあ

い祭り実行委員会の委員長の小安と申します。よろしくお願いいたします。

今回お願いしたいのは、「第20回ふるさとふれあい祭り開催事業」という名のものなのですが、もともとこの「ふれあい祭り」と呼んでおりますのは、菱沼八王子神社を中心にいろいろな活動をしていた市民団体が集まって、地域のふれあい、子どもたちがだんだん少子化で、きょうだいもいなくて、家でゲームをやっていたりして、人とふれあうことがない。それから、地域でのお年寄りが孤立化しているなどのことを考えて、みんなが集まって、ふれあうきっかけをつくりたいということでスタートさせたものでございます。

そういうことでいろいろ動いてきたわけですが、そのお祭りの実行について考えていったときに、もともとこの運営の特徴としては、お店を出していただく方からは参加費は取らないようにしていました。なぜかという、お金を出すと、お金を出して権利を買ったので、そこで、どっちかという受け身のお客さんとして来られるので、そうではなくて、我々がつくりたいのは、地域の方々もそうですけれども、団体同士のつながりをつくっていききたい、一緒に地域を支えていききたいということから、あえて参加料を取らずに、そのかわり、運営のための委員会に参加していただくとか、準備の作業に参加していただくということで、そのかわり、人を出してください。一緒につくってくださいということでやってきました。メリットとしては、その団体さんの出した売上は、普段、任意団体ですから、収益の活動費というのをいつも探しているわけですが、そこで少し助けになってもらいたいと。

あざとい話をする、そういう人たちに参加していろいろやっていただく労働力を実際にアルバイトで買おうとすると、かえって割高になってしまうので、お互いに経済的なメリットもあると思って、そういうやり方をとらせていただいています。

それから、言ってみれば、それでも端からみると、地域で任意団体がやっているお祭りなのですが、中の演し物として特徴を持たせ始めたのは、これを始めてから2回目ぐらいのときだったと聞いていますけれども、大人のくるぶしぐらいまでの深さなのですが、仮設の小さなプールをつくりまして、そこに200匹から300匹ぐらい、ニジマスを放流しまして、そこへ子どもたちに入ってもらって、つかみどりをしてもらおう。運営のほうには、魚屋さんにも手伝ってもらっている、その場で使ったものは、さばいて塩焼きにして食べてもらうというような、どこかの観光地でやっているようなことをやってきて。

もともときっかけは、何か目玉になるものはないかなということで、気軽に始めたようなものなのですが、やっていて、参加者の方に気づかされるというのは実際あることで、私、5年間、ことしから委員長になって、それまで事務局をやっていたのですが、参加者の方、ご来場いただき方からいただいている言葉なんかだと、仕事が忙しいとか、あるいは、なかなか重い話だと思うのですが、家の経済的な問題で、子どもを観光地とかに遊びに連れて行ってあげたいのだけれども、そういうことがなかなかできないでいた。ずっと毎年、毎年、ニジマスのつかみどりは目玉でやってきているので、連れていけない

中で、家の近くでこういうようなものがあって、子どもが参加したらとても喜んで、また来年も来たいねという言葉をもらえたということで、わざわざお礼を言いに来てくださった方がいらっしゃって、物すごく強く意図したわけではないんですけれども、そういうご家庭の、最近、貧困とかいろいろありますけれども、そういうところにも少し携えているのかと。

それから、辻堂駅の前のテラスモールができ上がる頃合いから、この地域、特に畑が多かったのですけれども、どんどん畑がなくなって、老人施設が入ったりということになっています。

今回お願いしたいのは、20回やってきたので、大体のところはルートでできるようになっているのですけれども、何分20年たつとスタッフが高齢化してくるということがありまして、64ページを見ていただきますと、上のほうに「単管パイプによるテント設営エリア」というのがございます。ここで、今まで自治会が持っているイベント用テントを使っていたのですけれども、このときはいっぱいテントが必要なのに、それまで、工事用の外の外壁によくある、壁を塗ったりするときに足場を組んでやる単管パイプで仮設のテントをつくっていたのですが、さすがに、それはなかなかつくりづらくなってきて、また、倒壊をしたときの危険性も当然あるので、今回は、新たに発展というよりは、子どもたちの安全を確保するためということで、簡単な簡易テントを買わせていただきたいということになっています。

あわせて、右上の図面の左の上に「出店場所拡張エリア」というのがありますけれども、ここは、今まで駐輪場にしていたのですけれども、ここに来場した駐輪場を置くと、一応通行止めにはしているのですけれども、生活道路なので、車を通さざるを得ないときに、子どもたちと接触する危険性が非常に高いと認識しましたので、きょう、松林小学校のほうへお願いに行きまして、松林小学校の駐輪スペースを使わせていただくということも了解がとれたので、ここを駐輪場ではなくて、安全を確保した上で、さらに、参加していただける団体さんをふやすために開放するという計画を立てさせていただいております。

お時間がもうそろそろということなのですが、以上でよろしくお願いいたします。

○大江委員長

ありがとうございます。

それでは、質疑に移ります。どうぞ、岩壁さん。

○岩壁委員

どうもご説明ありがとうございました。

2～3お聞きしたいのですけれども、ふるさとふれあい祭りというのは、ほかの地域でもわりとされていると私は承知しております。地域性がすごく高いのだと思うのですね。自治会との絡み、若干補助金を自治会のほうからいただいているようでも、例え

ば、自治会と手を組んで、テントとかそういうのを防災の関係で、何かあったときには防災と。普段の行事のときにはそういうものを使うことによって、うまく両方活用できるような、そうなると、資金計画なんかも違う面から切り口を考えると、そういうものができるようになるのかなという感じがするのですが、その辺は、自治会の絡みとか、そういうのはいかがお考えですか。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

この委員会にも、実は自治会から地域の部長が必ず出席してくださって、一緒にやるようになっていまして、ただ、自治会の防災テントのほうも、適宜買い足しているのですけれども、このお祭りのときに必要なテント数と、通常、防災のときに必要だと思われるテント数に差があるので、なかなかテントの補充まではいかないというところもありまして、今回の安全を高めたいということのお願いのところで、消火器のお願いをしていますけれども、これ以外にも、実は今度の予算計画の中に、このための消火器を追加で既にご負担していただくように取り込んでいただいているとか、あとは、今さらなのですが、平成17年の政令で、ガスボンベを幾つか使っているのですけれども、そういうところが厳格化されて、買い取りをしろということで、1本3万円か4万円ぐらいの負担があるのですけれども、それについても次年度の予算の中に組み込んでいただいて、経済的な支援はある程度お願いをしているので、それとは別にまた今回お願いしているのは、1つだけ小さく建てるテントなので、防災テントと違って、あれは人数がいないとできないのですが、結構こぢんまりしたイベントにも皆さんで使ってもらえるようにということで、テントを中心にお願いしたいということで、今回。

○岩壁委員

ワンタッチのテントですよ。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

そうですね。本当に簡易の、2人ぐらいで組み立てられるようなものになっています。

○岩壁委員

今、ガスボンベの話も出ましたけれども、前、大阪で事故が起きて、それから使えなくなったように聞いておりますけれども。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

ええ。それで、ガス屋さんからも、今までは借りて使った分だけだったのですが、それは絶対できないから、法令遵守でということなので、その部分は自治会にお願いをいたしました。

○岩壁委員

どうもありがとうございました。

○石田委員

ご説明いろいろどうもありがとうございました。私はニジマスということにひかれて興味を持ったのですけれども、さっきおっしゃられたとおり、経済的な事情でご家族が観光地に行けなかった。子どももすごく喜んでいて、それをさばいて塩焼きにする。すごくいい企画だと思ったのですけれども、ニジマスにした理由と、ニジマスが単価1匹250円の仕入れか何かでされていますよね。そこら辺のことを教えていただければ。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

教えるというか、ニジマスにしたというのは、比較的魚の中で、私は聞いた限りなのですけれども、うろことかが少ないのと、あと、持ってきて、仕入れ値もそこ安くできるし、扱いやすい魚のように聞いています。

あとは、仕入れ値250円というのは、よくあるのは、業者さんに発注して届けてもらうと、運搬費なんかはその分上乗せして高くなるのですけれども、あえて250円で抑えられているというのは、こっちから取りに行っているのです。取りに行くと、タンクとかトラックとかをみんなで出してもらって、タンクの中に入れて、買いに行っているというので、実際、本当に単価、仕入れ値が250円かという、重さでやっているの、平均すると250円ぐらいになるというだけなのですが。

それで、何よりもコストの部分に注目しているのは、先ほど申しましたように、いろいろな方に来ていただきたいのですけれども、やはりお子さんが中心になってくるといことなので、できれば、屋台とかで出している、ブースで出している値段も抑えたいので、子どものおこづかいでいける範囲でというのをコンセプトにはしていますので、そうすると、ここに実際、今、売値というか、つかみどり料、1人300円にさせていただいていますけれども、それ以内にどうしてもおさめたかったというのが250円にした理由です。

○石田委員

どうもありがとうございました。

○椎野委員

会則を読ませていただきました。そうしましたら、構成人員の中に、おやじの会とか自治会長さん、保存会とか伝統文化の会とか、神社の方も入っているということで、そうそうたるメンバーが入っていますよね。私、これを読んでいまして、今、本当に少子化ということになっている中で、ここは子どもがふえていると。すごくいい傾向だなと思いま

した。それで、こういうお祭りというのを通して、地域のものを子どもたちの心も醸成しながらやっていくというのはすばらしいと思うのですけれども、団体同士のつながりとか、活動とか、いろいろなものがつながり合っているよということなのですからけれども、例えば、どのような団体と、これとこれがつながって、こんなふうになったよとか、地域の中で、自分のところに来てくださった方たちがほかの団体さんをつながって、こんなふうになったとか、あんなふうになったとか、そういうような結果というか、情報が入っているのかどうか。その辺を知りたかったのですけれども。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

情報が入っているというのは。

○椎野委員

どこかつながりましたよ。AとBがつながったよとか、それでこんなふうにできたよとか、そういうのはないですか。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

今、実際に目配せができる範囲のところなのですからけれども、もともと神社を中心にして活動していた団体なので、それぞれが本来単独でイベントとかをやるのですけれども、そのときにお互いにお手伝いに行ったりとか、これは神社でやる神事になってしまいますけれども、元旦に甘酒を配ったり、お餅つきをすとか、そういうときに、ここで参加してきた団体の声がかかって、手伝いに行きますというような形で、お互いに人手は足りないの、そういうところで助け合ったり、場合によっては、私はおやじの会の人間なのですからけれども、おやじの会の人間が別の団体のメンバーに加入したりとかということで、お互いにメンバーになり合うような形で、今のところ結束はかたいです。

○椎野委員

それが大事だと私は思っていたので、そういうことを伺いたかったのです。ありがとうございます。つながってください、いっぱい。

○草野委員

高齢化になって、テントが大変だというのはわかります。私も高齢化になってきたのでわかるので。その中で、今、げんき基金でお使いになると、限られた地域だけじゃなくて、そのほかの地域の方々が、先ほどありましたけれども、ニジマスはかなり魅力なのですよね。かなり多くの方々がほかの地域から参加することも懸念されるのかなということがありまして、そうした場合に、今まで、ある程度限られた部分で円満にやってきた部分が、多少崩れる部分があるのかなと懸念されるので、その辺はどのようにお考えなのでしょうか。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

確かにキャパシティというのはあるかもしれませんが、実際、出店していただいている団体さんには、実は地域を少し超えて声をかけ始まっています、顔も知らない相手だとなかなかなのですけれども、今、実際に取り組んでいるのは、まず、障がい施設ですね。障がい施設がうちの地域だけじゃなくて、別のところにあるところとかにもT O T Oのお祭りとかで障がい団体が出店しているのを見かけて、声をかけにいたりして、そういうところからまず参加していただくというような形もとっていますし、ホームページも昨年つくりまして、広くやっていっていますけれども、なんであれ、我々に一緒に参加してきたのですけれども、高齢で解散してしまった団体というのもあるので、今後は、当然、多くの方に来ていただいて、高齢化が課題にはなっていくかもしれませんが、それを支える団体さんも、より別の広い地域から入って、できるだけ今後拡大をしていきたいというふうには考えています。

○草野委員

ありがとうございました。

○高橋委員

説明ありがとうございます。一応、地域住民を中心として全市民対象という事業計画がありますけれども、大体300人ぐらいで大丈夫ですか。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

毎年300人ぐらいです。

○高橋委員

これまで最多でどれくらい来られたのでしょうか。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

チケットとかでカウントしているわけではないですし、時間帯によっていろいろ動いているのですけれども、今までご来場されたのだと300というのが上限ぐらいだと思います。

○高橋委員

そうすると、これはエリアを限定した地域のイベントというような。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

むしろ、今までげんき基金に応募するまでのやつは、広報の主体が自治会の地域回覧

で、小和田とか、隣の地域もやっていましたけれども、まだそこを超えてのPRというのはできていなかったの、参加していただくことに対しては全く制限するものではないのですけれども、なかなか知っていただく機会がなかったので、どうしてもそういう範囲におさまってきたのだと思っています。

○高橋委員

そうすると、今年度についてはホームページとかチラシ・ポスター云々ということで、広いエリアでの告知をするということになるのですか。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

まず、回覧は、隣の自治会にもお願いすることになっていますし、ポスターなんかもそういうことでやっていこうと思っていますけれども、相当離れたところにこれを持っていってください、やってくださいというのは、まだできていないことなので、ホームページだけでまずは反応を見たいなと思っています。

○高橋委員

ホームページは今回初めてという。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

ホームページは初めてです。

○高橋委員

イベントが目白押しになる時期は、イベント情報を調べて、いろいろなところから来る人は結構いるのですね。そうすると、想定外の人数の人が来た場合に、事故のこととか、警備のこととか、そこら辺を、これもやってみないとわからない部分はあるかもしれないですけれども、想定はある程度しておいたほうがいいのじゃないかなという気がしました。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

わかりました。会場周辺の交通整理とか、いろいろなところは、菱沼自治会にご協力いただいて、人を出していますので、ことし改めてそういうことも含めて、人員の増強をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○大江委員長

今回、テントを少しまとめて備品として買いたいということが一つの応募のきっかけになっているように受けとめているのですが、もう20回もやっていらっしゃるし、運営の仕方についても安定しているような感じがしますので、今回、このげんき基金を通った

ら、こういった形で TENT を補充して、そして、この応募は 1 回きりという感じでお考え
なんでしょうか。それとも、げんき基金はまた応募はできるわけですが、ステップ
アップとかですね。それはどう。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

絶対これで終わりにしますというお約束ではないのですけれども、ただ、まず、計画
としては。

○大江委員長

どんなふうに将来考えていらっしゃるか。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

例えば、ホームページで公開するとかで地域が広がっていけば、その規模の拡大に応
じて、また何か援助していただきたいということが出てくれば、応募はさせていただこう
と思いますが、当面ここでどうしても何とかしたかったのは、先ほど申しましたように、
子どもたちの安全を確保したいということと、それから、このうちの 1 基は、昔ながらの
子どもは外で着替えればいいやみたいなことがあるのですけれども、舞台でフラダンスを
踊ってくれる子どもたちがいるのですけれども、今の時節柄、子どもを外で着替えさせる
わけにいかないの、着替え場所がどうしても必要になっているのです。そういうこと
で目隠しして、ちゃんと安心して、特に女の子なので、今の時節柄で、子どもたちの人権
とかにも十分配慮したことをやりたいということを出していますので、これをやれば、一
定、我々が考える安全性とか人権への配慮ができると思いますので、しばらくはまた自分
たちで頑張りたいと思っています。

○大江委員長

では、時間になりました。どうもありがとうございました。

○ふるさとふれあい祭り実行委員会

どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

では、4 つ目になります。映画「普通に生きる」上映会につきまして、mana 様です。

○事務局

では、最後、mana さんからのご提案でございます。お願いします。

○mana

よろしくお願いいたします。

資料は79ページからで、パワーポイントもありますので、ご覧ください。

映画「普通に生きる」の上映会を企画しました。私たちは、manaという名前で市内で活動している団体です。何らかの病気により、経管栄養や酸素療法など、医療的ケアを必要とする子どもと親のサークルです。

ちょっとお聞きしてみたいのは、重症心身障がい児、医療的ケア児と聞いて、どんな子どもたちなのか、思い浮かびますでしょうか。サークルに来ている子どもたちは、医療的ケアがあり、多くは重症心身障がい児と呼ばれる子どもたちです。赤ちゃんがオギャーと産まれて、首が座り、お座りをして、歩きといった変化は、1年ぐらいの間に一般的には起こりますが、この子たちは、例えば、授乳ですね。ちょっと難しいです。吸うとか飲み込む、難しいですね。管を使い、鼻から胃へ直接送ります。

例えば、この写真は、右の子は、3本お鼻のところに付いているのですけれども、酸素のチューブと十二指腸、胃、それぞれに送るチューブです。左の子は、注射器のようなものを使ってお食事を胃に直接送っている写真ですね。動くことも、首が座らないことも多くて、座るとか、歩くことが難しく、大きくなってからも注意して抱き上げることが必要です。

お話しすることも、できても限定的で、その子の発する何らかの反応でコミュニケーションをとります。反応がとても乏しくて、かわりに、ちょっとした息づかいや脈拍とか体温の変化で、うれしさとかやる気とかを感じ取ります。体調の崩しやすさは、一般的な子どもたちに比べると、約10倍ぐらいは崩しやすいと思います。とても大変です。かわいそうとか、よく言われたりもしますが、私たちメンバーは、多くは、そうでもないと感じています。とにかく、子どもたちをよく見て、反応を待って、くみとって、変わらないように小さな変化を見つけていきます。そんな繰り返しの中で、子どもたちの姿と成長を理解するうちに、病気という困難な運命にありながら、生きて、家族になれた幸いを見出します。発達は難しい。人の手を借りなければ何もできない。その子の人生のすばらしさとメッセージに気がつきます。方法や見た目は違っても、これはどんな子育てにおいても変わらないのじゃないかという思いを強くしました。むしろ、私たちの子育てから得た経験は、育児に悩んだり、不安や戸惑いを持つ子育て仲間に発信すれば、子どもをよく見て、反応を待って、くみとって、小さな変化を見つける喜びに改めて気づいていただけたと思います。

以上のことを発信する方法として、映画であれば、彼らの姿を一番伝えやすいと考え、「普通に生きる」の上映会を企画いたしました。

静岡県の重症心身障がい児通所施設「でら〜と」の5年間を追ったドキュメンタリー映画です。でら〜とに通う方は、動くことも話すことも難しい方ばかりなんですけど、決められたプログラムを毎日こなしているわけではありません。きょうは何をしたいのかとか、

スタッフの方がよく見て、反応を待って、くみとることで、自分で決定して活動をしています。そうした内容から、私たちの思いが一番伝わるのではないかと思い、この映画を選ばせていただきました。

上映会の概要ですが、子どもたちの体調が一番落ち着いていることの多い10月を予定しています。利便性も考慮し、文化会館かコミュニティホールを予定しています。料金は500円。10名程度ですが、託児サービスも予定しています。ワールドカフェ方式で5～6人のグループをつくり、映画の感想を否定することなく、話し合い、意識の醸成を図ります。

集客方法としては、フェイスブックのイベントページなど、SNSやチラシの配架を予定しております。

メインターゲットは、健常児の子育てをしている親世代の方です。人と人とのかかわりの中で生きる彼らの生活と生きざまは、それを観た方の心に強く訴え、きょうからの子育てを肯定的に捉えるチャンスを与えてくれると信じています。

最後になりますが、子どもたちが一番思っているであろう、生きていくにはさまざまな姿があつていい。どの人もオーケー。このメッセージが伝わることは、それぞれの親子を元気づけ、市民の皆様の大きな利益となり、私たちの活動にとっても大きなモチベーションになると確信をしております。

以上でございます。ありがとうございました。（拍手）

○大江委員長

それでは、質疑に移ります。

○岩壁委員

どうもありがとうございました。ちょっとお聞きしたいのですけれども、趣旨につきましては、私個人的には大変共感しております。こういう方がふえると、もっともっと社会が元気くなるのかなというような感じがいたします。これは理解者が広がるということがすごく大切なのかなという感じと、それから、お母さん、特に保護者の方々がいつも24時間見ているものですから、結構心身ともどもお疲れになっていると思うのですね。そういう方のケアとか、例えば、時間をつくってあげるとか、そんなような配慮はあるのですか。

○mana

私、副代表のコヤマと申しますが、私のほうから回答させていただきます。

まず、重症心身障がい児や医療的ケア児を抱えていらっしゃる親御さんも観に来ていただけるようになっていて、そこには私たちが実際に利用しているマザー湘南という医療的ケア児のデイサービスで茅ヶ崎で運営していらっしゃる会社さんがあるのですけれども、

そこの看護師さんが数名来ていただけることになっているので、映画の上映中とワールドカフェ中、約2時間半は離れていただけるようになっています。

○岩壁委員

結構な時間はほっとできるように。

○mana

そうですね。ほっとできるかどうかですけれども（笑）、自分だけの時間で、かつ、自分だけの意見を子どもをのことに気にせずやっていただける時間を持っていただけるとは思っています。

○岩壁委員

もう一点だけお聞きしたいのですが、活動の継続性とか、仕組みづくりというのは、どんなことを考えていますか。

○mana

実際に私たちがサークルで集まっている活動は、既に7年たっているもので、継続性というところは十分あると思います。今後は、こういうふうに関に発信していくというところに関しては、今回が初めてなので、まだまだ、それをもって次どういうふうに行っていけばいいかまでは、現段階では練れてはいません。でも、おっしゃるとおり、周囲の方にいろいろと理解をしていただくということはすごく重要だと思うので、何かしら行っていけばいいなとは思っています。ただ、私たち、医療ケア児は本当に体調が読めなくなるので、細々と行っていけばいいなとは思っています。

○岩壁委員

どうもありがとうございました。

○石田委員

ご説明、いろいろどうもありがとうございました。今、虐待の問題がすごくあるじゃないですか。どうして虐待するのか。成れの果ては死にまで追いやってしまうようなお父さんとお母さんもいる状況の中で、これを見ていただいて、健常児の方でも悩んでいる方も当然いらっしゃる中で、みんなに広く。私は、これ、あくまでも告知の方法だけだと思っているので、今、フェイスブックとか、ツイッターだとか、SNSと書いてありましたけれども、これが一番のポイントのような気がするのですけれども、もう少し告知の方法を今後告知をこうしていきたいとかという希望があれば、教えていただければと思います。

○mana

上映会に対する告知ですか。

○石田委員

そうですね。

○mana

実際にいろいろなイベントや映画の上映会を企画している知人や友人にヒアリングをして、実はフェイスブックとツイッターが一番よく集まるよということと、それと、アナログでチラシを掲示板に張ることとタウン誌がいいよというふうに言われたので、今回、そういうふうに書きました。

ただ、LINEなどは子育て世代にはすごく親和性が高いかなというふうには考えていて、実際、今回のいろいろな事業計画書にもそれを使われているサークルさんがあったので、それはちょっと考えなければいけないかなというふうに思っています。

あとは、広報紙とか、茅ヶ崎のタウン誌とかまでは考えてはいるのですけれども、それ以上まではまだ練られていないです。

○石田委員

ありがとうございました。

○草野委員

ありがとうございました。必要な団体だと思っていますし、継続していつていただきたいと思っています。なおかつ、上映できれば、なおさらいいなと思っています。その中で、先ほどもありましたけれども、発信していくということが大事だと思っています。今回、収支予算の中にはなかったのですけれども、この団体としてチラシか何かがあるとか、この後つくるという予定がありましたら、例えば、この上映会のときに配布するとか、そういうことも一緒に考えて、継続性をさらにさらに高めていつてもらえればなと思っていますけれども、その点、いかがでしょう。

○mana

冊子のところも最後のほうにつけさせていただいているのが、A4、1枚ぐらいのチラシでして、市立病院さんにはちょろっと置かせていだたりとか、あと、東戸塚にある、私たちがよく行く子ども医療センターという病院には置かせていだたりしています。予算には入れていないのですが、私たちサークルでA4の用紙をたくさん持っているのです、何枚かコピーして、上映会の後に広報をして、必要な方は持っていつてくださいというふうに言うつもりです。

ただ、会の特性上、重心児や医療的ケア児や何かしら知的障がい児の親御さんを中心にしたサークルなので、健常児の親御さんをメインターゲットにしている以上、あまりターゲットになる方はいらっしゃらないかなと思っています。でも、実は、私は違うのだけれども、私の友人が病気のお子さんがいてとかという方は、実は何人かいらっしゃるのですね。プレゼンをしにいったことがあるのですけれども、そうすると、何人かの方にお声がけいただいて、サークルのことを質問されることがあるので、それだけでも、数人だったとしても非常に有意義かなと思っていますので、ぜひ広報できればかなと思っています。

○草野委員

わかりました。ありがとうございました。

○椎野委員

こちらのほうで、今、お話が出ましたけれども、ターゲットが健常者の親と。私はそれ、びっくりしたのですよ。こういうお仲間ですらやっていらっしゃると、とかく仲間意識があって、仲間同士でつながろうよという傾向があるのですけれども、そうではなくて、自分たちの思いやあれを健常者の方にお知らせして、そして何か気づいてほしいという、そういう思いが強いなということを思ったのですね。

あとは、ワールドカフェをおやりになったときに、いろいろな意見が出ますよね。もちろん、そのときには健常者の親も参加していらっしゃっていると思うのですけれども、そのときに出したのをレポートにしてまとめるとおっしゃっていましたが、そのレポートを、それをどうするのということではなくて、気づいて、こんな意見が出たよということを、多くの市民、そして健常者に知ってもらうというところまでがこの会の目的なのですよね。結果を、それをどうしようではなく。だから、拡散するとか、多くの人に理解を求めるという意味では、これから健常者をターゲットにしながら、ずっと進めていくというのが大きな役割かなということを、説明を聞きながら、よくわかりましたので、ぜひこれからも続けていっていただきたいと思います。ありがとうございました。

○高橋委員

説明ありがとうございました。

上映の入場人数。1回50ぐらいを目安ということですよ。こういった形の映画とか、あと、いじめに関するドキュメントだとか、これまでの経験だと、チラシとかフェイスブックとか、30人から50人ぐらいだと、すぐいっぱいになるのですよ。たぶんすぐいっぱいになります。どうしても集まらなかったら、新聞とか日刊紙とか、投げ込みとかをすると、取材で記事にしてくれるところもあるので、そういうのをぜひ利用されるとよろしいかと思います。茅ヶ崎の記者クラブというがあるので、そういうところに情報提供するのもいいと思います。

あと、斉藤さんは昔、取材の絡みがあると思いますが、市内のフリーペーパーなども

あるので、ぜひ活用されると、情報提供されるとよろしいかと思います。

質問じゃなかったですけども。

○大江委員長

これは1日で2部制というか、入替制みたいな形で、同じことを2回やるという、午前と午後ということですが、参加希望者がどっちかに偏ってしまったりということが起きる懸念とか、あるいは、上手に午前と午後、割り振るための準備とか、そういうことを考えていらっしゃるのでしょうか。

○mana

そこまでは考えていなかったことが正直です。人数50名よりふえた場合のことは考えていたんですけども。

○大江委員長

それはどんなふうに。

○mana

立ち見席をどうつくるかとか、あとは、ワールドカフェまでは、人数制限でマックス50名までで、それ以外の当日か、もしくは近々で飛び入りで来たいとおっしゃった方は、残念だけでも、上映会だけでというふうにするかというふうな感じでは考えていました。午前、午後をどういうふうに分散させるかまでは考えが及ばなかったのですが、たぶん、フェイスブックのイベントページや、あと、自分たちのEメール、電話番号も載せるので、ある程度事前に予約が入ってくるというふうに見込んでいるので、それで何とか調整ができるのじゃないかなと思っています。

○高橋委員

質問じゃないんですけども、こういう募集ものは想定外の人数が来ることがあるので、申し込みの段階で、時間の希望ですね。打ち出すときに、事前にご予約をといるのを入れて、ある程度の人数把握を観察したほうがよろしいかと思います。

○mana

わかりました。ありがとうございます。

○大江委員長

この上映、自主上映みたいな形でいろいろなところでやっていると思うのですが、こういう形の映画の場合は、その映画のサイトか何かがあって、今度はここでやりますとい

うふうに広報している場合がありますが、ここも同じですか。

○mana

載ります。

○大江委員長

じゃ、そっちからも上映会の情報はかなり広がっていく。

○mana

情報は広がると思います。

○大江委員長

ほかはよろしいでしょうか。

じゃ、以上で終了させていただきます。どうもありがとうございました。

○mana

ありがとうございました。（拍手）

○事務局

これで4団体終了でございますので、まだ後ろでやられているので、終わったら、また元の席をお願いします。

【スタート支援総括質疑】

○事務局

それでは、再開いたします。

以上をもちまして、予定しておりました8団体様からの公開ヒアリング、終了いたしました。これより総括質疑を開始いたします。市民活動推進委員より質問がございますので、お答えいただく提案団体の皆様は、お席にお持ちするマイクを利用いただいております。

それでは、委員長よろしくをお願いします。

○大江委員長

皆様、どうもありがとうございました。これより総括質疑に移りたいと思います。

この総括質疑は、市民活動をより発展させて、今後、市の中でこうしたほうがよりよい財産となって蓄積されていくという意味で、建設的な発言、ご質問、議論ができればという趣旨でございます。市民活動の特性であります公益性や専門性等に視点を置いて、日

ごろの活動をする中でお感じになっていること、あるいは、活動に参加してお感じになっているところをいろいろと発表していただきながら、会場の皆様が自分の活動の成長や、さらに公益的な事業に発展していく展望が持てるといったような部分で議論を展開していくことができると考えております。

というのが行政のほうで用意してくださった読み文なのですが、こういう発表の場に参加しますと、それを聞きながら、いろいろ自分の中で刺激されて、こういうことを考えたり、それをちょっと発言してみたい、そういうふうにする場面が我々にもありますし、たぶん皆さんも同様にあると思うので、発表された団体も、ご自身の発表だけではなくて、ほかの団体のことを聞きながら、何か気づきがあったりとか、そういうことを率直にご発言いただければいいのかなというふうに思っています。

あるいは、時間が限られていたので、もう少しご自身の団体のことを発言したいということでも構いませんので、どうぞご自由にご発言いただければと思います。また委員の皆様も同じようにご自由に発言していただければというふうに思っております。

時間は15分ぐらいでございますので、どうぞどなたからでもご発言を始めていただければと思います。どうぞお願いします。

○伊藤委員

きょうは朝早くからありがとうございます。大変関心いたしました。50年前に比べると、1つ隔世の感があるのは、受益者負担という言葉であるとか、会費を幾ら取るか、会費を取らないか、あるいは、業務委託のように人にお金をあげて何か主力事業をやってもらうという考え方がふえたように思いますが、ほかの団体の説明を聞いていて、受益者というのが何であるか、あるいは、受益者負担というのは何であるかということに関して、何か感想を持った方、いらっしゃったらお願いしたいと思います。

受益者というのは、直接の受益者を誰に置くかによって変わってくるわけですね。例えば観劇であると、観客が受益者だろうとか、あるいは、母親だったら、その家族全体が受益者であろうとか、いろいろな考え方がある。一方、げんき基金は、税金と寄附によって成り立っているわけですが、受益者は、一応想定としては茅ヶ崎市民全体が想定されているからこそそのげんき基金だと思うのですが、そういう意味で、お金の色分けがいろいろとあると思うのですが、皆さんは、会費を取られたり、取られなかったり、あるいは無償で何かされている中で、受益者というのはどういうふうに思われるか、ほかの団体の方々の説明を聞いてどう思われたか、感想があれば、お願いいたします。

○大江委員長

受益者についての考え方、それから、その負担をするということについて、受益との関係をどう考えるかというようなことでございますが、いかがでしょうか。どうぞお願いします。

○ひろっぱclub

ありがとうございます。ひろっぱclub代表の中川です。

考えさせられました。それで、今のお話も伺ってそうなのですが、私どもは会費が無料になっていまして、まさに今おっしゃっている受益者負担という形。ただ、受益者といっても、イベントの開催時に参加費を取るという形で、しかも、一番の受益者かもしれない子どもからは取らないということなので、受益者非負担もあるという形になっていると思うのですが、今お話を伺ったところで、おっしゃるように、直接的なイベントに参加して楽しめるという受益と、あと、その関係性を深めることで、市全体がいい方向に向かっていくという、ちょっと薄くはなりますけれども、間接的な受益者というのが広がりを見せるのだらうなと思って、確かにそのための基金なのだらうなというのを改めて感想として持ちました。また、その方向に向かって活動していければと思いました。ありがとうございました。（拍手）

○大江委員長

では、ほかの方もどうぞ積極的にご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

ことは、我々のBのほうだったのですけれども、お笑いライブという今までにない提案があったのですが、いかがでしょう。受益とか負担とかということについて。

○チガワン

難しすぎて、何と答えたらいいかわからないですけれども、我々のチガワンの観点で話させていただくと、ライブを観に来てくれた方が一番の直接の受益者になるということで、この制度の根本は、自立していくための足掛かりとして制度があるので、無料にしたら、確かにもっとお客さんも来るし、受益者はふえるのですけれども、永遠にこの補助をもらい続けなければいけない状態になるので、そこはどちらを取るかというところで、じゃ、料金をふやしますというと、黒字になっていくのですけれども、値段が上がっても来てくれるようなライブをしていくとか、でも、そうすると公益性がちょっとおかしいのかなとか、そんなふうに考えているので、我々は、500円というちょうどいい料金かなということでやっています。お笑いを見るにとしてはかなり安い。

このライブに来た人だけが受益者というよりは、茅ヶ崎でお笑いライブをやっているおもしろいじゃん、茅ヶ崎に住んでいる人が、お笑いを茅ヶ崎からやっていて、なんか茅ヶ崎いいじゃんと思ってくれることによって、全体的に茅ヶ崎にいい影響というか、盛り上げるというところだと思いますけれども、そういった効果にもなれば一番いいなと思ってやっています。

次回、6月8日の市民文化会館のミニホールでやりますので、皆さんよかったら観に来てください。500円です。

以上でいいですか。すいません。

○大江委員長

ありがとうございます。直接の受益者と間接的な受益者と、そういうことがあるということを知って、そのことで、あ、いいなというふうに思うという、そういうことを醸成するという役割があるというお話でした。

委員の側からも、この点についてもう少し意見交換できればと思いますが、いかがでしょうか。私はこう思うということについて。椎野さん。

○椎野委員

先ほどもちょっとご質問したのですけれども、今のライブの件ですけれども、それだけ醸成してうまくなっていったら、市内外でも、もし要請があったら来ていただけますか。

○チガワン

はい、来ます。

○椎野委員

じゃ、はるばるとまたご相談申し上げてお願いしたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○大江委員長

ほかは。どうぞ北川さん。

○北川委員

ありがとうございます。

今、チガワンさんのお話をお聞きしていて思ったのですけれども、私個人といたしましては、公益的な事業だから安くしなくちゃいけないのかというと、僕はそうは思っておりませんでして、大切なのは、今回は10万円というスタートアップの支援で、その効果が地域にどう生かされるのかという話だと思うのですよね。例えば、その金額は500円じゃなくて3,000円ですよといったときに、それでも来られた人から得られた情報をどういうふうに地域に還元するのかという事業の構築の仕方もあるかなと思っております、そもそも事業を安くすれば、みんなのためになりますよねというお話をしてしまうと、そもそも事業が広がらないというのは、根本的に公益事業はなかなか成り立たないよねという話になってしまうのかなと思うのですよね。なので、本当に地域のために公益的であるというのは、その効果がより広がって、地域がよりよくなるのだよねということに一つの軸を持って構築をされるというのでもいいのかなと考えまして、このお話をさせていただきました。

○大江委員長

ありがとうございます。どうぞ。

○タカヤナギ

タカヤナギと申します。

最後の「普通に生きる」。映画ですね。あれは、50人の定員で、2回で100人ですね。500円ですから5万円ですか。普通、映画を借りた場合、結構するのですよ。最低でも4万とか5万とかしますよね。だから、この映画を上映するに際して、一体どこから買ってきたのか。無料で借りたのか。その辺を聞いてみたいなと思ったのです。

もう一つは、障がい者の映画ですよね。そういう映画に対して、例えば、字幕がつくのかどうか。あるいは、映画としてバリアフリーがあるのか。その辺がはっきり説明されていなかったかな。聞いてみたいなと思いました。お願いします。

○大江委員長

借料については、この資料の中に貸出料が7万5,600円というふうにちゃんと出ておりますので、今のご質問に対して、あまり時間がないので、手短にお答えいただければと思います。よろしくお願いします。

○mana

映画の貸し出しにつきましては、資料にありますように、団体さんからの貸出料という、余分人数を含めての値段設定がございまして、それにのっとって書いてあるものがこちらの貸出費用になっております。

字幕については、私、一度観たことがあって、字幕が出たと思うのですが、定かでないので、確認をしたいと思います。

会場につきましては、来る方がおそらくいろいろな状況にある方がご来場されるということも想定しておりますので、会場などは、駐車場があったりですとか、お手洗いであったりとかが比較的配慮されている会場を今確保しようとしているところでございます。

○大江委員長

ありがとうございました。

今、受益とか負担ということをめぐって意見交換しました。何かもう一つぐらいトピックというかテーマがあるといいかなと思いますが、会場からでも委員の方でも結構ですけども、少し話し合ってみたいことはございますでしょうか。どうぞお願いします。

○ハスキーズギャラリー

すいません、ヒアリングに来ないで。映画の関係があったので。

私どものほう、ハスキーズギャラリーと言いまして、一応基金のほうへは寄附を一つの

コミュニティビジネスという形でやらせていただいているのですが、去年は、映画、山田耕筰が出演している、「ここに泉あり」というところを独立プロから借りて、ことしは、今、横浜のジャンク&ベティというところでもやっているのですが、山形県酒田市にある60年続いているバーがありまして、そのバーの「YUKIGUNI」という映画を、ざっくばらんに言うと、映像著作権を借りてやっていくということなのですが、今、感じているのですが、そういう映画の茅ヶ崎映画祭というのが6月にあるのです。これに合わせた形で、パブリックなところでやっていただければいいかなというふうに、私どものほうも去年も茅ヶ崎映画祭、参加しました。うちだけではなくて、「マナスルに立つ」という、茅ヶ崎在住の登山家の方の映画をやられたり、茅ヶ崎館で小津安次郎の映画なんかもやっていますけれども、そういうところで合わせた形でこういう映画なんかもやっていただければいいのではないかなというふうに感じました。よろしくお願いします。

○大江委員長

ありがとうございます。

いろいろの機会の持ち方というのは、ご存じである、情報を持っていらっしゃる方につなると、別の観点がでてくるかなというお話でした。

では、益永さん、どうぞ。

○益永

私はチガワンをすごく楽しみにしているのですけれども、参加費の考え方ですけれども、木戸銭みたいな形で、すごくよかったねと思った方には、帰りにもちよっとお金を入れてもらえるような箱を設けるとか、あるいは、飲食店さんとか地元の企業さんに事前にチケットを買ってもらう。例えば、協賛金のような形で5枚とか10枚買ってもらって、それをお客さんが誰かに広めてくださいというような、巻き込み型のお金の集め方もおもしろいと思いました。

私、「まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎」というのを20年間やってきたのですけれども、富士山を守る活動のときに、1口500円、協賛金何口でもというのでお金を集めて、例えば、5000円もらったら、でき上がったマップ100部、今度は誰かに配ってくださいということをやったので、いろいろな形で参加してもらうことがあっていいのかなと思って、基本的にいろいろな方に、また来たいな、このお金を生かしてもらってうれしいなと思ってもらえるような、そんな部分もぜひつくってもらえるかなと思って、チガワン、私は期待しております。（拍手）

○大江委員長

ありがとうございます。

時間が30分で終了というので、最後に私、挨拶をするということで、あと2～3分な

ので、もうご発言がほぼ出尽くしたということであれば、簡単にご挨拶をおしまいにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

きょうは長時間ありがとうございました。いつも同じことを言っているのですが、最後の総括質疑というのはとても意味があることで、いろいろと振り返りになる機会だというふうに思います。

今、受益とか負担ということについて意見交換がありましたけれども、事業性があるもの、今、最後に益永さんがチガワンについて、もっといろいろアイデアを入れていけば、事業としての成立がもっと高い水準になっていくと。そう思いますし、そういった形で、もし黒字がたくさん出たら、げんき基金に入れていただくと、ほかの活動のほうにプラスになっていくということがありますので、事業的にいろいろ構想できる部分のものもありますし、それから、なかなかそうはいかないような部分もあったりしますので、いろいろなタイプの事業があるので、それぞれがある程度の、そこに全員が参加するわけじゃないので、参加してくれる方から料金とか寄附とかをいただきながらやっていくというのは、非常にいい形かなと思います。

それは、おもしろかったからお金を払っていいやということもあるかもしれませんが、支援したいから、そこで参加してお金を払うのだということもあると思いますし、お金の受け渡しというのはいろいろな意味があると思うのですね。ですから、単なるある種の益がある。自分にとって意義があったということのための対価というだけじゃない、いろいろな意義があると思います。

あと、主催する側のほうも、実行する側のほうも、そこからいろいろな情報が得られるという点において、それを生かしていくということが必要かなと思います。

私も大学を2年前に退職したのですが、前の同僚で、カレーキャラバンというのをやっている先生がいて、いろいろなところに行って、カレーをそこでつくって、地元の素材なんかも入れてつくって、ただで振る舞うのですね。その費用は全部自分持ちということでやっているのですけれども、そのことで彼は1つ本を書いたのですね。「カレーチャーハン本」というのを。

その中に書いてあったのですけれども、あるときやっていたら、来た人が、あんた、こういうことをもっとやったほうがいいよというふうに言ってくれて、これはとてもいい活動だよというふうに言われたときに、彼は、自分が本当に何をやりたくて、何をやっているのかということ、ある程度あいまいにしたままやっていたのですね。それを、そのやりとりのときに、これは、ある種の趣味の活動みたいなもので、いい趣味をやっているねと言われたのです。いい趣味をやっているねと言われて、確かに趣味だと思えば、例えば、何かを習うときに、お金を出して習いに行きますよね。そして教えてもらったりするわけですが、それと同じように、自分でお金を出してカレーを振る舞うというのは、そういう意味があるのだということに気がついたということを書かれていて、無償の行動みたいなものというのも、そこにやりとりが生まれるわけで、そこにいろいろな意味が含ま

れているということで、お金をどういうふうにもらうのか、払うのか、あるいは無料なのか、いろいろとタイプがあって、そこに多様な関係性が出てくるところがおもしろいところかなというのを、それによって気づかされたことがありますて、きょうもそのことを聞きながら思い出していたということがあったので、ちょっとお話をさせていただきました。

結果はこれから出てくるわけですがけれども、こういった活動が豊かになっていくことを本当に願っています。

ということで、私の午前中のご挨拶というふうにさせていただきます。

どうもきょうはありがとうございました。また今後よろしくお願いいたします。（拍手）

○事務局

ありがとうございました。

本日のヒアリング内容を評価し、補助金の交付決定に関する通知は、3月の末から4月の上旬を目途に通知をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

また、本日この後、午後1時から、同じ会場にて、来年度実施事業のステップアップ支援に向けた公開プレゼンテーションを開催いたしますので、ご興味がありましたら、こちらの会場でご見学いただきたいと思います。

以上をもちまして、平成31年度実施市民活動げんき基金補助事業公開ヒアリングを閉会いたします。

皆様、長時間にわたりありがとうございました。（拍手）

【ステップアップ支援発表】

○事務局

みなさま、こんにちは。公開プレゼンテーションの開会に先立ちまして、本日のスケジュールについてご説明いたします。本日、これから15時30分ごろまでのお時間で、ステップアップ支援に応募いただいた5団体のプレゼンテーションを行います。お配りしております冊子の1ページをご覧ください。このあと13時10分から、プレゼンテーションを開始します。

プレゼンテーションでは、最初に、事業企画を提案した各団体より10分程度で提案内容についてプレゼンテーションを行っていただきます。短い時間ではありますが、時間内でまとめていただきますよう、ご協力をお願いします。開始から5分が経過したところで、1回ベルを鳴らします。（ベルを1回鳴らす）次に終了1分前に、再度ベルを鳴らします。（ベルを1回鳴らす）10分が経過したところで、2回ベルを鳴らします。（ベルを2回鳴らす）これをもってプレゼンテーションは終了です。発表者の方は途中であっても終了してください。その後、質疑応答を行います。質疑につきましては、疑問点等を解消し、採否を判断する上での判断材料となります。限られた時間の中で、できるだけ疑問

点等を解消するため、質問及び回答につきましては、一問一答形式でお願いします。質疑も10分以内で行います。時間になりましたらベルを鳴らします。（ベルを鳴らす）ベルが鳴りましたら、それをもって最後の質疑といたします。質問者・回答者ともに手短にお願いします。この公開プレゼンテーションは、15時30分頃の終了を予定しております。プレゼンテーションがスムーズに進行できますよう、ご協力お願いいたします。

全事業のプレゼンテーション終了後、市民活動推進委員会による評価会議は3月19日を予定しております。評価会議は、非公開とさせていただきます。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。なお、市民活動推進委員会委員は、自らもしくはご家族が関係する団体の提案事業の評価を行うことができないルールとなっております。

評価項目と採否の基準は、冊子の3ページのとおりです。「公益性」「発展性」の項目を、各10点満点、その他項目を5点満点で評価し、50点満点の60%、30点を補助相当団体の目安とし、金額の枠内で、プレゼンテーションの順位に応じて、採否を検討します。

平成31年度実施事業候補は、本日の結果を受けて、市長が最終的に決定します。結果につきましては、提案団体の皆さまに、3月下旬から4月上旬ごろに書面でご連絡いたします。また、市ホームページ等でも一般に公表してまいります。事業終了後には実施報告会の場で、事業実績と収支決算の内容を報告していただきますのでよろしくお願いいたします。最後になりますが、この補助金は市民活動げんき基金を原資とした補助金です。4ページに概要、6ページから9ページにかけて、ご寄附いただいた方々を記載しております。冊子背表紙をご覧ください。梅田小学校の向かいにあります茅ヶ崎市体育館に設置された、「湘南ヤクルト販売(株)様」の自動販売機、及び、小和田公民館に設置されてございます「ダイドードリンコ(株)」様の自動販売機の売上げの一部を、このげんき基金にご寄附いただいております。また、本日は会場内に、市民活動げんき基金の募金箱を用意しております。ご来場の皆さまにも、制度の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。なお、本日の公開プレゼンテーションの様子は、広報紙・ホームページ掲載用又は記録用として写真撮影をさせていただきます。あらかじめご承知おきください。以上でございます。

それでは、ただいまから平成31年度実施 市民活動げんき基金補助事業公開プレゼンテーションを始めます。はじめに、茅ヶ崎市市民活動推進委員会の大江守之委員長よりごあいさつ申し上げます。

○大江委員長

みなさま、こんにちは。只今ご紹介頂きました市民活動推進委員会委員長の大江でございます。委員を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

茅ヶ崎市では平成17年度より、市民活動げんき基金補助制度を運用し、市民活動の推進を図っているところでございます。これまで約140団体に対し補助をしてきました

が、その中では、自立し活動を飛躍させた団体、行政との協働推進事業や行政からの委託事業を実施するような発展を遂げた団体などもいらっしゃいます。今年度も、これまでと同様に、茅ヶ崎市民活動サポートセンターのご協力をいただき、企画書作成会などを実施しながら事業を募りましたところ、午前中のスタート支援8団体と、これから審査いたしますステップアップ支援5団体から、合わせて13事業の提案がそろいました。今回ご提案頂いた事業は、それぞれ、各団体の特性を生かした貴重な提案です。審査にあたりましては、事業の企画書、収支予算書等、詳細について、慎重に検討してまいりたいと考えております。そのため、質疑につきましては若干厳しめの質問をさせて頂くこともあろうかと思いますが、ご理解頂ければと思います。

では、本日出席している委員を紹介させていただきたいと思います。わたしのとなりから中川副委員長です。前列より、そして前列、西野委員、森委員、秦野委員、北川委員、伊藤委員、水島委員、でございます。次に後列です。草野委員、椎野委員、石田委員、高橋委員、岩壁委員、でございます本日は、私を含め以上の13人の委員で進めてまいります。よろしくお願いします。

○事務局

委員長ありがとうございました。

それでは、公開プレゼンテーションを開始いたします。

1団体目、C.C.C. THEATERの皆様、ご準備をお願いいたします。

それでは、「ちがさき・子ども演劇フェスティバル～赤ちゃんから幼児に向けた演劇鑑賞～」の事業について、C.C.C. THEATER様からのプレゼンテーションです。よろしくお願いします。

○C.C.C. THEATER

皆さんこんにちは。C.C.C. THEATERです。

今回で2回目の助成金へのチャレンジという形をさせていただいております。昨年度は、ご支援いただきまして、子ども演劇ワークショップという形で、演劇鑑賞とワークショップを2日間にかけて体験していただくといった事業をさせていただきまして、そのさらなるステップアップとして、今回、申請をさせていただいております。

今回の内容を説明させていただく前に、簡単に我々についての説明をさせていただきます。

2017年に立ち上げをさせていただいた団体でございます。主に小学生、また中学生をメインに、子どもたちに、演劇を通じて、その子たちが成長した将来の未来を生きる力を培ってもらいたいという思いで、演劇を指導、また鑑賞する機会を提供しております。

私たちが大事にしているのは、ここに三角形で記載させていただいているのですけれども、演劇という手法を使って、想像、イマジネーションですね。それから、さらにその

想像をつくり出す創造。そして、つくったものを発表する機会を経験してもらう。そして、お客さんに対しての直の評価を得て、それでさらにどうしたらいいかという、自分で、子どもたち自身で考えて、またそこから想像すると、そういったサイクルを通して、いろいろな疑似体験、演劇を通して、疑似体験を通して、自分たちの未来に生きる力を培っていくということを大切にしております。

これは、みんなで演劇鑑賞に行ったときの写真でございます。

これは、少し手法は違うのですが、柳島キャンプ場で行われたお祭りの会場を貸していただいて、段ボールを使ったワークショップをさせていただいたときの絵でございます。

こういった活動をしているのですけれども、先ほど言わせていただいたとおり、昨年、助成いただいたワークショップの様子ですが、まず1日目、演劇鑑賞で「小さな家」という作品を鑑賞していただいて、多くの子どもたち、また親御さんに、演劇を観る機会を提供することができました。

観た上で、翌日に実際に創作を体験するという事で、ワークショップを柳島のほうで実施をさせていただきました。1日を通して長い時間だったのですが、子どもたちが飽きることなく、集中して楽しんでいる様子がとても印象的でした。

そういった事業を昨年度実施させていただいた上で、いろいろな保護者の皆さんとかからのご意見とか感想をいただいた上で、もっと小さな子にも観られるような演劇の体験というのはないのだろうかとか、実際、演劇を観に来ていただいたときに、乳幼児であったり、赤ちゃんを連れてご参加いただいた保護者の皆様もいらっしゃいましたので、我々にしてみれば、赤ちゃんとか乳幼児に向けた何か取り組みができないかということもございまして、本年度はちょっと枠を広げて、赤ちゃんから、また幼児に向けた演劇鑑賞ということで提案をさせていただきたいと思います。

日程は、2020年の3月の土日の2日間で、市民文化会館の展示室または練習室を使用して実施したいと考えております。

赤ちゃん向けの作品なのですが、ベビー向けのシアターということでここに表記させていただきましたが、日本ではそんなにまだ広く知られてはいないので、欧米だったり、特にイギリスとかデンマークとか、そちらの国では結構注目をされている分野でございます。幼い子どもたちとか、いろいろな障がいを持った方とか、社会に生きづらさを感じている人たちにとって、家族と、友人と一緒に楽しめる、また、ここにも書かせていただきましたが、照明とか音響に非常に配慮した作品でございます。ですので、非常に参加しやすいというか、観劇しやすい内容になっております。

実際に、脳科学的とか神経学的なところで、赤ちゃんの月齢による五感の発達に十分考えられた内容というプログラムになっておりますので、非常にその辺も注目される一つの要因とはなっております。

ちょっと写真で映させていただいたのですが、こちら、日本で実施されたベビ

ーシアターの作品の様子になります。実際、私たちが実施する内容も、こういったイメージにそんなに乖離はないかなというふうに思っております。

赤ちゃんも保護者の皆さんもリラックスされた様子がこの写真からもわかると思うのですが、そんなに長い時間は実施しませんので、その辺のストレスは全く感じず、リラックスできるような空間づくりというのにも力を入れていきたいと考えております。

あと、幼児向けの作品になるのですが、代表作品としましては、「クラウン」を招致して観ていただきたいと考えております。この写真は、クラウン ヤマさんという方なのですが、ロシアのクラウンで勉強されて、日本に持って帰ってさまざまな活動をされている方になります。幼児向けの「クラウン」の作品としては、かなり日本では活躍をされている方ですので、ぜひ茅ヶ崎に呼んで、皆さんに体験をしていただきたいと考えております。

最後に、助産師さん、保育士さんによる子育て話ということで、ターゲットが、赤ちゃん、乳幼児の方となりますので、いろいろな悩みをもったお母さん、お父さんがいらっしゃると思いますので、その辺もフォローできるような形でしつらえをさせていただきたいと考えております。

内容については、以上になります。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑に移ります。大江委員長よろしくお願いいたします。

○大江委員長

それでは、10分ぐらい質疑を行いたいと思います。どなたからでもどうぞ質問をしてください。どうぞ伊藤委員。

○伊藤委員

どうもありがとうございました。

ことは、スタートもステップアップも芸術や文化を鑑賞するのが事業の具体的な核となっているものが多いのですが、午前中も総括質疑でお聞きしたのですが、500円という値段の設定について、この後に説明される方々の申請書等々を見られたと思いますが、どういった考え方で500円を設定かということをお聞きしたい。

○C. C. C. THEATER

500円に設定させていただいた理由としましては、1つは、大きく、まだなかなか知られていない分野ということもありまして、その辺の参加に対する敷居を下げたかったということがございます。作品自体は、2000円とかいただいても問題ない作品だとい

うふうには考えておりますけれども、まず、多くの方に参加をしていただきたいということもありまして、1つは500円という設定にさせていただきました。

あとは、我々C.C.C. THEATERとしては、子どもたちにいかに演劇作品を観ていただくかというところをトータルの考えたときに、子どもがワンコインで、芸術というか、舞台作品を楽しめるような環境がくれたらなという思いもございまして、そういった意味もあって500円という設定をさせていただいております。

○大江委員長

いかがでしょうか。

○伊藤委員

どうもありがとうございました。

それを受けて、日本の演劇の場合は、公的補助がないと非常に難しい、スポンサーシップがないと難しい状況だということは、よく理解していますが、今後、これを観た方が500円以上で鑑賞するようになるのか、あるいは、そういうことを想定されているのか、さらに、C.C.C.として、今後、500円という入場料金は、こういった公的な補助がないと継続できない。そういった、将来、観劇した方々にとって、それからC.C.C.にとって、500円という設定をめぐって、あるいは自己資金という考え方について、どういうふうに使われているか、大雑把にお聞きしたい。

○C.C.C. THEATER

500円ということに関して、全てそれで今後できるかどうかというのは考えてはないのですけれども、できる限りそこに向かってというふうには考えております。

来年というか、ことし、こういったチャレンジをさせていただいて、多く広報というか、認知していただいた上で、1つとしては、体験していただいたお客様にとっては、500円以上の価値があると我々は思っておりますので、それ以上の例えば、1,000円とかいただいたとしても問題ない作品だとは考えております。

ただ、むやみに金額だけ上げればいいとは考えておりませんので、ことしをいい機会に、市内とか企業様に広報というか、働きかけをさせていただいて、協力を仰ぐような形でできればと考えてはおります。

○伊藤委員

どうもありがとうございました。

スタートの場合と違って、ステップアップですので、そうした今後の継続性、C.C.C.にとっての継続性、それから、観劇者にとっての継続性というものを具体的に事業にもう少し組み込んでいただく努力があれば、完璧だなと思います。例えば、反省会とか、ある

いはお話し会とかになれば、仲間をふやしていく、議論をふやしていく、あるいは感動をふやしていく、そういう具体的な仕掛けを、芝居以外の、本番以外のところで展開したほうがいいような気がします。

○大江委員長

椎野さん。

○椎野委員

それでは、ちょっと質問させていただきたいのですけれども、とてもいい事業をおやりになっていらっしゃるということで、今、子育て中のお母さんたちは、孤独感とか、いろいろな焦燥感を持っているのですが、そういう方を対象にこのようなすばらしい事業をなさるのですけれども、じゃ、そういうターゲットにするお母さんたちにどうやって呼びかける、そういう方たちを早くいっぱい呼びたいのだけれども、じゃ、どうしたらそれが相手方につながるのか、来ていただけるのか、その辺は今いろいろな広報のことをお考えでしょうけれども、どのようにお考えでしょうか。ちょっと教えてください。

○C. C. C. THEATER

ありがとうございます。広報については、さまざまな方法を使わなければいけないかなというふうには考えておりまして、1つは、今までどおりSNSを使った広報をさせていただきたいと思っております。今まで、幼稚園さんでの公演とか、その辺の実績もつくらせていただきましたので、そういったところを通しての広報と、あとは、助産院さんとか、その辺の関係性も今つくり始めておりますので、その辺から周知していただけるように、足を使ってじゃないですけれども、チラシ配り等をできていければと考えております。

○椎野委員

ありがとうございます。

○大江委員長

では、岩壁さん、お願いします。

○岩壁委員

ありがとうございました。

ちょっと教えてもらいたいののですが、先ほどプレゼンでもご説明されましたけれども、「ベビーシアターの作品は、脳科学的・神経学的に裏付けされ」云々というふうに書いてありますが、大変専門的なお言葉をお使いになっていますが、情操の部分ではよく理解できるのですが、何か裏づけされたものがあるのでしょうか。ちょっと教えてください。

○C. C. C. THEATER

この作品ができ上がったのが、欧米というか、ヨーロッパのほうメインで立ち上がった作品でございまして、特にデンマークで盛んなのですけれども、裏づけというところの、誰がどう言っているというところまで、ここで答えすることはできないのですけれども、赤ちゃんの発育に、ここに書かせていただいた五感というのは、そういったところなのですけれども、発育に非常に役立つプログラムということで日本にやってきたというところで、すいません、具体的などころまで勉強不足で、申しわけございません。

○岩壁委員

わかりました。

○大江委員長

ありがとうございます。

それでは、最後の質問ということで。

○中川副委員長

ちょっと重なるかもしれないのですけれども、お聞きしたいと思います。

今回初めてのシアターということで、赤ちゃんの3カ月から18カ月ぐらいというのを対象にされて、新しいメニューとしてやられていると思うのですけれども、経験的に言うと、3カ月ぐらいの赤ちゃんとか、1歳児ぐらいまでの赤ちゃんを連れて外出するということがとても大変ですよね。2人子どもがいれば、それも大変ですし、なかなか個人的な、友達同士でも動けない、みたいなところがあるのですけれども、その辺は、今まで何か経験的に初めてのシアターみたいなことをおやりになったことがございますか。

○C. C. C. THEATER

昨年、C. C. C. THEATERで支援会という形で、「グリーン」という作品、ベビーシアターで「グリーン」という名前をつけさせていただいたのですけれども、それを実際にやらせていただきました。そこでの親御さんたちの反応とかを見させていただいて、その結果、十分に実施できるなというところは判断させていただきました。

○中川副委員長

わかりました。対象の方たちが、孤立とか、あるいは、必要としているかというところにどのようにアプローチするかというようなことを十分に考えていただきたいなというふうに思います。

○大江委員長

それでは、時間もありますので、これで質疑を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

○C. C. C. THEATER

ありがとうございました。（拍手）

○事務局

C. C. C. THEATERの皆様、お疲れさまでした。

それでは、2 番目、湘南Liebeの皆様、ご準備をお願いいたします。

それでは、「赤ちゃん和妈妈のためのコンサート」事業について、湘南Liebe様からのプレゼンテーションです。よろしくお願いします。

○湘南Liebe

湘南Liebeの代表をしております三輪と申します。そして、同じく役員のネモトノブコです。よろしくお願いいたします。

「赤ちゃん和妈妈のためのコンサート」、昨年、第1回のステップアップでげんき基金をいただきまして、現在もまだ演奏中です。

左にあるのが、この21日に行われますチラシをここに入れてみました。このような形のチラシで参加者を募っております。このようなチラシを、保育園、幼稚園など、郵送しまして、あと、広報掲示板、楽器店、文化会館などに置かせていただいて、あとは、参加するメンバーが自分たちのコンサートとかに直接手渡しをして宣伝をさせていただいております。おかげさまで、定員というか、40組ということなのですが、達しまして、既に締め切りをさせていただいております。

次の「みんなおんなじ」という、赤ちゃんを抱えて子育てに悩んでいるママ、周りの環境になじめないで悩んでいるママ、孤独を感じているママ、そんなお母さんに伝えたい言葉「みんなおんなじ」が昨年同様、今回もこれは私たちのコンセプトですので、これをコンサートで伝えていきたいと思っております。

そして、次に、私たちができること。これは、子育て支援を行うさまざまな企画があると思います。私たちもその一環を担いたいと考え、今年度2019年度も継続して行っていきたいと思っております。

私たちができることは、私たちは音楽家の集団であります。なので、生演奏の提供が最大です。音楽の力は、人の心、体に刺激を与えます。スポーツ選手が競技の前に好きな音楽を聴いて、自分自身を高めてすばらしい記録を残したり、もので言えば、お酒など、日本酒など、モーツァルトの音楽を聴かせて発酵させると、まろやかなお酒に仕上がると言われております。これは、音楽の音の周波数、α波が刺激をしていると言われております。

そして、音楽を聴いて穏やかな気持ちになった後、助産師さんによるお話で、相談、また、ほかのお子様の様子など、情報交換の場所を提供しております。

リピーターのママも、この3月21日のお申し込みの中で、ちょっとデータが古かったのですけれども、3分の1ほどお申し込みの方が既にいらっしゃいました。

そして、今年度、私たちのできることの一つに、12月にホールでのイベントも予定しております。

では、次は、コンサートの内容です。これも継続していますのと同じように、今年度も第1部は生演奏30分ぐらい、そして第2部は助産師さんのお話40分に、質疑応答20分という形の内容をさせていただいております。おむつ替えのコーナー、授乳室を設けて、床はマットを敷いて自由に動けるということで、音楽を楽しんで、子どももお子様もお母様たちも楽しんでいただけるような内容にしております。

また、プロジェクターを使いまして、お話と音楽「はらぺこあおむし」。これは2017年から私ども初めております。これはずっと行って、これが一番好評のような気がします。でも、これだけですとマンネリ化してしまいますので、新規に「14匹の朝ごはん」とか「11匹のねこ」「てぶくろをかいに」など、今、ほかにもたくさん手がけようとして準備中でございます。

そして、助産師さんですけれども、今まで1人だったのですけれども、非常に人数がふえてしまいましたので、2人体制で行っております。

これは、コンサートの様子です。6月に行われたコンサート、白十字林間学校さんと、10月、茅ヶ崎市民文化会館のミニホールで行いました。これは、10月1日から市民文化会館がオープンいたしました。それで、残念なことにリハーサルする時間がここの場所ではできなかったのですね。そのときに、プロジェクターをお借りしまして接続するという作業があったのですけれども、これがうまくいかなくて、絵なしで音楽だけでさせていただきました。

そして次です。アンケートをいつもいただいております。これはご来場者の声です。子どもと一緒に踊っているとか、体を揺すっているとか、非常に多かったです。あと、また参加したいという言葉も多かったです。

そして、その次のデータですけれども、ブルーが2017年、グリーンが2018年。まだ3月が終わっていないので、もう一つアンケートをふやせるのですけれども、ここで見るように、「コンサートを何で知りましたか」。これは、やはりチラシが一番多いですね。そして「そのほか」というのは、先ほど申し上げましたように、私たち演奏者とか助産師さんが直接手渡しでお伝えしております。チラシを配って、どうですかというお声がけをしていらっしゃった方です。あとは、広報掲示板とか、広報紙、多いですね。ネットというのはなかなか厳しくて、自分で情報を探さないとわからないのですね。赤ちゃんを抱えて非常に忙しいママ、それを探すのすら困難だと思います。直接手渡しして、本人の目にとまる。そこから私どもの湘南Liebeのホームページを開いていただいて、そして、

こんなのをやっているのだということで参加される方が非常に多いです。ですので、一方的にネットで情報を流すというのは、ちょっと厳しいかなと。人の力を借りて、声かけが必要だと思いました。

そして、次ですけれども、今回、お話と音楽も新しいのを進めたいと思います。そのほかに、新企画で12月に小ホールで、赤ちゃん和妈妈のためのコンサートを行いたいと思います。

右側に映っているのは、2018年12月に行いました私どものクリスマスチャリティーコンサートの様子です。もう14回行って、今年度、私ども、15周年という記念の年になります。ですので、午前中に「赤ちゃん和妈妈のためのコンサート」を行って、午後・夜間でクリスマスチャリティーコンサートを行えばいいなというふうに、今話を進めております。演奏者は非常に大変なのですけれども、頑張ってみたいかなと思っております。

そして、最後になりますけれども、クリスマスのステージの様子を見ていただきたいと思います。

これが今回コンサートで行いまして、マリンバ演奏の「そりすべり」です。

これを聴いていただいて、私のプレゼンを終わらせていただきたいと思います。

(演 奏)

以上をもちまして、私のプレゼンです。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑に移ります。大江委員長よろしくお願いします。

○大江委員長

それでは、ご質問のある方はどうぞ。草野さん。

○草野委員

赤ちゃんシリーズで、茅ヶ崎市は、赤ちゃんをすごく大事にする、すごく支援をしていただいて団体があるのだなということで、すごく感心しました。というのは、私も今、自分が育てているわけじゃないのですけれども、娘が赤ちゃんを育てているので、すごく興味を持って見させていただきました。もう15年やられているということで、素敵な団体だと思います。

その中で、ちょっとだけ聞いておきたいことがありまして、今、構成員が16人という形でこの資料には載っています。今回の事業体制の中に6人の名前しか載っていないのですけれども、これはどういうことなのかなということだけ、ちょっと心配したのですが。

○湘南Liebe

すいません、事業体制はどこに載っていましたっけ。

○草野委員

この資料で言うと120ページに載ってまして。

○湘南Liebe

これは、作業をするときに動いているお名前です。奏者はまた別にいます。実は私たち全員がほとんど奏者です。スタッフもいますけれども。それで、ここには6人しか載っていません。

○草野委員

わかりました。ありがとうございます。

○大江委員長

ほかの方、どうぞ。伊藤委員。

○伊藤委員

どうもありがとうございました。子どものための企画が、あるいは子どもに関する企画が今回は非常に多いのですが、ただ、図書館の業界で話題になっているのが、お話し会をたくさん催すところがふえたのですが、SNSで発表できない。というのは、児童文学の全国団体を中心に、口述権に対する厳しい考え方があるんですね。皆さんの新しい作品は、どういったものか、ちょっとご説明いただきたいのと、それから、そうした口述権等々、著作権上は、全ての著作物に対する、複製に対する規制がすごくかかるので、こういった、子どもの、先ほどマリンバの演奏をこういった場で、公開の場で公開することがいかなものかという方々もなくはないので、そういった問題についてどういうふうにお考えなのか。今後、新作ということなのですからけれども、文学の世界では、複製に対して非常に強い意見を持っているようなのですけれども、いかがでしょうか。

○湘南Liebe

私たちが新規に手がけようとしているのは、小学校とかでも取り上げられているような作品です。どちらかというと「はらぺこあおむし」のような、かわいらしいというか、子どもの興味を引く絵、それにお話し会とは違いますのは、楽譜で私たちが演奏すること。私たちがそこを基本にしながら、歌に変えたり、楽器のパートに変えたりして、自分たちでつくっております。それを絵に合わせて発表させていただいているというのが基本です。それなので、1つの作品をつくるのにちょっとお時間がかかります。もちろん

音にしたり、楽譜に起こしたりということがあります。

そして、マリンバの演奏をこういう場所でと申し上げますのは、湘南Liebe、ホームページを持っております。そこには全部流しております。一応奏者の許可もとって、全部流しております。これが宣伝にもつながるという。絵だけだと、どんな演奏をするのでしょうか。変な話、だませますよ。絵だけだと、とてもプロみたいに見えて、どんな音を出すかわからない。でも、私たちは、自信を持って、奏者はプロとして皆さんきちんとやっていますので、このような場所でこんな音を、ちょっとスピーカーがあれなので割れてしまいましたけれども、実際は本当にきれいな、割れていない音で、これだけの演奏をするものをそろえております。

そして、これを持ってきたのは、クリスマスコンサートというのがどんな状況でやっているのか。私たち、いつも照明さんも全部お願いして、いろいろな絵がついたりとか、今回、スノーマンなのですけれども、これがクリスマスツリーだったりとか、ポインセチアのお花を並べて、そういう雰囲気を出していますよというので、今回、最後にこの絵を持ってきました。

○伊藤委員

「14匹のあさごはん」というのはどういったものなののでしょうか。

○湘南Liebe

「14匹のあさごはん」は、ネズミのシリーズものなのですけれども、すいません、私、きょう持ってこなかったのですけれども、14匹のネズミが、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、そして子どもたちがいて、朝目覚めて、朝ご飯の支度をして、パンを焼いて、みんなで食べる。ストーリーはそれだけなのです。それにきれいな森の絵が出たりとか。

○伊藤委員

皆さんがおつくりになったものなのですか。

○湘南Liebe

いえ、それは絵本であります。シリーズです。たぶんご存じの方は。お子様がいたりすればわかると思いますけれども、シリーズになっています。

○大江委員長

椎野さん、どうぞ。

○椎野委員

ありがとうございました。

今のご質問の続きなのですが、「14匹のあさごはん」というのは私も知っています。そして「はらぺこあおむし」もみんな知っているのですが、私も子育てのグループで、0歳から乳幼児まで、100組くらいの親子さんを集めて活動しているのですが、そのときには、お弁当を出すとか、いろいろながありますよね。リズムにのって、すごく子どもが喜ぶの。これ、あえて「14匹のあさごはん」を選んだというのは、何か意図がございますか。

○湘南Liebe

まだ「14匹のあさごはん」というのは決定していなくて、このようなものというこ
とで出ただけです。今、つくっている段階で、これが果たして0歳から3歳の子どもた
ちに「はらぺこあおむし」のような感じでできるかどうかというのは、今、模索中という
のですか。これだけではなくて、まだほかにも2〜3個、今、候補に出しているものがあ
ります。でも、やはり「はらぺこあおむし」が一番好きなのですね、子どもたちは。あと、
ほかに音楽、先ほど言ったように、手遊び歌とかも入れております。あと、楽しい絵をつ
けての童謡ですかね。そういうのもやっております。

○椎野委員

ありがとうございます。

○大江委員長

水島委員どうぞ。

○水島委員

ありがとうございました。「14匹のあさごはん」もなかなか楽しそうな話だなと思
いながら見ていましたけれども。

実は、いただいた資料の中で、120ページなのですが、上のほうに「障がい
を持ったお子様もママも一緒に参加でき」というような表現があったのですね。メニ
ュー的に、小さいお子様を対象のものということですから、結構共通する部分があっ
て、一緒に楽しめるメニューなのだなと思いながらいるのですが、そういう方たちにこ
ういうような催しがあるというのが届かないといけないなと思ったのですが、先ほど
幼稚園と保育園とかというようなお話だったのですが、そういうお子様たちの保護
者とか、そういうところにも少し届くような工夫とかというのは考えられていますか。

○湘南Liebe

なかなかそこだけピックにしてという宣伝が行き届いていないというか、難しいかな

というところですね。私たち湘南Liebeの最初の基本は、障がい用施設で演奏したことからスタートしているのです。そこで生演奏したときに、子どもたちが非常に反応を示して、そのときに私たちが感動を受けて、湘南Liebeをつくりましょうということで発足している会です。ですので、今までの15年の歴史の中で、障がいの養護学校さんとかも演奏しに行っています。ただ、なかなかお声かけするのが、親御さん関係もありますので、難しいです。目につくようにチラシはいろいろなところに置かせていただいて、ウェルカムという状態でコンサートを行ってはおります。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

市民活動サポートセンターにもご相談されたりすれば、そういうところに関連する団体のご紹介とかをたぶんしていただけたらと思うので、そういったルートも使いながら広報されるといいかなと思います。

○湘南Liebe

わかりました。

○大江委員長

それでは、これで終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

○湘南Liebe

ありがとうございました。（拍手）

○事務局

湘南Liebeの皆様、お疲れさまでした。

それでは、3番目の団体、ちがさき開智舎様、ご準備をお願いいたします。

○ちがさき開智舎

ちがさき開智舎と申します。よろしくお願いします

○事務局

それでは、ちがさき開智舎様で「探求型学習による思考力の強化… “のびしろを深掘りする学習支援事業” …」についてプレゼンテーションをいただきます。よろしくお願いします。

〇ちがさき開智舎

よろしくお願いします。

私どもは、学習支援事業を湘北地区の香川に置いて、のびしろクラブとして運営をさせていただいております。

現在、生徒数は21名。これは、全部香川小学校の生徒さんです。

スタッフは15名。そのほかに協力者、賛同者は、かなりの人数をいただいております。

毎週火曜日の15時30分から17時まで、小学1年生から6年生までの生徒ですが、国語と算数を基本で、無償で支援をさせていただいております。また、通学途中の事故等を考えまして、これも私どもの負担でボランティア保険に全員加入をさせていただいております。

生徒は、時間的には早い生徒は2時ぐらいに来る生徒も低学年の場合はおりますので、15時30分とうたっておりますが、実質的には13時30分以降はいつでも入れるような状態で支度しております。

生徒が来られますと、まずは、きょうの宿題はどうなのかということで、まず宿題を終わらせることを基本にしております。そして、その後、時間がある場合は、私どもで用意したドリル、これは、来る前に全部、どこまでその生徒が前回進行しているか、それを全部把握した上でのドリルのコピーを用意してあります。それは先生がどの先生が見てもわかるような状況の資料作成をしております。どうしても違う先生が生徒を見る場合がありますので、一貫性を欠くと、生徒は非常に不安になると思いますので、誰しも、どの先生が見てもその状況がわかるように、全てコピーをしてドリルの用意をさせていただいております。

ドリルが終わりますと、先生は採点をされるわけですが、先生がその採点の後は、いろいろまだやりたいことがあるということで、非常に間違えることもあるのです。それは、火曜日の以後、事務方のほうで再度生徒の採点のチェックをさせていただきます。

そして、やはり間違いのところは直し、それと同時に、これはちょっと保護者の方に伝えたほうがいい、問題点がありますと、そこにコメントをつけて保護者にフィードバックしております。これは非常に時間がかかるのですが、保護者の方から非常に感謝の言葉をいただいておりますので、これはぜひとも時間がかかっても続けようと、今、非常に努力をしているところでございます。

そして、今までの結果として、今後、プラスでというのは今回のステップに書いてあるのですが、読解力、思考力の強化の必要性をすごく感じております。というのは、問題を解決していく関係で、その問題をなかなか的を射て捉えていないのじゃないかという答えが出ています。これは、実は最近、皆様ご存じだと思うのですけれども、茅ヶ崎の小学校の学力というのは、全国平均のレベルをちょっと下回っております。それは算数、国語に関してですけれども、これとすごく一致するのかなというふうに思っておりますので、

基本というのを考えていくと、思考力というか、読解力というか、そこに今後の重点を置かざるを得ないのかなというふうに考えております。

それと、次年度よりは英語というものが問題としてすごく出てまいります。私も学校に関して、ちがさき開智舎とは違うようなボランティアをさせてもらっているのですが、学校の中でもまだ問題が山積しているようでして、保護者の方からの要望等もございます。しかし、今現在は、国語、算数というものを土台とせざるを得ないと。そして、この1年、学校で英語がどのような格好で生徒に対処されていくか、そういうものを把握してから、考えざるを得ないのかなと。ただ、その時期は決めておりません。ただ、今からスタッフは何人ももう既に用意のほうはできております。ですから、それがどういう格好でこれから私どもの開智舎として対処していけるかというのは、まだ発表の段階ではございませんが、準備のほうは少しずつさせていただいております。

それと、資金についてなんですけれども、先ほど申し上げたように、ボランティア保険とか、コピー台とか、そういうのを全て私どもの中で賄っておりますので、資金については、各団体の基金をお願いするとともに、個人の賛同者からの寄附、それと会員。これは今、私ども、先ほどスタッフ15名と言いましたけれども、その中での会費、それを一つの大きなものとしております。

それと、自己資金、いわゆる資金としては、香川自治会のバザーへの出店、茅ヶ崎市民ふれあいまつりの出店、その他催し物、いわゆるサロンと言われるようなところに行って、物を売らせていただくと。これは、会員協力者から寄附されたもの、それと、ボランティアの方々に依頼して、私どもで製作したエコたわし、これは、洗剤の要らない環境に優しいということでやらせていただく。それとマット。これは座布団であります。お年寄りの方がサロンに行くときに持って行って、簡単に洗えるというもの。あと、小物入れと。そういったものを自己資金の要として、バザー等、出ているところに行きまして、させていただいております。

あとは、これらの資金なんですけれども、できれば月に1回そういうようなところに参加させていただいて、自己資金を少しでも多くしていきたいと思っています。

非常に辛いところなのですが、春になりますと生徒がふえます。ふえると経費がかさむと。うれしい悲鳴なのですね。特にことは、実は6年生がいなかったもので、今21名いるのですが、これにプラス5～6名となってくると、またその経費がふえていくということで、そういう自己資金の努力というのをしていかなければならないかと思っております。

以上でプレゼンを終わらせていただきます。よろしくお願いします。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑に移ります。大江委員長よろしくお願いいたします。

○大江委員長

それでは、質問のある方、どうぞ手を上げて質問。どうぞ高橋さん。

○高橋委員

どうもありがとうございました。

事業計画の中で、読解力チャレンジコースと情操教育強化コースということなのですが、限られた時間の中で行っていくことだと思うのですが、情操教育を強化するために茅ヶ崎交響楽団の鑑賞等とかというふうにありますけれども、ほかに、例えば、どういったことを考えられているのかなというのを知りたいなというふうに思ったのと、もう一点なのですが、読解力の話が先ほどありましたが、物品購入の見積りのところで、「少年少女日本文学館」とか「おもしろくてやくにたつ子どもの伝記」、紙芝居舞台及び紙芝居10巻、もろもろあるかと思うのですが、これというのは、「少年少女日本文学館」というのは昔からお話を集めた書籍みたいな、ナントカ全集みたいな感じなのですね。ですね。これは本当に私の個人的な考えなのですが、書籍というのは、別に新しいものじゃなくても全然いいと思うのですね。今、本のリサイクルとか、中古とか、図書館なんかで借りるということもできるので、こういうところは、自分だったら経費を抑えるというふうに考えちゃうのですが、そこら辺もちょっとお聞かせ願えたらと思います。

○ちがさき開智舎

書籍については、私どもで図書コーナーを持っております。かなりの本を、市の図書館からの処分されるものとか、あるいは、会員とかその他から集めて、それなりの書籍は持っております。先ほど言われました、今後のこととしまして、要するに、昨年度、私どもにおかげさまで援助していただきまして、無料で生徒を連れていくことができましたので、今後もそういうような努力というのは、費用をかからずにやっていくということを心がけなければいけないというふうに思っております。

それと、思考力、そういう意味で、先ほど言った図書館、図書の購入とか、ここに書いてあることなのですが、一つずつ一つずつ、時間をもってやっていくという意味合いで、一遍にこれがどうのこうのということではなく、少しずつ生徒の時間というものもありますので、考えております。

それで、時間的なものなのですが、夏休みをいかに利用するかということで、一応、来年度の31年度に関しては、8月の火曜にも一応予定を全部スタッフはあけております。そこで、読解力に関するもの、思考力に関するものを割り振る時間にしていきたい。要するに、極力普段の時間に食い込まないようにしていきたいという格好で努力をしていきたいと思っております。よろしいでしょうか。

○大江委員長

今、質問に関しては、本は新品じゃなくてリサイクルのものでも大丈夫かという質問だったのです。

○ちがさき開智舎

それは、間違いなく、私どもでも自分のところでそれなりの本の冊数を予定して置いておりますので、それ自体はプラスアルファというふうに考えていただければありがたいかなと思います。

○大江委員長

わかりました。

石田さんどうぞ。

○石田委員

プレゼンテーション、どうもありがとうございました。

1件、簡単な質問で恐縮なのですけれども、現在6年生がいないというお話があって、卒業しちゃっていますからね。実際、こちらさんに入られて、やめてというか、来なくなってしまう生徒さんの割合というのはどれぐらいあるか、お聞かせいただいてよろしいでしょうか。

○ちがさき開智舎

今まで1人しかおりません。それと、出席率はかなりのパーセンテージで、8割5分を超えていると思います。

○石田委員

ありがとうございました。

○大江委員長

中川さん、どうぞ。

○中川副委員長

質問といいますか、教えてほしいのですけれども、こちらは無償の学習塾で、お子さんは無料ということですね。そういうことで来られて、ボランティアさんでスタッフの方たちもほとんど無償で、夏休みも開けて対応されているというふうなことでやっていらっしゃるということですね。

○ちがさき開智舎

はい。

○中川副委員長

今の時代に珍しく、ワンコインも取らずに、子どもたちが集まれる場所で、勉強を教えてもらえるなんていうのは、とても助かる場所だと思うのですが、どのようにして今後、大変なことに人数がふえ、電話のボランティアのスタッフの方たちも必要になるということになってくると、どのようにして継続していかれるというふうなことを考えていらっしゃいますか。

○ちがさき開智舎

ボランティアということで、例えば、いいスタッフがいても、交通費がかかると、例えば、平塚のほう、秦野のほうにいい方がいても、残念ながらそこに声をかけることは、現状できておりません。いかに茅ヶ崎市内、極力自転車に来ていただける、交通費を使わずに来ていただけるという方をお願いするかということで、これは、365日、今の会員がネットを張りまして、どなたかがいるといえ、とりあえず、月1回でも2回でも来ていただかないと。その努力は365日しております。それがないと、残念ながら、今おっしゃられるように、これから生徒はたぶんふえる一方だと思うのです。あるいは、自治会等、香川の小学校等で認知されてきておりますので、そういう意味では、いかにスタッフが多く、できれば生徒、せめて2人に1人は先生が欲しいということで、今はそれなりの準備はできておるのですが、今後は、それを一番の努力せざるを得ない部分の一つだと考えております。よろしいでしょうか。

○大江委員長

ほかはございますでしょうか。どうぞ岩壁さん。

○岩壁委員

どうもありがとうございました。

1点だけ教えてもらいたいのですが、香川小学校との連携がすごくあるのだろうと思いますが、その場合、生徒さんのすみ分けみたいなものは行っているのですか。

○ちがさき開智舎

それは全くしておりません。あくまでも入会希望があれば受けていきたいということで、あと、自治会の回覧、広報、私どもの言う広報、これは「のびしろクラブ」という通信がありますので、それを回覧板のほうに入れてやります。あくまでも希望があれば、拒否することは、現状はしておりません。ただ、今後、生徒がふえてくると、保護者の方の

経済的なもの、これは加味せざるを得なくなっていくかなというのは、一つの心配事として持っております。一つの家でやっていますので、拡大するとなると、公民館とか、そういうところをお借りするような格好にしていかないと、一軒の家ではちょっと難しいかなということで、その辺も一つの頭の痛い問題として、生徒がふえるのはうれしいのですが、大きな問題として持っております。

○岩壁委員。

どうもありがとうございました。

○大江委員長

伊藤さん、どうぞ。

○伊藤委員

どうもありがとうございました。

休眠預金という大きなお金がどういった動向になるかはわからないのですが、一般的に日本のこういった助成金は、管理費であるとか経常経費、あるいは、組織助成とか機関助成という言い方をしますが、非常に冷たい。げんき基金も、そういった意味ではなかなか出ないと思うのですね。したがって、残る道は、ここに書いてある賛助会費であるとか寄附をふやすしか、今の日本の現状ではないのですが、特に、ステップアップ支援の方々は、賛助会員であるとか寄附を、このお金をベースにして、単なる消耗備品であるとか消耗品だけではなくて、何か事業の中に寄附者をふやしていく、寄附金をふやしていくという努力を、仕掛けをつくる必要があると思いますが、どういうふうにお考えでしょうか。

○ちがさき開智舎

賛助会員の方からの寄附という格好でこちらの書類も出ておりますが、その集め方は、これからも継続してまいると同時に、やはりその方たちの中の、また話を広めていただいて、紹介していただいて、そちらに出向くと。それと、いかに早くNPO法人の資格を取るか。これがあるかないとでは、寄附金の集め方がちょっと違うような気がいたします。これは、商店街等を回っておっても、正式な領収書等の問題という意味合いもあって、そういうような私どもの自助努力もしなければいけない。その中では、いかに寄附金をどれだけ集めていけるかというのが、それは事務方のほうの私どものやり方として、物を売るだけではなく、これはボランティアにつくってもらっていますと、原価はすごく、原資だけこちらで渡せばいいので、あとは全部私どもの中で使える金になってまいりますので、それはすごく助かっている部分ですので、そういう意味合いで、寄附金の項目をふやしていくと同時に、もう一つ、自分たちで考えて、売れるものをボランティアの方につくっていただいて、その販売をしていく。寄附だけでなく、物を売る、その2つをして

いかないと、なかなか難しいのかなというふうに思っております。

○大江委員長

ありがとうございました。

時間がまいりましたので、これで終わらせていただきます。

○ちがさき開智舎

どうもありがとうございます。（拍手）

○事務局

ちがさき開智舎の皆様、お疲れさまでした。

それでは、Hearts（ハーツ）の皆様、ご準備をお願いいたします。

それでは、「バリアフリーフェスティバル」について、Hearts（ハーツ）様からのプレゼンテーションです。よろしくお願いします。

○Hearts（ハーツ）

よろしくお願いします。

昨年もスタートアップで皆さんにお話をさせていただいて、今回はステップアップという形でお話をさせていただくことになります。

「バリアフリーフェスティバル」という形で名前を変更したのも理由がありますので、後ほど説明したいと思います。

まず、僕自身、美容を通して全ての人を笑顔にしたいという思いがあります。これは僕自身のたぶん生涯を通したテーマになるのではないかなと、最近感じています。

一応、美容と地域と福祉という3つの項目を組み合わせることができるのが、今回のイベントの目的になるかなと考えているのですが、僕が提案しているファッションショーというのは、「関わる全ての人が笑顔になる地域のためのファッションショー」というものを前回提案させていただきました。

実際、前回お話をさせていただいて、どんなことをやるのかわからないという意見が結構多かったのですね。障がいのある子たちがステージに立って主役になるというイメージがわからないということだったりとか、僕自身がどういったことを考えているのかわからないという意見が結構多かったのと、質問でも、ムービーは何に使うの？ということも結構あったので、そこで、今回そのムービーを流させていただきます。2分半程度なので、見ていただけたらと思います。

（ムービー）

今観ていただいたムービーをつくらせていただいて、いろいろな形で発信させてもらっています。僕自身、前回考えていたのが、その人らしい笑顔が本来あるべき自信、人と

のつながりというキーワードのもとに会を開催しました。「心のバリアフリー」という表現も、なかなか賛否分かれるところなのですが、僕は今、ほかに表現が見当たらないので、使わせてもらっています。

過ごしやすい地域につながればいいかなと思っています。過ごしやすい地域づくりのために、市民の温かい人柄とか、親しみやすさ、ホスピタリティを高めることができるイベントなのかなと思っており、それが過ごしやすい地域づくりの一つのきっかけになればいいかなと思っています。

障がいがあっても輝ける、主役になれるというものを地域の子どもたち、または地域に住む方々に伝えていきたいなと。

3つ目です。美容室を社会資源として地域に生かすムーブメントをつくる、と書いてありますけれども、美容室というのは、日本でたくさんの方にありますので、それをもっと地域に根ざした場所として発信することによって、地域の過ごしやすさだったりとか、いろいろな形で社会資源として生かせるのじゃないかなというふうに思っています。

前回のムービーに関して、SNSだったり、たくさんの方で発信させていただいて、大体、7,000回の再生と、50シェアをしていただいて、たくさんの方に観てもらえたなというふうに実感しているのと、そういったところから、うちでもバリフェスをやりたいという全国各地のご意見をいただきました。それだけ魅力的に観ていただいたのかなというふうに思っていますし、これは自信を持って、茅ヶ崎から全国に発信できるイベントになるのだと実感しました。

その後なのですが、今回、文教大学の学生とのコラボレーションというのをすごく力を入れていたので、聳塔祭でも障がいがあるお子様と学生がコラボレーションするイベントというのを開催しました。これもすごく良かったです。福祉とかそういったものに興味がある学生ばかりではなかったのですが、ファッションショーだったら出たいということで参加してくれました。

左下の髪の毛が灰色の男の子がいるのですが、この子は、ことしの4月から原宿の服屋さんで働くことが決まっている子で、おそらく福祉とか障がいとは無縁のところにいるような子だったのですが、実際、このイベントを通して、すごくいい刺激になったし、すごくいい経験ができた。たぶんこれからの自分の人生にとってすごくいいきっかけになると思うという話をさせていただいたように、知らないということがどれだけ考えだったりとか可能性を狭めているのかなと思うと、もっともっとたくさん発信していいかなと思っています。

その後、文教大学の聳塔祭の学長賞をいただいたりとか、タウンニュースだったりとか、あとは、学校紹介の冊子でも、イベントだったり、その運営をメインでかかわってくれた学生たちが取り上げてもらいました。

ことしはどういうイベントを開催するのかというところなのですが、基本的な内容は前回と変わりません。これは前回の最後の集合写真なのですが、スタッフ、

出演者合わせて90人ぐらいの方々に手伝っていただきました。お客さんは大体400人の人が入ったかなというふうに思うのですけれども、基本的なテーマだったりとか、目的は変わりません。

今回は、改めて高齢者の方が輝けるイベントにしたいなと思っています。僕自身、考えとして、過ごしやすい地域、地域力を考えたときに、輝く高齢者というのは絶対必要なもので、それは、僕が去年イベントをやる前からずっと考えていたことです。

このメイク・オブ・マジックというのは、平均年齢82歳のファッションショーです。これは、僕が以前銀座で開催したのにかかわらせてもらって、すごくいいなと思ったのと、80を過ぎてくると、どうしても生きる目的みたいなものを失う方が多いと伺うのですけれども、こういったものが地域で開催されることがわかると、そこに向けて、リハビリテーションだったりとか、日々の過ごし方というのがガラッと変わると思います。80を過ぎて人前で輝けるのだというのがわかったときに、おそらくその後の人生は、彼女たちにとって、また新しいものが生まれる可能性になるのかなと思っています。

もう一つは、これは「ゴールドコンサート」という東京国際フォーラムで毎年行われている、障がいを持っている方がプロを目指す音楽コンサートです。プロを目指しているもので、本当にうまいです。右のピアノを弾いている方は、目が見えないのですけれども、すごく上手で、たしかCMとかで使われるような音楽をつくったりしているのですけれども、ここも主催のバリアフリー協会というところが僕の活動にすごく協力をしてくれるという形になり、おそらくここでかかわったアーティストの人も出てくれるのじゃないというふうになっております。

僕自身、2017年からSDGsの関連イベントにもかかわらせていただいていますので、ことし6月にG20があるのでのですけれども、そこでMusic for SDGsという音楽、ファッションを通じた世界に広げる平和の輪というのがテーマで、今回は女性活躍というものがテーマのイベントを開催します。

これは何が言いたいかというと、今、SDGsファシリテーターという立場が絶対的に必要になってくるので、僕は、自分自身の美容の活動と、あとは、このイベントを通して、こういった項目に対してアプローチできるのじゃないかなと思っています。茅ヶ崎、どうしても介護とか福祉、藤沢とかに比べると遅れていると言われがちなのです。すごくそれは僕としては嫌なので、もっともっと新しい形で、世界、日本全国に発信できるようなことをしていきたいなと思い、ことしやりたいイベントとしては、「関わる全ての人が笑顔になる地域のためのフェスティバル」というものと、美容、ファッション、アートを通して、SDGsの認知度を高めるようなイベントにできればいいなと思っています。

以上です。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑に移ります。大江委員長よろしくお願いします。

○大江委員長

では、どうぞご質問のある方。伊藤さん、どうぞ。

○伊藤委員

どうもありがとうございました。大変うまくいっているのではないかと思います。

ステップアップ支援で重要なことは、149ページに書いてある、あるいは、質問に対する回答書の29ページに書いてある、事前質問の2の欄だったと思うのですが、7つの団体の協力を得ていると。今のプレゼンテーションでも、90の方々を組織した。そして、SDGs、あれは17もあって、たくさんの兎を追いかけて、果たしてどうなるやらと。そのうち、廣田さんは4つを軸に。要は、今後は、そういったものをまとめていく力が廣田さんには今現在あって、この仕掛けには、それをどういうふうに継承していくか、拡散していくか。内外でですね。全国で5つの市の方々が呼応したということですが、1つは、私のような助成をずっとやっている者にとっては、記録とか記憶をどうやって保存し、それを広めていくかと。今のムービーのようなものを含めてですね。というのが大事だと思うのですが、具体的にステップアップ支援の段階において、廣田さんの力、あるいは能力をどうやって拡大していくか、そういった方策、あるいは具体的な事業について考えているか、お聞かせください。

○Hearts（ハーツ）

答えと聞かれている内容と一致するかわからないのですが、今、僕自身が1人で動いているようなイメージが強いのです。なんですけれども、もっともっとチームをつくってって、特に、地域力というものを高めていくことが必要だと思うので、もともとの主にあった地域の美容師さんたち、美容室の人たちが賛同できるようなイベントにして、地域の美容師さんが盛り上げるイベントという立ち位置も一つ完成形のビジョンにはあります。

なので、今現在動いているものとしては、このムービーだったりとか、去年の活動をもとにして、茅ヶ崎の美容室だったりとか、あとは、茅ヶ崎ですごくおもしろい活動をしている団体さんに声をかけさせていただいて、一緒にここのイベントを盛り上げてくださという話は、もうしていますので、そういうことを考えると、僕一人の力だけでなく、もっとたくさんの人たちが一緒に支えるイベントになるのかなと思っていますし、前回参加してくれたボランティアの方々は、ほとんどは福祉とか入り関係の方々なので、なので、そういう方々が普段悶々としている思いだったりとか、もっとこうしたいのという部分を消化できる場所としても、今回のイベントはすごく効果があったかなと感じていますので、そういった人たちの思いも乗つけることができれば、僕だけじゃな

くて、多くの方々の思いと行動が形になるイベントに成長するのかなと思っています。

○伊藤委員

ぜひたくさんさんの価値、たくさんさんの背景を持っている方々をまとめる事業として強く意識して、この事業の発展を願います。

○Hearts（ハーツ）

ありがとうございます。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。どうぞ、草野さん。

○草野委員

前回のファッションショーがすごく素晴らしいということで、ものすごく好評だったということを耳にしております。今年度の事業の中に、高齢者を対象にしている部分があるのですけれども、先ほど聞いたら、65歳以上とか75歳以上じゃなくて、80から100歳程度というところまで狙っているみたいなのですが、その辺を考えると、高齢者への周知とか配慮、その辺はどのようにお考えなのでしょうか。

○Hearts（ハーツ）

今、僕自身が普段の活動として、高齢者施設に髪の毛を切りに行っているのですね。そこでファッションとか美容にすごく興味があるおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいるので、そういった会社さんだったり団体とお話をしていて、1つの施設から1人ピックアップしていただいて、リハビリテーションも全てコーディネートするような形で、当日に向かうというような流れは、イメージしています。

○草野委員

ありがとうございました。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。北川さん、どうぞ。

○北川委員

大変素晴らしい事業に、またプレゼンテーションがわかりやすく、本当にちょっと突き抜けているなというふうに感じております。

今回の収支予算書を拝見いたしますと、クラウドファンディングを入れていらっしゃる

るところで、工夫として入れていらっしゃるのかなと思うのですが、そのあたりをご説明いただけますでしょうか。

○Hearts（ハーツ）

実際、前回のイベントでファッションショーをやるというのでお話をさせていただいたのですが、急遽「生きるを伝える写真展」という写真展も同時開催することになったのです。それは何でかという、僕自身が運営でかかわっているからというのと、すごくメッセージ性が強い写真展だったからなのですね。脱毛症とか乳がんで髪の毛がなくなった女性たちがモデルになった写真展。たぶん普通だったら考えられないし、もしかしたら炎上するのじゃないかというようなレベルのものなのなのですが、でも、すごくメッセージ性あって、それを見ることによってたくさんの方々に勇気を与えることができると思っていたので、それを実際に茅ヶ崎でイベントと併設して開催することを考えると、ちょっとお金が足りないなという部分だったりとか、すごく楽しそうなイベントだから、私も参加したいといろいろな方々に言っていただいて、正直ちょっとお金が回らないなと思って、前回、クラウドファンディングをさせていただいて、わりといい感じで資金調達できたので、ことしもそういった形でクラウドファンディングを使って資金を調達しつつ情報を発信するという、両方の形ができれば理想的かなと思っています。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。これまでご発言がない方もぜひ。どうぞ中川さん。

○中川副委員長

すごく単純な質問で申しわけないのですが、本業は美容師さんですよね。どこかでお店を構えて。

○Hearts（ハーツ）

茅ヶ崎でやっています。ぜひいらしてください。

○中川副委員長

茅ヶ崎やっっているが、これだけの市民活動をおやりになって、時間をどうやって配分されながら、すごい大変。寝る暇もないのじゃないかというような気がしますが、そうでもないのですか。

○Hearts（ハーツ）

独身なので、自由に使っています（笑）。

○中川副委員長

体を壊さないようにやってください。

○Hearts（ハーツ）

ありがとうございます。

○大江委員長

まだ少し時間がありますけれども、僕が指名してもいいですか。物すごくうなずきながら聞いていた秦野さんは何か質問ありますか。

○秦野委員

本当に素敵なムービーありがとうございました。私からは質問というよりは、コメントの部分なのですが、現在、私も浜見平で交流スペースの運営をしまして、そこで活動している団体さんの中には、地域、高齢者の方が多いので、いつまでも生き生きと生きがいを持っていられるようなヘアメイクの仕方などの活動をされている方もいらっしゃいます。ぜひそういう方にもきょうのムービーを観てもらって、一緒にできるような連携が進むようなこともぜひ進めていきたいなというふうに思いましたので、引き続きたくさんの人に知ってもらえるということを力を入れながら取り組んでいていただきたいと思っています。ありがとうございます。

○Hearts（ハーツ）

ありがとうございます。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

結構みんな圧倒されているのじゃないかと。私はそうなのですが。どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

Hearts（ハーツ）様、お疲れさまでした。

それでは、最後の発表になります。劇団湘南山猫の皆様、ご準備をお願いいたします。

それでは、「劇団湘南山猫オリジナル音楽劇場公園『鹿踊りのはじまり』（原作・宮澤賢治）」の事業について、劇団湘南山猫様よりプレゼンテーションをいただきます。よろしくお願いします。

○劇団湘南山猫

よろしくお願いいたします。皆様こんにちは。劇団湘南山猫です。

私たちは、今から27年前、平成4年に、演劇好きや音楽活動をしていた子連れの母親たちで旗揚げした劇団です。その当時、小さな子ども連れで楽しめ、大人にも味わい深く、なおかつ、低料金で観ることができる舞台が少なかったので、そのような舞台を志して、旗揚げしました。

私たちの作品は、童話や民話をもとに脚色し、オリジナルの歌を作曲して、生演奏のある音楽劇としてつくっています。子育てや仕事を通して、社会から感じられるさまざまなことを皆で話し合い、作品につなげていきます。

劇場公演では、外部の演出家に脚本や演出をお願いすることもあります。

この写真は「100万回生きたねこ」の公演の写真です。

これは「王様の耳はロバの耳」の公演の写真です。これは、ステップアップの支援の2回目のげんき基金の支援をいただきました。

一方で、小規模な作品は自分たちで構成、演出して、学校や幼稚園、公民館などで出前公演をしてきました。その場合は、経費のみをいただいています。

この写真は、小学校体育館で行われた「地獄のそうべい」の公演の写真です。

これは、子どもたちが観ている様子です。

これは、「地獄のそうべい」での楽士の生演奏の様子です。

また、小学校2年生の教科書に載っている「スーホの白い馬」というお話も公演しました。

作品によっては、何度もリメイクを繰り返して、再演を続けてきたものもあります。私たち自身が27年間活動してきた間に、感じ方にも変化がありました。

これは「ブレーメンの音楽隊」の写真です。「ブレーメンの音楽隊」では、初演のころには、仲間との出会いや、仲間の中での自分の居場所づくりというメッセージが込められていましたが、再演を重ね、飼い主から「役立たず」と追い出された動物たちが希望をつかんでいくメッセージも込めていきました。

これは「注文の多い料理店」という宮澤賢治の作品です。小規模な作品としていろいろな場所で出前公演をしてきました。この写真は、森をあらわしている大道具の一つです。このように、稽古場メンバーみんなで大道具をつくっています。

メンバーは、それぞれが仕事や子育て、介護を抱えているので、時間をやりくりして、できるだけ全員が集まれる時間帯に稽古場をとるように調整しています。ちなみに、稽古は、主に茅ヶ崎の公共施設で月に6回から8回、10時から17時、または13時から17時に行い、芝居稽古や歌稽古はもとより、大道具、小道具、衣装の製作なども行っています。道具類をつくる時には、車での運搬の便や、収納しやすい面を考えて、布類を利用することが多いです。使い古しのネクタイやシーツ、カーテンなどのリサイクル品を活用して、なるべく経費を抑えるように工夫しています。

劇場公演のときには、赤字にならない範囲で、できるだけ安いチケット料金を設定す

るように心がけています。家族連れや幅広い年齢層の方たちにも楽しんでいただけるような作品づくりを目指しています。そして、劇場公演では、日ごろ劇場での観劇をする機会の少ない養護施設の子どもたちにもご招待して楽しんでいただいています。後日、子どもたちや先生から感謝のお手紙や絵をいただくことが多く、それは私たちにとって大変励みになる宝物になっています。

今回、げんき基金に申請したのは、宮澤賢治の童話「鹿踊りのはじまり」の音楽劇公演です。同じ宮澤賢治の「注文の多い料理店」を公民館や学校などで出前公演をし、その世界に親しむ中で、同じ童話集におさめられている「鹿踊りのはじまり」という作品に出会いました。鹿の動きを表現する東北の伝統舞踊の「鹿踊り」に宮澤賢治が着想を得た童話です。

「鹿踊りのはじまり」では、土を耕して暮らす開拓農民の嘉十が登場し、嘉十が自然の中で鹿たちと出会い、交差する様子が魅力的に描かれています。鹿の会話や動作もおもしろく、自然描写も美しく、スケールがあります。この作品を音楽劇として、照明や設備があり、私たちにとって身近な茅ヶ崎市民文化会館の劇場で来年2月に公演します。あまり知られていないこのお話の魅力を多くの方たちにお伝えしたいと思っています。

それでは、最後にここで劇場の中の歌を1曲歌おうと思います。どうぞお聴きください。

(歌)

どうもありがとうございました。(拍手)

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑に移りたいと思います。大江委員長よろしく願いいたします。

○大江委員長

ありがとうございました。

それでは、どうぞご質問をお願いします。伊藤さん。

○伊藤委員

「鹿踊り」、全世界的にも、あるいは東北、日本で、さまざまな形があると思うのですが、7万円かけて「鹿踊り」の映像資料を手に入れるというのが、私にとってはちょっと気になります。というのは、「鹿踊り」の記録映画というのは、戦前から、あるいは戦後間もないころ、岩波映画とか、いろいろなところでつくっていると思うのです。経費的には7万円なのですが、編集費とかそういうのが入っているので、今の作品のような形だったらば、あまり強く主張なさらないほうが、重きを置かないほうがいいような気がするのですね。「鹿踊り」の原型は非常に魅力的なのですが、宮澤賢治は、私は専門家ではあ

りませんけれども、確かにそこに発しているのです、そこを発したところをあらわせばいいと思うのですが、あまり深い解釈を生むよりは、広く「鹿踊り」を全世界的に、あるいは全日本的に見たほうがいいような気がしますし、そういった意味で、7万円も手間ひまをかけずに、皆さんの作品であらわしたほうがいいと思いますので、「鹿踊り」について、皆さんいろいろなことを書かれているのですけれども、どういうふうに思っているのかなというコメントと質問です。

○劇団湘南山猫

まだ脚本が決定していなくて、未決定のところが多い中で、私たち自身の調べ方も少ない中で申しわけない回答なのですが、確かに、宮澤賢治がとても親しんでいた「鹿踊り」、主に花巻の「鹿踊り」だと思うのですけれども、お話の中には「鹿踊り」は一つも出てこないのですね。それで、単純にお話だけをやると、嘉十が出て、鹿が出て、そのお話なのですけれども、そうすると、お客様の中には、自分たちの身近にも、「鹿踊り」というのは獅子舞でしょうか、みたいな、「鹿」と書いて「シシ」と読むのをご存じない方も多くて、そうすると、「鹿踊りのはじまり」というのは、何も予備知識がないまま観ると、どこが「鹿踊りのはじまり」なんだろうという部分もありますので、最初に、本物の「鹿踊り」を映像でお客様にご紹介をして、子どもたちにもわかるように、そこに言葉を添えて、それで、その後、お話を始めるという、大まかにそういうふうに考えていて、お金のことは、私たちも申しわけないとしか言いようがなく、調べれば、もしかしたらもう少し経費が安く済むかもしれないのですけれども、今の段階で、東北の自然の中で「鹿踊り」を踊っている映像がいいという意向があります。そういう思いがありますので、それをポンと、どこかそういうものがあればいいんですけれども、ない場合は編集とかいろいろ考えて、あと、それを映写する場合の費用も一応計上して、ああいう値段になってしまいました。

○大江委員長

よろしいでしょうか。

資料用に入手するのではなくて、公演の際に使うということなのですね。

○劇団湘南山猫

はい、そうです。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。どうぞ。

○水島委員

説明どうもありがとうございました。

今回、チラシを2万枚ほどご用意されるという内容で、会場のほうは、全体の384席の6割という想定です。いっぱいになるのは難しい数字だということで6割にされているのかなと思うのですが、その一方で、要は、切手代等が250枚分というような数字なのですが、2万枚をどうやってPR用に配布されていくのか、教えていただきたいと思います。

○劇団湘南山猫

2万枚というのは、私たちの今までの経験上、チラシをまいた方の中の一部の方がいらっしゃると思うのですが、チラシは、今回2回公演ですので、380何席×2倍で考えて、かために6割入場率で予算立てをいつもしているのですが、それをできれば2回公演で満席にしたいと思っておりまして、そのためには数で勝負で、あちこちに2万枚。例えば、具体的に申し上げますと、市の教育委員会の後援をいただいて、公民館ですとか、図書館ですとか、市のかかわりのある施設に置いていただいたり、あるいは、小学校では、今、チラシは配布できませんので、幼稚園にお願いして、まいていただけたところはまくということと、あとは、メンバーは、今まで長く演劇をやってきましたので、演劇の仲間ですとか、音楽、劇団の関連のネットワークを使って、チラシを広くまいたり、あるいは、申請書にも書いたのですが、生協の組合員に、配布手数料を払いますが、バーツとまいていただくとか、あとは、関連の宮澤賢治ですとか音楽絡みのイベントがあったときに、劇場に主催者にお願いして、チラシを入れ込んでいただくとか、そうすると、2万枚ぐらいは。足りなくなるよりはいいと思って考えています。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。北川さん、どうぞ。

○北川委員

大変素敵なお公演を最前列で見せていただきまして、ありがとうございました。

今回、こちらはステップアップ支援ということになりますので、既に長くやってこられたという実績がある中で、現在抱えられている団体の課題、また、今回の補助金を使うことによって、どのようにステップアップするのかということを教えていただけますでしょうか。

○劇団湘南山猫

課題は、みんな仕事とか子育てとか介護を抱えながら、8人いるメンバーが全員そろわないと共有して稽古ができませんので、その稽古、10時から5時までの稽古を、あと

半日の稽古ですね。できるだけそれを調整して稽古場を押さえる。みんなの時間を共有した時間で押さえることが一つの課題と、あとは、経済的な無理のない、自分たちが無理のない形でいいものをつくっていきたいということで、今まで自分たちの状況で無理のない状況で、しかもいいものをするというのが、結構それは難しいのですけれども、話し合いながらそれを、これからはそれはお金を大事にしながら、しかもいいものをする、あとはみんなで共有した時間を持ってというのが課題だったと思います。

○大江委員長

草野さん、どうぞ。

○草野委員

私も東北の生まれで、「鹿踊り」は、その昔観たような気がしています。先ほど目の前で、ああ、そうだったなという感じで、感動して観ていました。

そういうことではなくて、質問は、この団体さん、もう27年やっているのですよね。今現在は8人の構成というふうに聞いていますけれども、ここ最近の構成員の推移というのがわかれば教えてください。

○劇団湘南山猫

大体同じぐらい。ふえているときもありましたけれども、減ったときもあるけれども、大体同じです。メンバーはほぼ全部同じなのですが、公演によっては、外部の市民の方の参加者を募って、もっと大人数での舞台をつくることもあります。

○草野委員

わかりました。ありがとうございます。

○大江委員長

では、時間になりましたので、これで終了させていただきます。

どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

劇団湘南山猫様、お疲れさまでした。

以上で予定しておりました5団体からのプレゼンテーションが終了いたしました。

スケジュールですと、このまま総括質疑とさせていただいておりましたが、ここで10分間程度の休憩を設けたいと思います。

15時ちょうどより総括質疑とさせていただきますので、各提案団体の皆様、委員の皆様は、15時までにお席についていただきますようお願いいたします。

それでは、休憩とさせていただきます。

【ステップ総括質疑】

○事務局

それでは、15時となりました。これから総括質疑を開始いたします。

市民活動推進委員より質問がございますので、お答えいただく提案団体の皆様は、マイクをお席にお持ちいたしますので、お答えください。

それでは、大江委員長よろしく申し上げます。

○大江委員長

皆様どうもお疲れさまでした。これより総括質疑に移ります。

まず、総括質疑とはどういうものかということですが、事務局で用意した文章を読ませていただきますが、市民活動をより発展させて、今後、市の中でこうしたものがよりよい財産となって蓄積されていくようにという意味で、建設的な発言、ご質問、議論をできればというのが趣旨でございます。市民活動の特性である公益性や専門性等に視点を置いて、日ごろの活動をする中でお感じになっていることや、活動に参加してお感じになっているところをいろいろと発表していただきながら、会場の皆様が自分の活動の成長や、さらに公益的な事業に発展していく展望が持てるといったような部分で議論を展開していくことができればと考えています。提案者の皆様については、提案した事業について伝え切れなかったところ、さらにアピールしたいポイントなどを改めて発言していただいても結構です。ということで、委員、会場の皆様から自由なご発言をいただきたいということでございます。

午前中も申し上げましたが、ライブもありましたが、発表自体がライブなので、それを聞きながら、いろいろと感じたところがおありだったと思いますので、そういう刺激を受けたところから、率直に発言をしていただければと思います。どちらからでも結構です。時間は大体15分を予定しております。どうぞご発言いただければと思います。

北川さん。

○北川委員

皆様、大変お疲れさまでした。さすがステップアップ支援に応募される皆様だなと思う発表の数々だったなというふうに思いました。

今回、げんき基金の形での支援ということでお集まりいただいておりますけれども、皆さんが活動をされている中で、もっとこういう支援があったらいいのというような感想というか、普段思っていらっしゃるようなことをお聞きできればいいなと思って質問させていただきます。皆様に対するご質問であります。

○大江委員長

北川さん、こういった支援がというのをちょっと補足して。つまり、このげんき基金の枠の中で、もっとこういうことができればということもありますし、それから、それ以外の何か、げんき基金ではつかまえ切れていない部分ということもあるかと思いますが。

○北川委員

わりと広くというところですね。例えば、こういう書類をつくるというところで、今、サポートセンターが相談の受け口になっているのかなと思っておるのですけれども、それ以外にもこんなサポートがあったらいいのにとか、そんなざっくりしたところでよろしくお願いします。

○大江委員長

では、どなたからでも結構です。どうぞ。

○Hearts（ハーツ）

去年、たぶん皆さんにお話をさせていただいたと思うのですけれども、バリアフリーフェスティバルを見てくれたという方、いますか。

（挙手する者あり）

ありがとうございます。今年観に来てください。いろいろ資金の面だったりとか、いろいろ考えてくださるのは大変ありがたいのですけれども、やっぱり皆さんに観ていただいて、皆さんの口から、げんき基金でこういうことをやっているよというのを発信していただけると、より発信力も高くなると思いますし、僕らとしても、点でというか、線でつながってられるなというふうに思いますので、そういう形でげんき基金を支援する人とされる側のつながりが強化されるとありがたいと思うのと、できれば先に報告会をやりたかったです。前半5分分が、話したくても言えなかったことが結構あって、なので、助成金のタイミングとか、あると思うのですけれども、先に報告会ができて、その上でステップアップ、来年こういうことをやるよということと言えたほうが無駄がないかなと思いました。

以上です。

○大江委員長

ありがとうございます。

何か市側から今の短いコメントがありますか。それとも、聞かせていただいたというだけでいいのでしょうか。

○事務局

市民自治推進課の前田です。いつもお世話になっています。

どうしても年度内、まだイベントをやっていない事業とかもあるので、本当は私たちも、中には3年連続の事業とか、そのほうが効果的な事業とかもあるので、そうしたときは、報告会をやって、そのままプレゼンテーションとか、そういった流れがベストなのですけれども、どうしても都合があって、今の形に落ち着いて、なるべく後ろのほうの日付でプレゼンテーションの機会を設ければ、連続して年度をやっておったものも、大体3月だったら終わっている団体のほうが多いので、やってみたらこうでした、翌年はこうやりたいというような展開が臨めるかなとあって、この日付を設定させてもらっています。

先ほど、バリアフリーファッションショーを観られましたかというご質問をいただいたのですが、いろいろな団体さんの情報をいただいて、ここ数年、ご意見の中では、審査する委員さんも、ぜひ私たちの団体の活動を見てほしいというご意見をいただくことがあります。情報を提供いただいて、それを委員さんに逐一チラシとかをお渡しして、こういう機会がありますよというふうな促しをしたりするのですが、また、ぜひ来年度の事業も、こういうイベントがありますよという情報が確定したりしたら、ぜひ市民自治のほうにチラシとかをお寄せいただいて、そうしたら情報提供をさせていただきますので、よろしくお願いしたいなと思います。

○大江委員長

この委員会は月1ぐらいでやっているのですが、情報が事務局に届けば、委員会のときに我々のほうに伝えていただけるので、ぜひお願いします。

ほかはいかがでしょうか。どうぞ。

○益永

今の報告会とプレゼンの流れのことなのですが、大和市の補助金は、事業年度を4月から2月までにしているのです。そうすると、ぎりぎり3月に報告ができたりするのでいいかなと思います。

それと、Hearts（ハーツ）さんのすばらしいファッションショーができたのは、市役所の市民自治推進課の方のすごい努力と、それから、どうやったらあの場所が使えるかなと知恵を絞ってくださって、見えないところで市役所の方々のご協力があつたので、これからは取り組まれる団体さんは、ぜひ関連する部署とご相談されながら連携されると、場所の確保とか、開催場所の工夫とかもできるのかなと思って、これは、団体さんの補助金なのですが、行政と一緒にいい活動ができるということを応援してもらっていて、成功の裏には職員さんのすごい努力があつたなということを皆さんにお伝えしたいと思います。

○大江委員長

ありがとうございます。

さっき途中でも言いましたけれども、サポートセンターのほうもいろいろご相談に、決まってから、実施の段階に入っても、当然サポートしてくれますし、今のお話のように、推進課のほうも非常にオープンな人たちがそろっているのも、別に市役所の業務であるという感覚にとらわれないで、できることをやってくさると思いますので、実施段階でいろいろご相談いただくというのはとてもいいことだと思います。

ほかはいかがでしょうか。伊藤さん、どうぞ。

○伊藤委員

今のことに少し関連するのですが、ステップアップ支援にとって大事なものは、先ほどちょっと申し上げたことなのですけれども、げんき基金をはじめ、日本の助成金というのは、管理費であるとか、あるいは組織に対するステップアップであるとか、機関の助成、そういうものになじまない仕掛けになっている。しかも単年度主義というものがおうおうにしてある。したがって、何をしなければならないかという、そういった資金を元手に、賛同者、いずれは金銭的な寄附に結びつく人を探し出す、あるいは仲間をふやす、そこがステップアップになってくると、資力、隠された大目標になると思います。

私、40年近く助成事業に携わってきましたが、思い返してみても、そういったことに優れた団体、事業というのは、記録や記憶をちゃんと残している、伝えている努力を、その事業の中に組み込んでいる。なかなかそういうことが難しいのだと思うのです。本番の、あるいは事業本体のことに忙しくて。でも、そのことが後から見ると大事だと。

その中で、きょう、午前中は受益者についてお聞きしたのですが、いろいろな関係者が皆さんステップアップになると出てくる。アンケートとか、そういう形で皆さんは今お求めになっていますけれども、ちゃんとしたそういった方々からの感想であるとか記録をとるように努力されることが一番いいのじゃないかと思うのです。主催した本人ではなくて、子どもたち、あるいは赤ん坊か、あるいは母親か、あるいは障がい者か、かかわった人たちの感想をちゃんと残していくことが、おそらくは仲間をふやしていく持続的な力になるような気がします。

私は、意見ですが、ぜひともそういったことに努力されることを願ってやみませんが、ほかにそういった形で、次の段階にステップアップするいい考えがあれば、ぜひお聞きしたいし、そういった記録や記憶を残すのにどういった工夫をされているか、皆さんからもお聞きできればと思います。

○大江委員長

今の伊藤さんの記録や記憶を残すという、それを事業の中でやっていくということについて、具体的にやっていच्छるところも少なくないと思いますが、今の問いかけに

対して、こんなことをやっているとか、こういうふうにやりたいとか、あるいは、やるためにこういうところをもう少し支援してほしいとか、ご意見がありましたらどうぞ。

○湘南Liebe

私たちは、先ほども申し上げましたように、ホームページをつくっております。そこに全部の記録をあからさまにオープンにさせていただいています。そして、今回、ステップアップ支援をまた申し込みましたのは、今後の活動を広げたいということもありまして、再度の応募になりました。その中で、今回はリーフレットも予算の中に入れてあります。そこに記録として、先ほどもおっしゃられたように、メッセージを印刷して、会場の皆様にお配りするというふうに考えております。

湘南Liebeです。

○大江委員長

ほかは、今の伊藤さんの質問に対して、お答えとかコメントがありましたら。

例えば、寄附をふやしていくとか、あるいは、ホームページをつくるのは、いろいろな形で今広がっていると思いますけれども、そういったことに関しても、サポートセンターのほうはご相談に乗っていただけるのでしょうか。特に、寄附をどういうふうに募っていくかということについての一般的な説明とか、あるいは、こういう工夫をしてうまくいっているとか、そういうことが情報として共有されれば、よりそれを知って、使えると思いますので、そういったことも準備をしてくださっていると思いますので、ぜひご相談いただければと思います。

何かほかのトピックはありますでしょうか。どうぞ。

○事務局

私も、かれこれ7年もここにいまして、そろそろ異動じゃないかと耳に聞こえてくることもあって、もしかしたら最後かもしれないので、せっかくの機会なので、初めて発言させていただきます。

推進委員さんたちが、日ごろ、年10回ぐらい会議をやって、こういった長い会議もありますし、2時間程度の会議もあるのですけれども、よく私たちに委員さんがおっしゃるのは、先ほどの記録のことです。過去の事業の記録とかをしっかりと残さなければいけないという話をよく求められます。

その記録はなぜ必要かというところですが、きょうのプレゼンテーションにつながるところがあって、1事業ずつの事業の採択・不採択を決めるのだったら、書類だったり、その会議にそのときだけ来てもらえば、それで完結なのです。わざわざ皆さんに集まいただいて、こういう冊子を残して、ホームページに公開してやっている理由というのが記録にあるところで、これから皆さんが事業をやって、事業が終わったら、実施報

告をいただく形になるのですけれども、そのときに、何が成功したのか、成功した要因は何だったか。何が失敗して、どうして失敗したのかというところが記録に残っていると、ほかの市民団体さんが、やれ事業を考えるととか、提案しようと思ったときに、そのコツとかノウハウがここに蓄積されている。そういったことの繰り返しというものが市民活動の発展に寄与するものなのじゃないかと、よく強く委員さんが私たちに求めてくる。

茅ヶ崎市の市民活動の発展を屋台骨で支えるということは、そういった記録を見えるように残すことなのかなと、日ごろ感じるところがあるので、ぜひ皆さんにわかるように記録を残していただけるように、日ごろの活動を続けていただけるとよろしいかなと、そのような感想を持ちましたので、ぜひご検討いただければと思います。ありがとうございます。

○大江委員長

それでは、総括質疑につきましては、以上で終了させていただきます。

どうもご協力ありがとうございました。

何か短くご挨拶ということで、前田さんはまだ異動になるか異動にならないかわからないのですけれども、私は、任期満了で今年度をもって退任ということは決まっております、こういう場でお話するのは、たぶんきょうが最後になるのじゃないかと思うのですが、本当にいろいろ考えさせられることが多くて、学ぶことが多かったというふうに思っています。

そういう中で、この活動、げんき基金とか、あるいは協働推進事業をこれからも続けていって、より豊かな成果が出てくるようにしていくためにはどうしたらいいかということや、これを常々考えることがありまして、前田さんにもそういうことをお話ししたりとかしているのですが、1つは、市として協働ということをどう考えているかということについて、発信していく必要があるのじゃないかと思っているのです。

この提案というのは、げんき基金と協働推進事業と、もう一つ、実はアイデア提案というのがありまして、これを今後どうするかと、今、議論中なのですけれども、この3つがあってやっているということの隠された意図みたいなものは、市民から自由に考えていただくことが必要だと。その自由な発想の中に非常にいいものがあるのだと。そこにあまり行政として枠を与えないほうが結果的にいいものが出るという思想だと思うのですけれども、僕はそれに関して若干疑問があって、そのやり方もあるけれども、もう少し全体に予算制約も強くなっていく中で、げんき基金はちょっと違う枠組みなのですから、こういうことがこれから必要になってくるのじゃないかという将来展望みたいなものですね。何らかの緩い枠組みを、1つじゃなくていいのですけれども、提示していくということが必要なんじゃないかなというふうに考えているところなのですね。これはいろいろ議論があるところで、それをやらないほうがいいという考え方もあるでしょうし、出すとしても、それはとても上手に出さなければいけないということだと思うのです。何かそれを少し

しないといけないかなという感じも持っているところです。

そういうことも含めて、自由に議論しながら、協働推進ということは続いていくというふうに思っております。

これからも、いい提案と、それから実施、そして、成果の公表に関しては、いろいろな媒体を使ってできるように、紙媒体だけじゃなくて、映像も音声も、著作権の問題もあるかもしれませんが、そういうものを蓄積していけるような仕組みもつくりながらやっていくと、とてもいいものになっていくのじゃないかなというふうに考えております。

きょうは一日、長い時間でしたけれども、非常に充実した時間を過ごすことができたと思っております。皆様のご協力に感謝いたします。どうもありがとうございました。

(拍手)

○事務局

大江委員長ありがとうございました。

それでは、最後に1点ご連絡をさせていただきます。

本日いただきましたプレゼンテーションを受けまして、補助金の交付決定に関する通知は、3月の末から4月の上旬を目途に通知をさせていただきます。よろしくお願いいたします

以上をもちまして、平成31年度実施市民活動げんき基金補助事業公開プレゼンテーションを閉会いたします。

皆様、お忙しい中、ありがとうございました。

委員長署名 大江 守之

委員署名 伊藤 隆

委員署名 石田 貴一